

平成21年度

# 国際標準化活動報告

平成22年3月31日

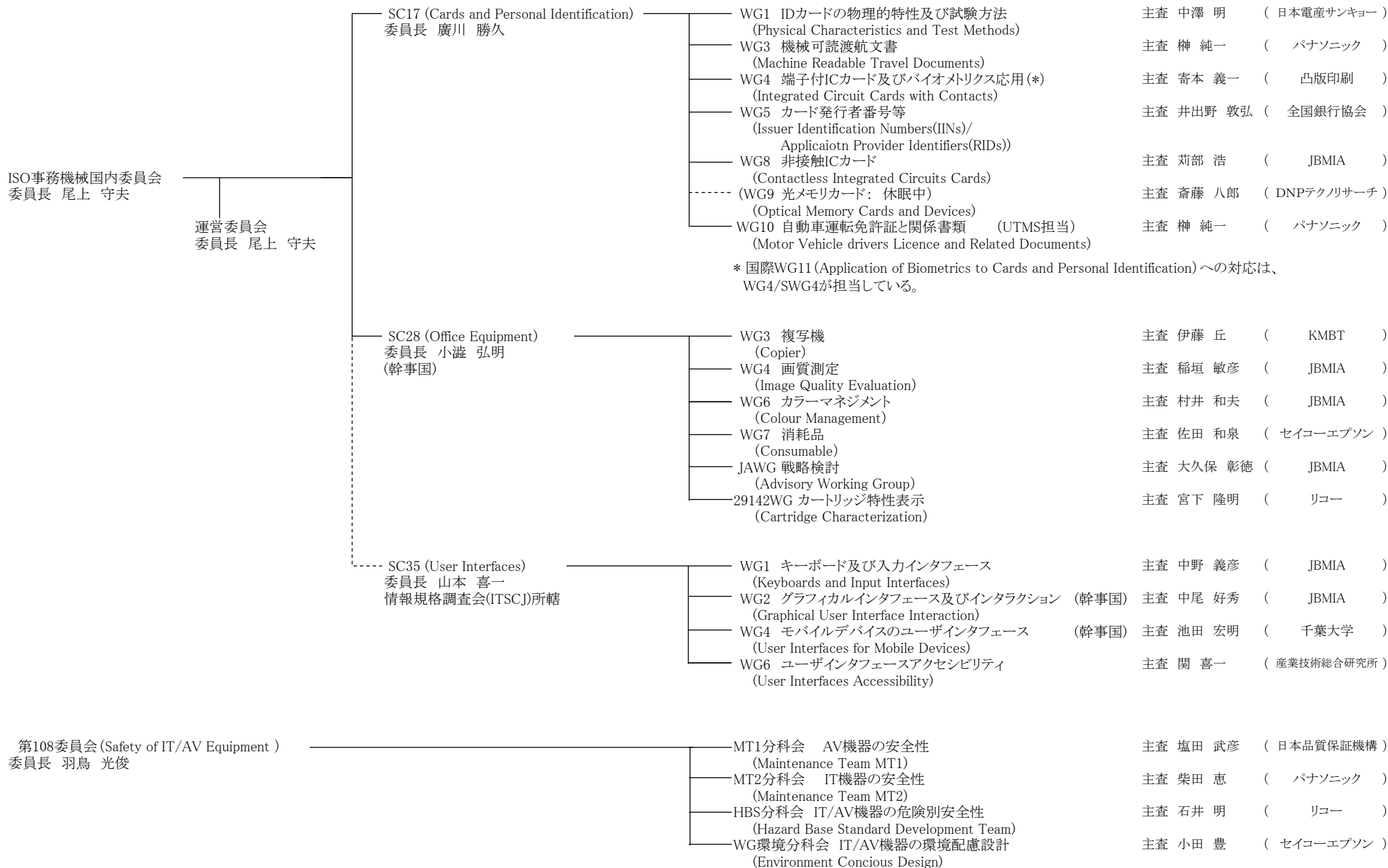
(社) ビジネス機械・情報システム産業協会 (JBMIA)

・ISO事務機械国内委員会

・第108委員会

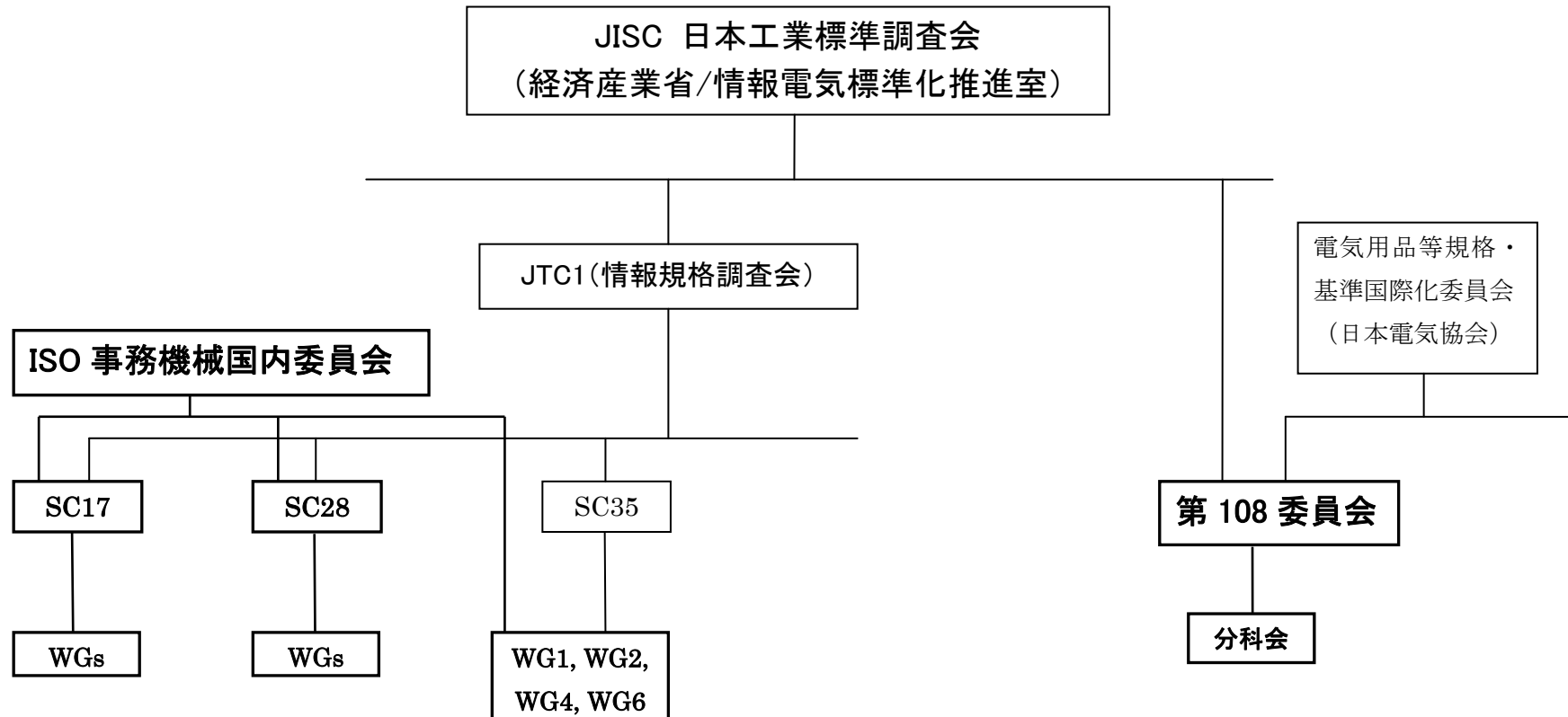
# 国内委員会組織図

平成22年3月31日現在



(参考)

「ISO 事務機械国内委員会」「第108委員会」の位置付け  
—外部組織及び JBMIA との関係—



凡例： **太字** JBMIA が事務局

組織名(事務局) 外部組織

## 目 次

1. ISO 事務機械国内委員会・同運営委員会 委員長 尾上 守夫.....	1
1-1 活動概況.....	1
1-2 今後の主要課題.....	3
1-3 SC 17 (カード及び個人識別) 委員長 廣川 勝久.....	4
1-4 SC 28 (事務機械 : Office Equipment) 委員長 小澁 弘明 .....	21
1-5 SC 35 (ユーザインタフェースインタラクション : User Interface Interaction) .....	36
2. 平成 21 年度 第 108 委員会活動結果報告書.....	48

## 1-1 活動概況

### (1) 総会および運営委員会

総会 1 回（平成21年5月）、運営委員会 2 回（平成21年4月、12月）を実施した。

### (2) 国際標準化活動

国際標準化活動において積極的に世界貢献を果たした。

#### 1) 国際会議委員派遣

51の国際会議に、延べ193名の委員を派遣した。

#### 2) 国際規格投票

以下の国際規格投票に対し回答原案を作成した。

NP投票	19件
CD（含むPDAM）投票	29件
FCD（含むFPDAM）投票	19件
DIS投票	0件
FDIS（含むFDAM）投票	15件
その他（定期見直し等）	6件
IS発行	12件

### (3) 予算・決算

平成20年度決算、平成21年度予算の承認および平成22年度予算案の作成を行った。

### (4) 各SCの活動

#### 1) SC17

SC17においては、国際規格投票の件数も多く（年間 56 件）、国際会議に積極的に参加し、活発な活動を行っている。更に、国際役職として、WG3/TF4 コンビナ、WG10 セクレタリ、WG4 および WG8 のプロジェクトエディタ、SC17 総会決議起草委員を務め、わが国のこの分野における貢献度の向上に引き続き努めている。わが国が目指す産業競争力強化の一環として、また、重点 TC のひとつとして各種カードの要素技術から利用システムに関わる提案を行ってきた。アクセシビリティに関連する日本提案の規格として、ETA（Enhanced Terminal Accessibility：カード所持者に適合したインタフェースを用いた端末利用の向上）が 2008 年 10 月に NWI として承認され、ISO/IEC 12905 として標準化が進められている。

また、平成 20 年度に SC17 国内委員会の直下に設置された二つのサブ WG で、積極的な活動を進めている。

SC17/SWG A（主査 谷内田 益義氏）では、国際 WG1 案件である ISO/IEC 24789（カードサービスライフ：用途別の耐久性を評価するための方法）シリーズへの対応のため、メーカーのみでなくユーザ団体の意見も反映するための体制を強化し、この活動に基づく寄書等によって国際貢献

をしている。

SC17/SWG B (主査 荻部 浩氏) では、国際 WG8 案件である ISO/IEC 14443 (近接型非接触 IC カード) シリーズと ISO/IEC JTC 1/SC 6 (通信とシステム間の情報交換) が担当する NFC (Near Field Communication 近距離無線通信) シリーズとのハーモナイゼーション (相互動作可能な条件の調整等) への対応のため、国内 WG8 委員に国内 SC17 の関係委員も加えて応用システム面からの意見も反映するとともに国内 SC6 のエキスパートとも連携し、この活動に基づく寄書等によって大きく国際貢献をした。当初のハーモナイゼーションの目標を達成し、JTC1/SC6 の検討グループにその成果を託し、当面活動を休止する。

## 2) SC28

SC28においては、6月に28総会を釜山市 (韓国) で開催した。参加人数は7カ国48名を数え、成功裡に終了した。席上、本年任期を迎える斎藤国際議長の再任が決議され、10月のJTC1総会において正式に決定された。又、3年間国際幹事を務めた熊倉氏 (リコー) が9月末に退任し、後任に杉山氏 (富士ゼロックス) が就任した。日本が主導的に活動しているAWG(Advisory Working Group) の下にOWGの位置付けで設置されていたPWG5を母体として、WG5 (オフィスカラー) が発足、活動を開始した。コンビナは中谷氏 (富士ゼロックス)、セクレタリは宮下氏 (リコー) が任命された。宮下氏はAWGのセクレタリとの兼任となる。

プロジェクトは、“カートリッジ特性”を包括的に規定する ISO/IEC 29142 が極めて重要であり、5パート全て、日本からコ・エディタを配して対応に万全を期している。

## 3) SC35

SC35においては、WG (WG1, 2(7含む), 4, 6) の審議はJBMIA、SC35 (WG5, 8含む) の案件審議は情報処理学会という役割分担であるが、実質的な審議はJBMIA内で開催するWGとの合同委員会において行われている。平成21年度は、特に日本提案のアクセシビリティに関する2件、アイコンデータベースに関する1件、4方向キーに関する1件の規格の審議のため、WG2,WG4,WG6関連の委員及び関係者が国際会議 (サスカトゥーン及びマドリッド) に多数出席するとともに、実質的な国際規格原案の作成を行うなど活発な活動が行われた。

## (5) JIS化作業

JIS化作業の積極的支援を行った。

- ・ JIS X 6932:2009 (カラー電子写真式プリンタ及びプリンタ複合機のトナーカートリッジ印刷可能枚数測定方法) (ISO/IEC 19798 IDT) : 制定
- ・ JIS X 6937:2009 (カラーインクジェット方式のプリンタ及び複合機のインクカートリッジ印刷可能枚数測定方法) (ISO/IEC 24711 IDT) : 制定
- ・ JIS X 6938:2009 (事務機械消耗品の印刷可能枚数測定用カラーテストページセット) (ISO/IEC 24712 IDT) : 制定
- ・ JIS X 6305-1:2010 (識別カードの試験方法—第1部: 一般的特性の試験) : 改正
- ・ JIS X 6305-2:2010 (識別カードの試験方法—第2部: 磁気ストライプ付きカード) : 改正
- ・ JIS X 6931:2005 (モノクロ電子写真プリンタ及びプリンタ複合機のトナーカートリッジ印字可能枚数測定方法) の正誤票発行 (平成 21 年 7 月 1 日)

## (6) 表彰

表彰規定により以下の各氏を表彰した。

堀伸彦氏(共同印刷)、宮田英紀氏 (シャープ)、石橋孝信氏(東芝)、宮下隆明氏(リコー)、

菅野浩樹氏(東芝テック)、長谷川静男氏(キヤノン)、長尾建司氏(セイコーエプソン株)、野村茂豊氏(日立製作所)、梅原稔氏(株NTTデータ)、中澤明氏(日本電産サンキョー)、朝倉久氏(日立製作所)

## 1-2 今後の主要課題

- (1) 国際的信頼を得るため、引き続きJTC 1/SC 28 幹事国業務を全面支援する。
- (2) 各SC、WGの規格審議を支援する。
  - 1) 事業への応募
    - ① 経済産業省の「社会環境整備・産業競争力強化型規格開発事業」、テーマ申請  
ーカード端末利用のアクセシビリティ向上に関する国際標準開発  
(SC17/WG4：新規)  
ー事務機器の情報アクセシビリティ向上のための国際規格開発 (ISO/IEC 10779 の改正活動。標準化センター/アクセシビリティ PJ より新規申請)
    - ② 新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) 事業、テーマ申請  
ーカード耐久性評価基準の国際規格化 (SC17/WG1：新規)
  - 2) 国際会議への積極参加  
延べ170名の派遣を予定
- (3) JIS化作業の積極的支援を行う。
  - ・ JIS X 6936:2005 事務機器ーオゾン、揮発性有機化合物及び粉じんの放射量測定法;改正
  - ・ JIS B 9527:2004 事務機器ーページプリンタの仕様書様式;改正
  - ・ JIS X 6911:2003 データプロジェクトの仕様書様式;改正
  - ・ JIS X 6302-6:2005 識別カードー記録媒体ー第6部：磁気ストライプー高保磁力;改正
  - ・ デジタル印刷における生産性測定方法 (ISO/IEC 24734)：制定
  - ・ デジタル複写における生産性測定方法 (ISO/IEC 247345)：制定
  - ・ JIS X 8341-xx 高齢者・障害者等配慮設計指針ー情報通信における機器、ソフトウェア及びサービスー第1部：アクセシビリティ設定 (ISO/IEC 24786:2009 対応)：制定
  - ・ JIS X 9303-5 情報技術ーユーザシステムインタフェース及びシンボルーアイコン及び機能ー第5部：ツールアイコン：制定 (ISO/IEC 11581-5 対応)
  - ・ JIS X 7779 音響ー情報技術装置から放射される空気伝搬騒音の測定;改正
  - ・ JIS X 8341-5 高齢者・障害者等配慮設計指針ー情報通信における機器、ソフトウェア及びサービスー第5部：事務機器;改正
  - ・ ISO/IEC 7811-9 Identification cards -- Recording technique -- Part 9: Tactile identifier mark (識別カードー記録技術ー第9部：触覚識別子マーク)：制定
- (4) 活性化施策を実行する。
  - ・ ホームページの充実と活用
  - ・ アジア太平洋地域各国との連携強化の方策を検討

**(1) 活動概況 (SC 17 全般及び北京総会)**

ISO/IEC JTC1/SC17は、カードと個人識別を対象とし、各種カードの要素技術から利用システム(クレジットカード・IC 旅券・運転免許証等)までを含む国際互換性に関する標準化と登録管理を担当している。SC17 国内委員会には、国際 WG (WG1~WG11) に対応する国内 WG に加えて、国内関係機関との連携強化を図るためのサブ WG を SC17 の直下または WG に設置している。SC17 とこれらの WG 及びサブ WG は単独または共同で、更に、関係委員会・関係機関と連携して国際標準化を推進している。後述の国際役職貢献とともに国際貢献の一環として例年どおり、林 義昭幹事長原案・木澤 誠顧問監修の日本国ナショナルレポートを SC17 総会に提出した。本年度は、

- ・ ISO/IEC 24789 (カードサービスライフ) シリーズに関して国内各関係機関が連携して国際標準化を進めるためのプロジェクト“SWG-A”の設置とその活動

を紹介した。

前年度に引続き日本意見の反映を優先課題とし、ISO 国際会議派遣旅費の支出削減を行なうよう運営しつつも後継者育成の機会創出も意識し、SC17 総会と各 WG・各 TF の国際会議及び SC 間・WG 間合同国際会議に委員が積極的に出席し、国際規格の制定活動に貢献した。

第 22 回 SC17 総会は北京(中)で開催され、わが国からは後述の 8 名が出席した。

本年度も、日本提案の NWI について国内外関係機関と連携して推進に努めるとともに、IC 旅券・運転免許証等に関する標準化活動を主導している。

WG3/TF4 (IC 旅券の試験方法) では日本が引続き国際コンビナを、WG10 (自動車運転免許証と関係書類) では日本が国際セクレタリを務め、国際標準化を推進している。

WG4 (IC カード) では米提案の ISO/IEC 24727 (IC カードプログラミング・インタフェース) シリーズの策定は一通り終了し、実用化へ向けて重要になる試験規格の審議に移行している。日本は将来の発展を阻害せず応用の広がり担保できるようにとの観点から継続して参加しており、大幅な構成や内容の変更も含む積極的な検討に貢献している。

また、日本提案の ETA (Enhanced Terminal Accessibility : カード所持者に適合したインタフェースを用いた端末利用の向上) は 2008 年 10 月に NWI として承認され、ISO/IEC 12905 として標準化が進められている。

WG8 (非接触 IC カード) では実験データに基づく提案によって ISO/IEC 14443 (近接型非接触 IC カード) シリーズの改訂に貢献している。

また、次節に示すようにカードの用途別耐久性評価に関する検討及び非接触 IC カードとその関連規格間のハーモナイゼーションに関する検討を継続している。

**(2) 国内委員会体制の特記事項**

SC17 国内委員会体制のうち、国際 WG11 (カード及び個人識別へのバイオメトリクス応用) 案件に関しては、平成 18 年度からサブ WG (WG4/SWG4、主査 坂本 静生氏) を国際 WG4 案件である ISO/IEC 7816-11 (IC カード-第 11 部 : 生体認証手法を用いた個人照合) 及び国際 WG11 案件への対応国内体制と位置付け国内両 WG の連携を強化している。

更に、平成 20 年度に SC17 国内委員会の直下に設置した二つのサブ WG が活動している。

国際 WG1 案件である ISO/IEC 24789 (カードサービスライフ : カードの用途別耐久性評価方法) シリーズへの対応のためのサブ WG (SC17/SWG A、主査 谷内田 益義氏) では、メーカーのみでなくユ



一ザ団体の意見も反映するための体制を強化し、この活動に基づく寄書等によって国際貢献をしている。

国際 WG8 案件である ISO/IEC 14443 (近接型非接触 IC カード) シリーズと NFC (Near Field Communication 近距離無線通信) シリーズとのハーモナイゼーション (相互動作可能な条件の調整等) への対応のためのサブ WG (SC17/SWG B、主査 荻部 浩氏) では、国内 WG8 委員に国内 SC17 の関係委員も加えて応用システム面からの意見も反映するとともに国内 SC6 のエキスパートとも連携し、この活動に基づく寄書等によって国際貢献をしている。

2010 年 3 月末で寄本 義一氏が国内 WG4 (IC カード) の主査を退任し、後任に坂本 静生氏が就任した。

ここに、国内 SC17 及び WG4 他で多大な貢献をされた寄本氏の功績に敬意と感謝を表したい。

なお、上記以外で対応国内委員会を設置していない国際 WG7 (金融取引カード) 案件、対応国内委員会が休会中の国際 WG9 (光メモリカード) 案件及び SC17 共通事項への対応案は SC17 国内運営委員会で策定している。

また、SC17 国内委員会会議・同運営委員会会議の年間開催予定を技術委員会 (JTC1 国内委員会) に連動するよう設定することによって、各 WG での案件審議時間を柔軟に確保できるようにしている。

### (3) 国際会議の開催及び出席者数等

#### 1) SC17 総会 (北京[中国]、2009 年 9 月 23 日～25 日)

参加国数/出席者数： 14 カ国， 2 リエゾン/計 35 名 (以下本項では敬称略)

議長 (Richard Mabbott, 英) , セクレタリ (Chris Starr, 英)

豪， 中， 仏， 独， 日 (廣川勝久[SC17/ECSEC]， 谷内田益義[東工大/リコー]， 中澤明[日本電産サンキョー]， 寄本義一[凸版印刷]， 井出野敦弘[全銀協]， 荻部浩[JBMIA]， 坂本静生[NEC]， 江村智之[JBMIA]) ， ケニア， 韓， マレーシア， 蘭， ニュージーランド， シンガポール， 南ア， 西， 英， 米

リエゾン: ICMA (International Card Manufacturers Association) , UATP (Universal Air Travel Plan)

#### 2) 各 WG 等の国際会議回数及び出席者

WG1 (3 回 10 名) 、 WG3 (4 回 5 名) 、 WG4 (4 回 9 名) 、 WG5 (1 回 2 名) 、 WG8 (3 回 15 名) 、 WG10 (3 回 8 名) 、 WG11 (2 回 3 名) 、 及び関係委員会としての ICAO (3 回 9 名) 、 SC6 SG (2 回 2 名) に対応した。

なお、WG10 対応については、(社) 新交通管理システム協会に委託の上、合同で推進中である。

#### 3) 規格投票件数及び制定数

本年度に行った規格への投票数及び制定数は、以下のとおりである。

NP : 11 件， CD : 24 件， FCD : 10 件， DIS : 0 件， FDIS : 6 件， SR : 5 件， IS : 4 件

### (4) 特記事項

本年度に注力した主要案件、今後影響を与える可能性のある案件等は、次のとおりである。

#### a) わが国の SC17 関連規格活動への国際役職貢献

わが国が目指す産業競争力強化のために、重点 TC のひとつとして各種カードの要素技術から利用システムに関わる提案を行なうとともに、わが国の技術を規格に反映させるため次の国際役職を務めている (以下本項では敬称略) 。

① WG3/TF4(IC 旅券の試験方法) コンビナ : 榊 純一 (パナソニック) -2004 年から継続

② WG10 (自動車運転免許証と関係書類) セクレタリ : 榊 純一 (パナソニック) -2004 年から継続

続

- ③ WG4 (IC カード) ISO/IEC 7816-1 (外部端子付き IC カードー第 1 部：物理的特性) 改訂プロジェクトエディタ：寄本 義一 (凸版印刷) -2008 年就任
- ④ WG4 (IC カード) ISO/IEC 7816-11 (IC カードー第 11 部：生体認証手法を用いた個人照合) 改訂プロジェクトエディタ：寄本 義一 (凸版印刷) -2008 年就任
- ⑤ WG4 (IC カード) ISO/IEC 12905 (ETA) プロジェクトエディタ：寄本 義一 (凸版印刷) -2008 年就任
- ⑥ WG8 (非接触 IC カード) ISO/IEC 15693-1 (近傍型非接触 IC カード：物理的特性) 改訂プロジェクトエディタ：苅部 浩 (JBMIA) -2008 年就任
- ⑦ SC17 総会決議起草委員：廣川 勝久 (SC17/ECSEC) -1995 年より継続

#### b) IC 旅券 (eMRP) の標準化

ICAO/NTWG が中心になり標準化を進めている IC 旅券 (eMRP) の技術レポート (ICAO-TR) 作成に、SC17 は外務省と共に積極的に参加し旅券への近接型非接触 IC カード技術の利用に関わる仕様策定に貢献してきた。国際的な運用では、このシステムを構成する IC 旅券及び読取装置の国際互換性のための統一仕様及び試験方法が必要となる。国際 WG3 では、試験方法に関する TF を設けて ICAO の協力の下に標準化を進めており、榊 純一氏 (パナソニック) が WG3/TF4 国際コンビナを務めている。IC 旅券の試験規格に関する ICAO 文書のうち RF インタフェースに関する部分は ISO/IEC 10373-6 の追補 (PDAM7) として作業が進められている。

#### c) ETA に関する関係国内委員会との連携

日本提案に基づく ISO/IEC 12905 (ETA) の標準化に際し、ISO/IEC JTC1/SC35 (ユーザインタフェース) 国内委員会との間で標準化内容の相互確認を行ない各々の標準化範囲と共通部分の整合性確保を図っている。

#### d) バイオメトリクス応用への対応

シンガポール提案に基づく、ISO/IEC 24787 (カード上で生体情報[指紋等]の入力・照合) は FCD 段階での検討が継続されている。また、日本から新たにバイオメトリクス応用のための新コマンド、PBO (Perform Biometric Operation) コマンドを ISO/IEC 7816 シリーズへ提案中であり、パート 4 を皮切りに規格本体への取り込み作業が進みつつある。これら規格への対応にあたっては、ISO/IEC JTC1/SC37 (バイオメトリクス) ・同 SC27 (情報セキュリティ) との連携が必要であるとともに、SC17 内でも複数 WG の連携が必要である。

このため、国内では前述のとおりサブ WG (WG4/SWG4) を編成し、国内の関係活動への影響をも考慮しつつ対応している。

#### e) 非接触 IC カード関連のハーモナイゼーション

ISO/IEC 14443 シリーズと NFC シリーズとのハーモナイゼーションについては、2008 年 9 月の SC17 Ad Hoc ベルリン会議での検討結果に基づき、2008 年 10 月の SC17 ロンドン総会で推進する方針が決議された。一方、2008 年 11 月の ISO/IEC JTC 1/SC 6 (通信とシステム間の情報交換) 総会では SG (Study Group) の設置が決議され、その後の JTC1 奈良総会で SC6 SG に SC17 からエキスパートが参加し協力して推進するよう決議された。これらの決議に基づき、平成 21 年度までに、SC6 SG 会議が計 3 回開催され、NFC 規格の改正方針案がまとめられ、SC6 SG は所期の作業を完了した。この間、前述の SC17/SWG B での検討結果に基づく日本の寄書は SC6 SG 会議の審議に大いに貢献した。

今後は、SC6 SG 会議での検討結果に基づき、SC6/WG1 で NFC シリーズの関係部分について改正作

業が行なわれるためリエゾン関係を通じて関係を継続する。

#### (5) 来年度への重要な課題

- ① IC カード等に関する基本的な要素技術以外で、ISO/IEC 24727 シリーズのように利用システムに関わる標準化が求められている。その一方で、利用システムからの要求に基づき要素技術についても機能や性能に関わる追加提案が増加する傾向が本年度も続いている。引き続き、カードの製造・発行・利用に係わる関係機関・関係企業のより積極的な理解と参画を得て、利用者個人も含めた各関係者の利益を考慮しつつ、わが国の技術力を踏まえた要素技術と利用技術の両面からの対応を継続していく必要がある。
- ② IC 旅券の国際試験仕様（耐久性・プロトコル）について、ICAO 文書の ISO/IEC 規格への変換を含めて継続的に対応する。
- ③ 日本提案に基づき制定された ISO/IEC 7811-9 (TIM: Tactile Identifier Mark) の普及を推進すると共に、JIS 化の検討を開始する。
- ④ ISO/IEC 24789 (カードサービスライフ) シリーズについて、わが国の技術を踏まえユーザの意見も反映しつつ対応を行う。
- ⑤ カード発行者番号 (IIN) の申請に際して利用予定者に誤解が生じないように ISO/IEC 7812 (識別カードー発行者の識別) シリーズの見直し (revision) を行う。
- ⑥ ISO/IEC 14443 (近接型非接触 IC カード) シリーズと NFC (Near Field Communication) シリーズとのハーモナイゼーションに関して、SC6 SG による NFC 規格の改正方針案に基づき、今後は SC6/WG1 による改正作業が行なわれるため SC6 との連携を継続する。
- ⑦ 国内では 2007 年 1 月から IC 化運転免許証の運用が開始されており、国内外の動向を踏まえた ISO/IEC 18013 (ISO 準拠運転免許証) シリーズの規格化を継続する。
- ⑧ 日本意見を反映した国際標準化のためのエキスパート養成が急務であり、そのための環境造りを引き続き検討する。また、SC17 総会の 2010 年 10 月日本 (高松) 開催への対応準備を進める。

**(1) 活動状況**

1) WG1 国際会議は以下のように3回開催され、それぞれの会議に2名~3名が参加した。

2009年06月02日~04日 Paderborn(Germany)  
2009年09月21日~23日 Beijing(China)  
2010年03月02日~04日 San Fransisco(USA)

2) 国際会議の審議概況と主要成果

- ・用途別の耐久性を評価するための方法を規定する「カードサービスライフ」の検討をおこなっている。日本から試験カードを提供し各国で評価をおこない、試験回数等の試験条件の妥当性を見出す活動をおこなうと共に、日本の各メーカ及びユーザの意見を国際規格に反映すべくコメントのとりまとめをおこなった。また、適用すべき試験条件の選定のために客観的な判断ができるプロファイルを提案し各国の賛同を得たため、CD投票前に日本提案のプロファイルに差し替えられた。それらの作業を行ったうえで、ISO/IEC 24789-1及びISO/IEC 24789-2としてCD投票を行い、条件付反対の1ヶ国を含め、各国から多数のコメントが寄せられたが、全てのコメント処理をおこなったうえでFCD投票に進めることとした。FCD投票は、2010年05月に開始予定。
- ・IDカードの物理的特性 (ISO/IEC 7810) にICカードの項目を盛り込むべく検討をおこない、AMD1として2009年12月に出版された。これに対応する試験方法 (ISO/IEC 10373-1) についても検討をおこない、AMD1としてFPDAM段階に進めた。
- ・IDカードの物理的特性 (ISO/IEC 7810) の不透過度について検討をおこない、AMD2としてFPDAM段階に進めた。

3) 国内会議

- ・国内WG1会議は、課題の検討のために月1回のペースで実施した。
- ・2)項の各種課題に対する対応方針の検討及び投票案件の審議等をおこなった。

**(2) 今後の主要課題**

- ・カードサービスライフの規格であるISO/IEC 24789-1及びISO/IEC 24789-2のFCD投票に際し、日本の各メーカ及びユーザの意見の反映状況を確認していく必要がある。
- ・カードサービスライフの試験項目及びその内容 (試験回数や判定基準等) と市場の返却率・故障率との相関について検証作業の準備をおこなう。

**(3) 特記事項**

- ・TIMを普及させるため、経済産業省のプレスリリースをはじめ、CEATEC JAPAN 2009への出展等を通じ、プロモーション活動を展開した。
- ・カードサービスライフに対し、ユーザを含めた多くの関係者のご意見をいただき、国際の場に日本意見を反映させるべく、SC17の直下にSWG Aを設け、WG1における審議経過やCD案に対する審議をおこない、国際会議での日本コメントに反映させる作業を継続した。

**(4) 平成22年度の国際会議の予定**

2010年06月 London (UK)

2010年10月 高松（日本）  
2011年03月 場所未定

### 1-3-2 SC17/WG3（機械可読渡航文書：MRTD）

主査 榊 純一

#### (1) 活動状況

1) SC17/WG3 国際会議及び配下のタスクフォース（TF）会議は下記の5回が開催された。

（注）WG3/TF1：ICAO-TAG-NTWG（新技術WG）の対応TF

WG3/TF2：文書化TF

WG3/TF3：教育・広報のTF

WG3/TF4：試験仕様TF

WG3/TF5：PKIセキュリティ仕様TF

2009年06月22日～23日	Abu Dhabi (UAE)	WG3、TF1、TF5
2009年09月21日～22日	北京(中国)	WG3
2009年10月12日	Paris(France)	TF5
2009年10月20日	Paris(France)	TF4
2010年01月27日～28日	Haarlem (Netherlands)	TF5

2) またリエゾン関係にあるICAO関連会議は下記の5回開催された。

2009年09月21日～23日	Montreal (Canada)	ICAO symposium
2009年10月19日～23日	Sydney (Australia)	ICAO-TAG-NTWG
2009年12月07日～09日	Montreal (Canada)	ICAO-TAG-MRTD
2010年03月15日～19日	Bangkok(Thailand)	ICAO-TAG-NTWG

#### (2) 国際会議の審議概況と主要成果

##### ・ ISO/IEC 7501-1 3rd Edition

ICAOが定めたIC旅券の国際規格は、ICAO Doc 9303-1の第6版として2006年9月に発行され、2006年3月から発給を開始したわが国を始め、現在60カ国を超える国々がこの国際標準に準拠したIC旅券の発給を始めている。ICAOの予測によれば2010年には100カ国に及ぶ見通しである。ICAO Doc 9303-1第6版のISO版となるISO/IEC 7501-1第3版は2008年8月18日に発行された。

##### ・ Supplement Doc 9303の更新（ICAOの補足文書）

Doc 9303 Supplement Release 7が完成、日本からのコメントは全て採用されておりICAOサイトにおいて公開されている。現在Release-8の編集が行われている。

##### ・ テスト仕様（TF4）

RF&Protocolパート2、パート4

SC17/WG8に移管され、ISO/IEC 10373-6の追補7として発行された。

Durability、RF&Protocolパート3

NP兼CD投票を開始することが2007年のSC17総会で承認されているが、現在幾つかのコメント処理をおこなっている。

##### ・ PKD(Public Key Directory)実施の問題

PKDをリニューアルし、DS(Document Signer)証明書ではなく、CSCA(Country Signing

Certificate Authority) マスターリストを置くという変更提案は5月のMRTD-TAG/18総会で承認された。マスターリストは無料でダウンロード可能である。但しICAO理事会でマスターリストの導入を記載した規定が承認されるまでは運用されない。

- ・ ICBWG (Implementation and Capacity Building Working Group) の設立  
ICAO 内に新しい作業部会が設立され、教育や啓蒙について議論されており、各国の情報共有の役目を担う予定である。
- ・ BAC 拡張提案  
BAC のエントロピー不足やプライバシー保護の増強を目的に、ドイツより PACE、フランスより PASC という PIN 認証を応用した新たな仕組みが提案され、双方をマージして Supplement Access Control として纏められた。今後次世代のアクセス制御として継続審議されていく。

### (3) 今後の主要課題

- ・ LDS Ver-2  
米国の政府メンバーを中心としてどのような要求定義とするかを調査中。今後各国に対してアンケートを実施するなどして要件を絞り込んでいる。
- ・ e-Visa  
現時点では進展がなく、4方式(既存のIC旅券チップへの追記、チップ入りステッカーの貼り付け、別カード、メディアを使用しない方式)の結論は先送りのまま。
- ・ EAC (拡張アクセス制御)  
EU委員会では2009年6月28日までにEU加盟国に対してPassportに指紋(2指)の記録を義務づけており、EUの大多数の加盟国はこの仕様に基づいた旅券の発給を開始している。他のEU諸国も期限内に発給を開始することを発表している。ICAOはEAC規格を将来のICAO規格の選択候補として参照している。

### (4) 平成22年度の国際会議の予定

#### SC17/WG3 会議

2010年06月07日~09日	Ottawa	JointTFmeeting(TF1-TF5)
2010年10月04日~05日	高松	WG3

#### ICAO 関連会議

2010年10月12~15日	東京	ICAO-TAG-NTWG
----------------	----	---------------

次年度は特に日本において2回(高松、東京)会議を主催する予定である。時期的に次世代仕様の検討が活発になる時期であり、積極的な係わり合いにより意見を反映させる好機である。

### 1-3-3 SC17/WG4 (端子付ICカード) 主査 寄本 義一 及び SWG4 (カード及び個人識別へのバイオメトリクス応用)

#### (1) 活動状況

##### 1) 国際会議開催状況

日本は次の様にWG4(2回)、WG4/Ad Hoc(1回)、WG4/Expert(2回)の計5回の国際会議に参加した。

また、WG11 Biometrics Applicationに関する標準化の審議はWG4/SWG4で行っていることから、今期のWG11の活動も含めて報告する。WG11は、2回の国際会議に参加した。

2009年04月 1日～3日	Austin(USA)	WG11
2009年05月25日～29日	Austin(USA)	WG4
2009年08月24日～26日	Munich (Germany)	WG4/ISO/IEC 7816-4 Ad Hoc
2009年08月27日	Munich (Germany)	WG4/ISO/IEC 12905 expert
2009年10月5日～9日	Barcelona (Spain)	WG4
2009年10月26日～28日	London (UK)	WG11
2010年01月14日～15日	Munich (Germany)	WG4/Biometric Framework expert

2) 国際会議の審議状況と主要成果 (NP 提案の国際投票結果を含む)

WG4 では、IC カードに関する国際規格 ISO/IEC 7816 シリーズの制定管理を行っている。同シリーズには、外部端子付き IC カードのインタフェース規格に関する幾つかのパートと、ファイル構造・コマンド機能・セキュリティ機能等を規定する、幾つかのパートがある。後者は外部端子なし IC カードにも共通に使用されるため、これらのパートのタイトルから「外部端子付き」の表記を外し、規定が両者に共通であることが明らかになるよう改定作業を進めてきた。

IC カード用端末のミドルウェアに関する国際規格である ISO/IEC 24727 シリーズは基本的な部分の審議が終了し、現在、試験方法の審議が中心となっている。また、並行して誤記修正や各パート間の記述の調整など基本的な部分は最後の仕上げに入っている。

2006 年 11 月より、IC カード技術とバイオメトリクス応用技術の効率的連携を意図して、国内 WG4 に SWG4 を設け国際 WG11(バイオメトリクス応用)が担当する国際規格への対応も合わせて行うこととしている。

国際 WG11 では、カード上でのバイオメトリクス認証に関する ISO/IEC 24787 が CD4 投票まで進み、その投票では、日本を含む 4 ヶ国が反対投票をおこなった。しかし、10 月の WG11 ロンドン会議で、反対国である日本とフランスのコメントが解決されたことから、フランス、日本両国は賛成に転じ、ISO/IEC 24787 は FCD 投票へ進むこととなった。FCD 投票で、日本は編集上の誤り修正を指摘するだけのコメントつき賛成で投票をおこなった。

さらに、バイオメトリクス関連では、経済産業省基準認証事業の一環としてニューメディア開発協会で検討された PBO コマンド (Perform Biometric Operation) を 2009 年 3 月の WG4 パリ会議で説明した結果、日本がプロジェクトエディタを引き受けて導入を進めることで国際 WG4 内の基本合意を得た。その後、5 月の WG4 オースチン会議における追加説明で、VERIFY コマンドが完全一致照合であるのに対して、バイオメトリクス照合ではバイオメトリクス参照データとの類似性のある閾値で判定する必要があるため、VERIFY コマンドとは異なる機能をもつ PBO コマンドが必要であることについて理解を得た。

また、ISO/IEC JTC 1/ SC 27 への日本提案として標準化された、正しいシステムで得られたバイオメトリクス照合結果であることの認証が可能な ISO/IEC 24761 ACBio にも PBO コマンドで対応できることなどの説明を行なった。

PBO コマンドは、ISO/IEC 7816-4 のコマンド一覧に追加のうえ、ISO/IEC 7816-8 にコマンド機能の詳細を記述し、ISO/IEC 7816-11 にその応用例を記述する方向となった。その後、10 月の WG4 バルセロナ会議、2010 年 1 月のミュンヘン専門者会議を通じて、日本の提案する PBO コマンド機能及び、その前提となるバイオメトリクス応用全体のフレームワークについて国際理解を深めた。

WG4 関連の国際規格のこの一年の動向

- ISO/IEC 7816-1, Identification cards — Integrated circuit(s) cards with contacts — Part 1:

## Physical characteristics

- ① 日本からの改版提案で日本が改版エディタとなり、FCD 投票に進んだ。
- ISO/IEC 7816-2, Identification cards — Integrated circuit(s) cards with contacts — Part 2: Dimensions and location of the contacts
  - ① ISO/IEC 7816-2:2007 として発行されている。
- ISO/IEC 7816-3, Identification cards — Integrated circuit(s) cards with contacts — Part 3: Electronic signals and transmission protocols
  - ① ISO/IEC 7816-3: 2006 として発行されている。なお、担当エディタが退任したが今後の改版時の後任エディタはまだ決められていない。
- ISO/IEC 7816-4, Identification cards — Integrated circuit(s) cards — Part 4: Organization, security and commands for interchange
  - ① ISO/IEC 7816-4: 2005 として発行されている。
  - ② 2008 年の WG4 ロンドン会議において、日本からの提案で改版が受諾され、2009 年 1 月のベルリン Ad Hoc 会議から改版作業が始まった。また、その続きが 2009 年 3 月の WG4 パリ会議で審議され、日本からのコメントを含む各国からのコメントがテキストに反映された。また、ISO/IEC 7816-4:2005 Amendment 1:2008 で追加された DEACTIVATE RECORD コマンド及び合意された NP Enhancement of Card Capability Description with respect to extended length fields が、テキストに反映されている。  
今回の改訂では、特にデータオブジェクトを従来のファイルと同等に取り扱えるようにするなど、IC カードの新しい利用方法に対応する機能の追加や、セキュリティの向上などの課題がある。  
WD は 2009 年 5 月の WG4 オースチン会議及び 2009 年 8 月のミュンヘン Adhoc 会議で審議をおこない、それらの会議で修正された WD は 10 月の WG4 バルセロナ会議で審議され CD 投票が終了した。日本は、記述の中に互換性上の問題点があることから、条件付反対投票を行った。また、理解の難しい箇所の図解を要求すること及びかなり多数の編集上の誤り修正用コメントを提出した。
- ISO/IEC 7816-5, Identification cards — Integrated circuit(s) cards — Part 5: Registration of Application providers
  - ① ISO/IEC 7816-5: 2004 として発行されている。
  - ② 本年は、定期見直しのための投票があった。
- ISO/IEC 7816-6, Identification cards — Integrated circuit(s) cards — Part 6: Interindustry data elements for interchange
  - ① ISO/IEC 7816-6: 2004 として発行されている。
  - ② 日本からの Defect Report、制定された他のパート等において使用されている追加が必要なデータ要素、3 バイトタグへの対応などを検討するために改版することが 2009 年 3 月の WG4 パリ会議で合意されているが、ISO/IEC 7816-4 が落ち着いてから（すなわち、FCD レベルになってから）CD 投票案を審議することとなった。
- ISO/IEC 7816-7, Identification cards — Integrated circuit(s) cards — Part 7: Commands for SCQL
  - ① 現行規格を凍結(stabilized)とする案も示唆されているが具体的な動きはまだない。
- ISO/IEC 7816-8, Identification cards — Integrated circuit(s) cards — Part 8: Commands for security operations
  - ① ISO/IEC 7816-8: 2004 として発行されている。



- ② ドイツ提案の Enhanced Authentication Command 及び日本提案のバイオメトリクス用 PBO コマンドがあり、改版することを 2009 年 3 月の WG4 パリ会議で合意したが、ISO/IEC 7816-4 が落ち着いてから（すなわち、FCD レベルになってから）CD 投票案を審議することとなった。
- ISO/IEC 7816-9, Identification cards — Integrated circuit(s) cards — Part 9: Commands for card management
  - ① ISO/IEC 7816-9: 2004 として発行されている。
  - ② NP Enhancement of the ISO/IEC 7816-9 Card management services with functions for the management of key and password attributes などの課題があることから、2009 年 3 月の WG4 パリ会議で改版することを合意したが、ISO/IEC 7816-4 が落ち着いてから（すなわち、FCD レベルになってから）CD 投票案を審議することとなった。
- ISO/IEC 7816-10, Identification cards — Cards with contacts — Part 10: Electrical interface for synchronous cards
  - ① 現行規格を凍結(stabilized)とする案があるが具体的な動きはまだない。
- ISO/IEC 7816-11, Integrated circuit(s) card with contacts — Part 11: Personal verification through biometric methods
  - ① ISO/IEC 7816-11: 2004 として発行されている。  
日本から 2006 年 2 月の WG4 シンガポール会議に Defect Report を提出している。日本とドイツが改版のエディタに選任されているが、ISO/IEC 7816-8 に PBO コマンドが組み込まれることに関連して、このパートも ISO/IEC 7816-4 が落ち着いてから（すなわち、FCD レベルになってから）CD 投票案を審議することとなった。
- ISO/IEC 7816-12, Integrated circuit(s) card with contacts — Part 12: USB interface and operating procedures
  - ① ISO/IEC 7816-12: 2005 として発行されている。
  - ② NP Amendment to ISO/IEC 7816-12, Identification cards — Integrated circuit cards — Part 12: Cards with contacts: USB electrical interface and operating procedures.は、成立しているが本年度も審議はなかった。
- ISO/IEC 7816-13, Identification cards — Integrated circuit(s) cards — Part 13: Commands for Application management in multi-application environment
  - ① ISO/IEC 7816-13: 2007 として発行されている。
  - ② ISO/IEC 7816-13:2007 Dcor を合意。
- ISO/IEC 7816-14: 現在パート 14 は存在しない。
- ISO/IEC 7816-15, Identification cards — Integrated circuit(s) cards — Part 15: Cryptographic information application
  - ① ISO/IEC 7816-15: 2004 として発行されている。
  - ② ISO/IEC 7816-15 /AMD1:2007 として発行。
  - ③ ISO/IEC 7816-15 /AMD2 発行
- ISO/IEC 10373-3, Identification cards — Test methods — Part 3: Integrated circuit(s) cards with contacts and related interface devices
  - ① FCD 成立も、ドイツより端末の電気パラメータに問題があるとのコメントがあったために再度 FCD 投票を行った後に、現在 FDIS 投票準備中。JIS 化の過程で多くの編集上の誤りが発見されたが、ジュネーブの修正を見て、再度検討することになった。

- ISO/IEC 10373-8, Identification cards — Test methods — Part 8: USB-ICC
  - ① FDIS 投票準備中。但し、図中のコネクタ名にメーカー独自のものが使用されていることが見つかかり、今後対応していく必要がある。
- ISO/IEC 24727-1, Identification cards — Integrated circuit(s) cards — Programming interfaces-Part 1: Architecture
  - ① ISO/IEC 24727-1: 2007 として発行されている。
  - ② 他のパートとの整合性が問題となるが、定期見直し時に行うことになった。
- ISO/IEC 24727-2, Identification cards — Integrated circuit(s) cards — Programming interfaces-Part 2: Generic card edge
  - ① ISO/IEC 24727-2:2008 として発行されている。
  - ② アmendメント提案の NP 投票で、日本は賛成。
- ISO/IEC 24727-3, Identification cards — Integrated circuit(s) cards — Programming interfaces-Part 3: Application interface
  - ① ISO/IEC 24727-3:2008 として発行されている。
  - ② ISO/IEC 24727-3 Cor は、受諾された。
  - ③ Amendメント提案の NP 投票で、日本は賛成。
- ISO/IEC 24727-4, Identification cards — Integrated circuit(s) cards — Programming interfaces-Part 4: API administration
  - ① ISO/IEC 24727-4:2008 として発行されている。
  - ② ISO/IEC 24727-4 Cor は、受諾された。
  - ③ Amendメント提案の NP 投票で、日本は賛成。
- ISO/IEC 24727- 5, Identification cards — Integrated circuit(s) cards — Programming interfaces-Part 5: Testing
  - ① FCD 投票中。日本はコメント付賛成。コメントは編集上の修正が中心。ただし、大量の試験データを規格本体から分離する方法の検討が今後の課題になる。
- ISO/IEC 24727-6, Identification cards — Integrated circuit(s) cards — Programming interfaces-Part 6: Registration authority procedures for the authentication protocols
  - ① ISO/IEC 24727-6:2009 として IS 発行
- ISO/IEC 24749-1, Secure Integrated Circuit Card Transaction Device — Part 1: General architecture
  - ① WD として提出されているが、担当の国際 WG4/TF10 主査が退任し、その後の進展がないことから取り下げになるものと思われる。
- ISO/IEC 20060-1, Information technology — Open Terminal Architecture (OTA) — Virtual machine
  - ① ISO/IEC 20060-1:2001 として発行されている。
  - ② Fast Track が受諾され、改訂版の FDIS 投票終了。
- ISO/IEC 12905, Integrated circuit cards — Enhanced Terminal Accessibility (ETA) using cardholder preference interface
  - ① CD 投票終了。反対は日本のみ。日本の反対は、技術的なコメントを含むが、基本的な機能を補足するものである。投票とは別に、フランスからコメントがあった。FCD に進む見込みである。

## WG11 関連の国際規格のこの一年の動向

- ・ ISO/IEC 24787, Personal identification — Identification cards — On-card Biometric Comparison

① CD4 投票でも日本は条件付反対で投票したが、10月のWG11 ロンドン会議で日本のコメントが解決したことから、賛成に転じた。同時に反対していたフランスも賛成となったために、FCDに進んだ。現在 FCD 投票中。

### 3) 国内会議

国内WG4会議は、1ヶ月に1回の間隔で実施。担当の国際標準規格の各パートの検討のため、次の7つのSWGに分けて審議を行った。

SWG1: ISO/IEC 7816 Part1, Part2, ISO/IEC 10373-1 担当

SWG2: ISO/IEC 7816 Part3, Part 10, Part 12, ISO/IEC 20060, ISO/IEC 10373-3 担当

SWG3: ISO/IEC 7816 Part4, Part5, Part6, Part7, Part8,担当

SWG4: 国際WG11 対応。ISO/IEC 7816 Part11、ISO/IEC 24787 担当

SWG5: ISO/IEC 7816 Part9, Part13, Part15 担当

SWG6: 国際WG4/TF9 対応。ISO/IEC 24727 Part1, Part2, Part3, Part4,Part5,Part6 担当

SWG7: 国際WG4/TF10 対応。ISO/IEC 24749 Part1, ISO/IEC20060

## (2) 今後の主要課題

次の課題に対応する。

(ア) ISO/IEC 7816-1 の FCD 投票審議

(イ) ISO/IEC 7816-4 の CD 投票審議

(ウ) ISO/IEC 7816-6 の改訂作業

(エ) ISO/IEC 7816-8 の改訂作業

(オ) ISO/IEC 7816-9 の改訂作業

(カ) ISO/IEC 7816-11 の改版作業

(キ) ISO/IEC 10373-3 の FDIS 投票審議

(ク) ISO/IEC 10373-8 の FDIS 投票審議

(ケ) ISO/IEC 24727-1 の改版作業

(コ) ISO/IEC 24727-2 の NP の審議

(サ) ISO/IEC 24727-3 の NP の審議

(シ) ISO/IEC 24727-4 の NP の審議

(ス) ISO/IEC 24727-5 の FCD 以降の審議

(セ) ISO/IEC 24787 の FCD 投票の審議

(ソ) ISO/IEC 20060 の FDIS 投票の審議

(タ) ISO/IEC 12905 の FCD 以降の審議

## (3) 平成 22 年度国際会議予定

2010年04月26日～30日	London (UK)	WG4
2010年04月27日～30日	London (UK)	WG11
2010年09月27日～10月1日	高松	WG4
2010年10月04日～06日	高松	WG11
2011年03月	場所未定	WG4

#### (4) その他

- ・ 平成 19 年度経済産業省の委託研究として、「カードシステム端末利用におけるアクセシビリティの向上（障がい・高齢者などを対象としたアクセシブルデザイン）に関する調査研究(略称 CTA 委員会)」を受託して 3 年目の最終年度を迎えた。今年度は、ISO/IEC 12905 Enhanced Terminal accessibility (ETA) using Cardholder preference interface は CD 投票が終了して、FCD に進もうとしている。このタイトルに合わせて、CTA 委員会を ETA 委員会に改名した。エディタは、寄本 義一氏と英国の Mr. Jim Riddell である。
- ・ ISO/IEC 7816-1 の改訂エディタは寄本 義一氏である。
- ・ ISO/IEC 7816-11 の改訂エディタは寄本 義一氏とドイツの Ms. Gisel Meister である。

### 1-3-4 SC17/WG5（カード発行者番号等）

主査 井出野 敦弘

#### (1) 活動概況

- 1) 国際会議は以下のとおり 1 回開催された。

2009 年 09 月 22 日 Beijing (China)

- 2) 国際会議の審議状況

当グループは個人識別カードのカード発行者番号 (ISO/IEC 7812)、IC カードの登録アプリケーション提供者識別子 (ISO/IEC 7816-5) の登録管理を行っている。

カード発行者番号 (IIN) の申請に際して利用予定者に誤解が生じないように ISO/IEC 7812 (識別カード発行者の識別) シリーズの見直し (revision) を行うこととし、SC17において了承された。

#### (2) 今後の主要課題

IIN の登録申請について、都度、審議する。

IIN の申請に際して利用予定者に誤解が生じないように ISO/IEC 7812 (識別カード発行者の識別) シリーズの見直し (revision) を行う。

#### (3) 平成 22 年度国際会議開催予定

2010 年 10 月 高松 (日本)

### 1-3-5 SC17/WG8（非接触 IC カード）

主査 荻部 浩

#### (1) 活動状況

平成 21 年度は、3 回の WG8 国際会議及び 3 回の WG8/TF2 会議が開かれた。

2009 年 4 月 20～24 日 Singapore TF2#30 及び WG8#44 会議

2009 年 6 月 29 日～7 月 3 日 London (UK) TF2 Adhoc 及び WG8 #45 会議

2009 年 11 月 30 日～12 月 4 日 Valence (France) TF2 #31 及び WG8 #46 会議

さらに、ISO/IEC 14443 シリーズと NFC とのハーモナイゼーションに関連して、SC17 エキスパートも参加する SC6 Study Group 会議が開かれた：

2009 年 3 月 18,19 日 福岡 (日本) NFC/14443 ハーモナイズ SG 会議

2009 年 9 月 17,18 日 Singapore NFC/14443 ハーモナイズ SG 会議

2009年12月14,15日 Berlin (Germany) NFC/14443 ハーモナイズ SG 会議  
わが国は、上記の会議すべてに出席した。それらの国際会議の前後に国内 WG8 会議及び SWG B 会議を開き、国際会議の報告、投票に付すコメントの審議、提案寄書の検討等を行った。

## (2) 国際会議の審議状況と成果

平成 21 年度も、前年度から継続して非接触 IC カードの近接型 (ISO/IEC 14443 シリーズ, ISO/IEC 10373-6) 及び近傍型 (ISO/IEC 15693-1) の 5 年見直し作業を行い、各ドキュメントは、最終の FDIS 投票に進んだ。特に、近接型は、多種のアプリケーションに採用され普及するに伴い、互換性上の問題が発生して、さらに高度の仕様が要求されたため、大幅な規格の見直し改正を行った。続けて、アンテナサイズに関する PICC クラス、EMD (electromagnetic disturbances ; 電磁雑音) の規格及び上位レイヤのプロトコル選択などを審議し投票に至った。さらに、同一磁界に複数のカードが存在する場合の問題点、超高速伝送などの新たな仕様の提案があり、これらの審議も行った。

この状況において、わが国は、投票時のコメント添付・寄書提出・国際会議での意見表明を通じて、投票段階の進捗及び規格文書の品質向上に貢献した。

各規格の進捗状況は、次のとおり：

### A 近接型

- a. ISO/IEC 14443-2 (電力伝送及び信号インタフェース) については、編集上の修正を行い FDIS 投票に進んだ。
- b. ISO/IEC 14443-3 (初期化及び衝突防止処理) については、編集上の修正を行い、FDIS 投票を終わり IS を待つ状態となった。
- c. ISO/IEC 10373-6 (試験方法—近接型) については、これまでに出版された追補 (総計 200 余ページ) を本文に組み込み、見直し改正作業をした結果、FDIS 投票に進んだ。
- d. ISO/IEC 10373-6/AMD7(機械可読渡航文書の試験方法)については、編集上の修正を行い、FDAM 投票を終わり、IS となった。
- e. PICC クラスに関する規格 (ISO/IEC 14443-1/AMD1, ISO/IEC 14443-2/AMD4, ISO/IEC 10373-6/AMD8) については、技術面及び編集上の修正を行い、いずれも FPDAM 投票に進んだ。
- f. EMD の規格 (ISO/IEC 14443-2/AMD3, ISO/IEC 14443-3/AMD3, ISO/IEC 10373-6/AMD9) については、編集上の修正を行い、いずれも PDAM 投票に進んだ。
- g. 追加パラメータの交換に関する規格 (ISO/IEC 14443-4/AMD1) については、2nd PDAM 投票に進んだ。なお、PDAM 投票までは、上位階層プロトコルの活性化(ISO/IEC 14443-3/AMD5 及び ISO/IEC 14443-4/AMD1)を審議対象としていたが、反対国多数により廃案となり、上述の審議対象に改めた。
- h. 単一磁界中の複数 PICC については、これまでに寄せられた技術資料を Technical Report にする作業を開始することとなった。

### B 近傍型

- a. ISO/IEC 15693-1 (物理的特性) は、荻部 浩氏 (JBMIA) がエディタを務め、ISO/IEC 14443-1 に準じて修正し FDIS 投票に進んだ。

非接触 IC カード関連の規格の進捗状況

標準名	日本語名称	WD	CD	FCD	FDIS	IS
ISO/IEC 14443-1 (Rev)	近接型 物理的特性					○
ISO/IEC 14443-2 (Rev)	近接型 電波インタフェース				○	
ISO/IEC 14443-3 (Rev)	近接型 初期化及び衝突防止					○
ISO/IEC 14443-4 (Rev)	近接型 伝送プロトコル					○
ISO/IEC 14443-1/AMD1	近接型 追加 PICC クラス			○		
ISO/IEC 14443-2/AMD4	近接型 追加 PICC クラス			○		
ISO/IEC 14443-2/AMD3	近接型 EMD		○			
ISO/IEC 14443-3/AMD4	近接型 EMD		○			
ISO/IEC 14443-3/AMD5	近接型 上位階層プロトコルの活性化	CD 投票の結果を受け、廃案となった。				
ISO/IEC 14443-4/AMD1	近接型 追加パラメータの交換(※1)		○			
ISO/IEC 10373-6 (Rev)	近接型 試験方法				○	
ISO/IEC 10373-6/AMD7	近接型 機械可読渡航文書の試験方法					○
ISO/IEC 10373-6/AMD8	近接型 試験方法 PICC クラス			○		
ISO/IEC 10373-6/AMD9	近接型 試験方法 EMD		○			
ISO/IEC 15693-1 (Rev)	近傍型 物理的特性				○	
ISO/IEC 15693-2 (Rev)	近傍型 電波インタフェース					○
ISO/IEC 15693-3 (Rev)	近傍型 伝送プロトコル					○
ISO/IEC 10373-7 (Rev)	近傍型 試験方法					○

備考： ○は、平成 21 年度中に処理が進んだ状態を示す。国際投票が可決され、次の段階に進む見込みの規格は、次の段階に進んだ状態と位置付けている。

※1： 当初の範囲は「上位階層プロトコルの活性化」だった。

(3) 今後の課題

- a. 超高速伝送の方式、同一磁界中の複数カードなどに関する提案があるが、まだ技術的検討段階で、更なる寄書を待っている。
- b. ISO/IEC 14443 シリーズと NFC シリーズとのハーモナイゼーションについては、JTC1/SC6 の SG (Study Group) 会議で問題点を抽出し提案を行った。そこで抽出された問題点は、主として JTC1/SC6 (NFC) 側の規格の見直し改正作業で解決することになった。

(4) 次の国際 WG8/TF 会議の予定

2010 年 4 月 26～30 日	Berlin (Germany)	TF2#32 及び WG8#47 会議
2010 年 9 月 27 日～10 月 1 日	高松 (日本)	TF2#33 及び WG8#48 会議

1-3-6 SC17/WG 9 (光メモリカード)

WG9 国内委員会は現在休会中であるが、国際 WG9 が活動中のため齋藤 WG9 国内主査を中心に SC17 国内運営委員会で必要な対応を行なっている (日本は WG9 国際会議には不参加)。

国際 WG9 ではホログラム記録方式に関する審議が行なわれ、ISO/IEC 11695 Identification cards—Optical memory cards—Holographic recording method は、第 1 部から第 3 部までが国際規格として発行され、第 4 部：論理データ構造が FCD 段階にある。また、ホログラム記録方式を含めた光記録技

術と他の機械読取技術の共存に関する規格 (ISO/IEC 11693-2 Identification cards—Optical memory cards—Part 2: Co-existence of optical memory with other machine readable technologies) が発行された。

更に、ISO/IEC 10373-9 (識別カード—試験方法—第9部光メモリーカードホログラム記録方式) が、現在CD段階にある。本件は、新規提案で日本は棄権したが、ホログラムの測定方法の新規提案を準備しているISO/TC 172 (Optics and photonics)/SC 9 (Electro-optical systems) /WG 7のコンビーナである立命館大学の小野雄三教授に情報提供している。

### 1-3-7 SC17/WG10 (自動車運転免許証と関連書類)

主査 榊 純一

#### (1) 活動状況

ISO/IEC JTC1 SC17/WG10 では、運転免許証及び関連書類の検討を行っている。

スコープとして、運用上の内容に関する標準化は行わず、運転免許証製作上の技術的項目に関して国際標準化を行うことを明示している。

#### 1) 国際会議開催状況

WG10 国際会議は次のように 3 回開催され、我が国はその全ての会議に参加し国内意見の反映を行ってきている。

2009年06月02日～04日	Leiden	(Netherland)	第1回 TF12 国際会議
2009年06月02日～04日	Paris	(France)	第33回国際会議
2009年09月21日～23日	北京	(中国)	第34回国際会議
2009年11月26日～28日	Paris	(France)	第2回 TF12 国際会議

#### 2) 国際会議の審議概況と主要成果

09年度は、18013 のパート 4 (Test Method) の審議を中心とし、規格策定以後に行われた国連のジュネーブ条約改定に伴うパート 1 と 2 の改定が始まっている。

##### ・パート 1 (Physical Characteristics and Basic Data Set)

表面記載事項および表面レイアウトの規格、カードの物理的特性を規定している。

具体的にはミニマムデータの抽出、抽出したデータの項目番号と表面記載領域、および運転可能な車種、運転条件のピクトグラム化、カードが備えるべき物理的な特性等の基準を記述している。

2008年06月国際会議から、改定バージョンの審議が始まっている。

##### ・パート 2 (Machine Readable Technologies)

電子的な記録を行う方法に関する規格を定めるパートである。IC旅券と類似するLDS (Logical DataStructure) 構造となっており、幾つかの異なる記録メディア (磁気カード、バーコード、IC、光カード) に対応できる構造として、Standard Coding と Compact Coding の2種類パート 1 と同じくミニマムデータ抽出、データ構造の審議、さらにEU指令との調和が考慮されている。

2008年06月国際会議から、改定バージョンの審議が始まっている。

##### ・パート 3 (Authenticity and integrity verification)

アクセス管理、認証と完全性確認などの規格を取りまとめるパートである。仕組みはIC旅券に類似したものであるが、運転免許に特化した形で変更されている。2009年3月にISとして出版された。

##### ・パート 4 (Test Method for IDL)

主にICのテスト仕様を定めて互換性を確保するためにして2008年から審議が開始されているパートである。現在CDのコメント処理を行なっている。

### 3) 国際会議審議体制

本年度も国際会議セクレタリは日本の榊 純一氏（パナソニック）が務め、本分野の技術的分野は多岐にわたるため、国際会議ではタスクフォース(TF)を設定し審議の促進を図っており、現在11のTF体勢で原案作成を行っている。日本はこのうちカードの物理的信頼性、画像処理、車両および運転条件のカテゴリー化という3分野のタスクフォースリーダーを務め、また他のTFでもベースドキュメントの項目を担当するなどしてドラフト作成に貢献している。

### 4) 国内会議

国内 WG10 会議は、課題の検討のために第 57 回～60 回の計 4 回開催している。

### (2) 今後の主要課題

欧州において運転免許の IC カード化検討が本格化しており、数カ国が仕様を開発し実験などを行っている。新しい運転免許証の発行、あるいは本規格に準拠した仕様である市民カードの発行準備が進みつつある状況に鑑み各パートの見直し審議に対応していく予定である。

### (3) 特記事項

2009 年 11 月にはパリで TF12 国際会議と併催する形で互換性実験が行なわれた。またわが国においては、2010 年 1 月に IC 化運転免許証が全ての都道府県で発給されるに至った。このように急速に普及が進んでおり、今後は運転免許証を民間で応用する取組が加速され広く利用が進むと期待される。

### (4) 平成 22 年度の国際会議予定

2010 年 04 月 13 日～15 日	Swansea	(UK)	・ WG10 国際会議
2010 年 10 月 04 日～05 日	高松		・ WG10 国際会議
2011 年 02 月	未定		・ WG10 国際会議

## 1-3-8 SC17/WG11（カード及び個人識別へのバイオメトリクス応用）

### (1) 活動状況

WG11（カード及び個人識別へのバイオメトリクス応用）案件への対応は、平成 18 年度の体制見直しの結果に基きサブ WG（WG4/SWG4：主査 坂本静生）が行なっている。ISO/IEC 24787 に関する活動状況については、1-3-3 SC17/WG4（端子付 IC カード）及び SWG4（カード及び個人識別へのバイオメトリクス応用）を参照されたい。



## 1-4 SC28 (事務機械 : Office Equipment)

委員長 小澁 弘明

### (1) 活動状況

SC28 は日本が国際幹事国業務、議長国を引き受け、積極的に活動を行っている。  
現在 WG は 5 つあり、いずれの WG にも参加している。

SC28 は JTC1 の中でも数少ないハードウェアの標準化を進めているが、市場の要求で環境やアクセシビリティへの課題に範囲を広げている。オフィス機器とその隣接分野の標準化との関係が複雑になっており、今後のスコープの見直しを含めた検討を進めている。さらに種々のオフィス機器間の画像再現性や機器上で動作するアプリケーションに対応する課題もあり、日本を中心に SC の内部を組織的に見直ししている。

本年度開催された国際会議等への参加状況は、以下の通りである。

SC28 総会 :	13 人	6 月釜山
SC28/AWG :	12 人	6 月釜山(6)、1 月サンノゼ(6)
SC28/WG2 :	4 人	6 月釜山
29142 Editor 会合	9 人	6 月釜山(3)、11 月ウィーン(6)、
SC28/WG3 :	3 人	6 月釜山
SC28/WG4 :	6 人	6 月釜山(2)、1 月サンノゼ(4)
SC28/WG5:	6 人	1 月サンノゼ
AIF2009 :	1 人	6 月シンガポール
APSG セミナー :	2 人	12 月ハノイ

### 釜山総会

ISO/IEC JTC1/SC28 (Office Equipment) 第 20 回総会が、韓国の招待により釜山市郊外海雲台にあるパラダイスホテルにて開催された。7 ヶ国約 48 名に及ぶメンバー参加の会議であり盛況であった。

#### [特記事項]

\* 日本が Endorse した本年任期を迎える斎藤国際議長の再任が SC28 として承認された。また、3 年間国際幹事を務めたリコー熊倉氏も本年退任し、後任に富士ゼロックス杉山氏が就任することが報告された。斎藤氏の国際議長再任は、昨年秋の JTC1 総会で正式に決定された。

#### (Resolution Busan 2/2009 Re-appointment of SC28 Chair

SC28 endorses the reappointment of Mr. Akira Saito as the SC28 Chairman(j28n1276).)

\* 日本が主導的に活動している AWG 活動の一環である AWG/PWG5(日本・仲谷氏主査)からの NP が承認されたのを受けて、新たに WG5 Office Color を立ち上げる事を日本から提案し承認された。コンビーナに富士ゼロックス仲谷委員、セクレタリーにリコー宮下委員の就任が承認された。

#### (Resolution Busan 20/2009 Creation of WG5 – Office Color)

SC28 creates the new Working Group WG5 – Office Color, according to Japan's proposal (j28n1268) with the approval of AWG. The first project for this WG will be ISO/IEC NP TR 29186. WG5 adopts the road map, scope and new work item list of AWG/PWG5.

(Resolution Busan 21/2009 Convener and Secretary of WG5)

SC28 appoints Mr. Fumio Nakaya as the convener and Dr. Takaaki Miyashita as the secretary of the new WG5.

### **Aisa Imaging Forum 2009 (シンガポール)**

2009年6月25日シンガポールで開催された Asia Imaging Forum 2009 に招待講演者として参加(櫻井 SC28 Ambassador 出席)、SC28 の概要、最近発行の「カートリッジ寿命」標準及び規格策定中のカートリッジ特性標準についてプレゼンテーションを行った。

このフォーラムは、アジア地区の Remanufacturing Industry 関係の展示会に併せて毎年設定されているもので、昨年に引き続いて要請があり、Ambassador が講師を担当した。

フォーラムでの質疑応答の他に、展示会の会場でも、展示者からカートリッジ寿命に関する質問があり、昨年より関心が高まっているのを感じた。

### **ISO/IEC APSG セミナー (ヴェトナム)**

2009年12月1日・2日ヴェトナム・ハノイで開催された第8回 JISC/IEC/APSG Human Resource Development Seminar(METI 委託事業)に、リコー宮下委員、櫻井 JBMLA 事務局が出席。昨年に引き続き、“Standards for Energy and Resource Saving”について討議した。

JTC1/SC28 としては、カートリッジに関する一連の標準化及びユーザニーズの発掘と標準化作業への計画的な反映について、AWG における取り組みを紹介した。

### **メンバー国構成**

メンバー国は、P メンバーはオーストラリアが SC28 から退会した為 13 カ国、O メンバーはガーナが参加して 18 カ国となっている。

### **承認された国際標準など**

本年度承認された国際標準は無い。

## **(2) 主な活動概要**

### **JAWG (戦略検討)**

AWGの使命のひとつは現在と将来のマーケットニーズを分析・予測し、SC 28の短期・中期ロードマップの策定を行うことにより、新たなテーマの発掘のベースを作ることにあるが、その成果の一つが前述のWG5設立として実現したことは評価できる。

\* SC28 Roadmapが各WGの協力を得て完成し、SC28の活動の方向性がより明確になってきた。更に将来のSC28の重要な方向の一つと考えられるOffice applicationsに関する調査活動を行っているAWG/PWG6の活動が注目されつつある。

### **WG3 (複写機)**

\* 2008年度 FDIS に移行したデジタル・プリンタ生産性測定方法(ISO/IEC 24734)およびデジタル複写機生産性(ISO/IEC 24735)は2009年1月に承認、同3月にIS制定された。

現在2010年6月完了を目指してJIS化作業が進められている。

\*また、それを補う標準である片面単票原稿での複写生産性測定方法(ISO/IEC 29183)は 2009 年 1 月に NP が承認され、釜山総会において、本年 6 月末までに CD 案を配布し、WG3 内でレビューした後 FCD への移行を WG3 で決定することとなったが、2009 年 12 月に FCD 案が発行された(投票期限 2010 年 5 月)。

#### WG4(画質測定)

\* 画質属性測定方法規格(ISO/IEC 24790)は日本がエディタを引き受けているが、2008 年 CD に移行し開発を 1 年間延期をしたが、今回の釜山総会において更に DIS(FCD)登録を 1 年延長することとなり、WG4 で検定後 FCD へ移行してよいこととなった。

\* 白黒レーザープリンタの解像力測定法およびテストチャート (ISO/IEC 29112) は 2009 年度開発を 1 年間延期し、現在 2010 年 12 月の DIS 承認を目指して開発が進められている。

#### WG6(カラーマネジメント関連)

\* カラー分野はここ 1 年新しく標準化に着手し、それに伴い WG を設立と大きく変化した。

TR Type-3 Test Method of Colour Gamut Mapping Algorithm for Office Colour Equipment. は 2009 年 3 月に NP 投票が成立し、プロジェクト 29186 として承認され、釜山総会では、新たな WG5 (オフィスカラー) が発足した。

また WG5 設立に向け、日本が積極的に提案活動をしていたこともあり、SC28 の WG としては初めて主査(幹事も)を日本で引き受けることになった。

#### WG7(消耗品関連)

複写機、プリンタ、ファックス、複合機の消耗品(トナー/インク)の寿命(使用可能枚数)決定方法は国内では WG7 で、国際では WG2 で対応している。

カラーフォトイールド測定方法(CD29102)と、カラーフォトイールド・テストチャート(WD29103)について釜山総会時開催の WG 会議で検討され、CD29102 は現在 CD 投票中である。

#### 29142WG(カートリッジ特性)

注目される米提案のトナーカートリッジ特性規格 NP29142(5 parts)は 5 部のうち 4 部の assistant-editors に日本から参加することになり 2008 年から開発が始まり、2009 年 1 月に日本の WG が編成された。2009 年 6 月末現在で 11 社 44 名が委員登録され、各社の関心の高さがうかがわれる。CD 作成に難航しており、CD 発行を当初計画の 2008 年末から 12 ヶ月延期したが、今回の釜山総会でさらに延期し 2010 年 12 月 CD 登録を目指すこととなった。

(WG 構成は 29142 国際プロジェクトの構造に対応した、Part1:一般:用語、記号(General:Terms, Symbols and Notations)、Part2:標示(Labeling)、Part3:環境(Environment)、Part4:インクカートリッジ特性(Ink cartridge attributes)、Part5:トナーカートリッジ特性(Toner cartridge attributes)の 5 つのグループで構成されている)。

#### その他特記事項

・オフィサー任命

SC 28 活動の対外コミュニケーション促進役として設定した Ambassador を継続することを確認し、引き続き日本 JBMA 事務局櫻井氏が任命された(Resolution 38, 39)。

・釜山総会は、当初インフルエンザ問題で日本委員の不参加拡大が懸念されたが、国内委員会委員長及び事務局 JBMIA 専務理事連名で委員各社への協力依頼状を発行しての働きかけなども行い、結果的に各社のご協力により 13 名(国際議長・幹事含む)のメンバーが参加でき、日本としての貢献・成果を上げることができた。なお、国際幹事から参加各国宛インフルエンザによる会議参加への影響を打診したが、これによる不参加はなく結局大騒ぎしていたのは日本のみであった。

・次回総会は、2010 年 6 月に米国ニューヨーク州ロチェスターで米国のホストで開催予定。

### (3) 今後の主要課題

- ① カートリッジ規格の国内審議体制
- ② 新テーマの発掘と NP 提案の促進(継続)
- ③ 制定された国際規格の JBMS/JIS 化の推進 (支援)
- ④ Secretariat (Chairman & Secretary)業務への支援
- ⑤ SC28 の改革の促進

以上

## (1) 活動概況

### 1) 国際会議

- ・ 国際 WG03 会議 (韓国 釜山)

2009年6月のPlenary会議に先立って開催された国際WG03会議において、ISO/IEC 29183 - Digital copying productivity of a single one sided original 「片面単票原稿での複写生産性測定方法規格」のCD提案内容と今後の進め方についての審議を実施した。また、WG03としての将来projectを整理し、Roadmap案を纏める作業も実施した。

審議の結果、29183のWD案に対して提出していた日本側のコメントが全て受け入れられたことから、以下のresolutionの発行に同意した。

Resolution 8/2009 - ISO/IEC 29183 Committee Draft

SC28 resolves to accept the proposal of the WG3 to register the CD of ISO/IEC 29183 for distribution to SC28 by the end of June, 2009.

Resolution 9/2009 - Register 29183 as FCD

SC28 resolves that registration of ISO/IEC 29183 as FCD will be determined by WG03 after the CD document has been peer reviewed among WG3 members.

(実際には、本WG03会議以降、各NBによるレビューが実施され、FCD案は09年12月になってからN文書j28n1322として配布された。)

WG03のRoadmapについては、会議前に提示されたConvenerのMr. Dwight Lewisの素案を元に、各NBが意見交換を実施し、ほぼ提案内容のままで各国の承認が得られ、追ってAWGへ報告を行なうことが承認された。

### 2) 国内活動状況

- ・ ISO/IEC 29183の国内審議

本規格については、最初のNP提案時点から、米国のeditorと日本側委員との間で活発な意見交換が実施されており、FCD提案内容に日本側の意向(国内WG3委員会及びJEITAプリンタ技術分科会 生産性WGが検討)が十分反映されていることを確認済みである。従って、提案されたFCD案に賛成投票(2010年5月が投票期限)する予定である。

- ・ 国際規格のJIS化について

2009年3月にIS制定された国際規格ISO/IEC 24735は、2009年9月より、JIS作成分科会にてJIS化原案作成作業が継続されており、2010年6月には完了する予定である。また、このJISが発行された時点で、既存の電子写真方式アナログ複写機限定のJIS X 6934:2002「情報技術—事務機器—複写生産性を測定する方法」は廃止する予定である。(なお、JIS X 6934の対応国際規格であるISO/IEC 14545:1998も次回見直し時に廃止する予定)

## (2) 今後の主要課題

今後の主要課題としては、以下を予定している。

- ・ 複写生産性測定方法に続き、複写機/複合機の主要機能である「スキャナ生産性」についてのNP

提案を日本より行う（2010年6月の国際WG03会議にて提案説明を実施する予定）。

- ・ISO/IEC 21117「複写機仕様書様式」（日本からEditorを出し、FastTrackにて提案した規格）については、米国より、ISO/IEC24735「複写生産性測定方法」の情報を含めて、Systematic Reviewの機会に修正したとの要望があり、Systematic Reviewの機会に合わせて日本側で修正内容をまとめる（2010年6月のWG03会議にて内容説明を実施する予定）。
- ・ISO/IEC 24735のJIS原案作成については、2010年6月末完了を目途に、原案作成委員会とJIS作成分科会の活動（主に国内WG3委員が兼任）を継続する。
- ・また、ISO/IEC 24735及び24734のJIS化原案を策定していく中で判明した原国際規格の記述誤り箇所については、それぞれの個別対応は各Editorに委ねるが、2010年6月の国際WG03会議にて内容報告を実施し、Corrigendumとしての処理で合意を得るべく提案を行う。

### (3) 国際会議参加予定

2010年6月 国際WG03会議及びPlenary Meeting（米国） 2名（WG3）

## 1-4-2 SC28/WG 4（画質測定）

主査 稲垣 敏彦

### (1) 活動概況

SC 28 国内委員会 WG4 は、「モノクロハードコピーの画質属性測定方法 (ISO/IEC 24790)」の規格開発を担当する(エディタは稲垣主査)と共に、SC 28/WG 4(画質測定)のミラー委員会として、「モノクロレーザープリンタの解像力測定方法とテストチャート (ISO/IEC 29112)」規格開発の検討等に参加してきた。また ISO/IEC 24790 は、経済産業省から委託された「社会環境整備・産業競争力強化型規格開発事業（個別産業技術分野に関する標準化）」の一環として「ハードコピー出力の画質属性測定方法に関する国際標準開発」を当委員会にて推進してきた。

本年度は2009年6月に韓国 釜山での第20回SC28総会に併せて開催されたWG4国際会議と、2010年1月にアメリカ合衆国サンノゼでWG4国際会議が開催された。また、一昨年度より始まった月1回ペースの電話会議（Teleconference）は8回開催された。

### 1) 国際会議

#### ・SC28 総会、WG4 国際会議

2009年6月に釜山で開催された第20回SC28総会と総会に併せて開催されたWG4国際会議及び総会で、当WG担当のISO/IEC 24790および韓国担当のISO/IEC 29112に対して検討し、次のような結果となった。

#### ISO/IEC 24790 について

- ・2009年1月のWG4国際会議以降に提出された新規画質属性測定方法も加えた画質属性検証実験結果を報告し、主観評価との相関が最も高い方法を採用するというルールにより、全ての画質属性測定方法が最終決定された。
- ・画質属性検証実験において、主観評価との相関が不十分であった Mottle, Banding の2属性については、米国から提案された方法が採用された。これらを含む米国提案の3つの属性測定方法については、測定方法の説明がなされたが、アルゴリズム内容の公開が不十分なため、テストプロ

グラムか測定ツールの提供がなければ各国では検証が十分行えない、また、使用するスキヤナの適合性試験の値を決定するなど、今後の作業量を考慮すると、09年11月にFCD投票を開始するという日本案は実現可能性が低いとの指摘を受け、今後の進め方の日本提案では各国の了解が得られず、次の2点が決議された。

- ・ ISO/IEC 24790 の DIS(FCD)登録の日程を一年延長する。(Resolution 11)
- ・ WG4 メンバーの中で、方法の検証とドキュメントの仲間審査を実施後に、ISO/IEC 24790 は FCD としての登録に進むことができる。(Resolution 12)
- ・ System Compliance チャートの改訂版を各国代表に配布した。

#### ISO/IEC 29112 について

- ・ ISO/IEC 29112 の想定使用方法をエンジニアリング目的とし、より単純化できるまではユーザへの告知には使わない。また測定項目もエンジニアリング上の必要性に応じて選択できるようにすることとした。これにより懸念されていた属性数絞込みのステップが省かれることとなった。これを受け、CD 化の提案を受け入れることとした。
- ・ CD 案を回覧後、7 月末までに CD 登録する。(Resolution 13)

#### その他

- ・ 米国よりマクロ均一性評価方法の NP 提案について説明を受けた。

#### ・ SC 28/WG 4 サンノゼ会議

2010 年 1 月に米国サンノゼで開催された WG 4 国際会議で、当 WG 担当の ISO/IEC 24790、韓国担当の ISO/IEC 29112、画質測定プラットフォーム(Common Scanner)などに対して検討し、次のような結果となった。

#### ISO/IEC 24790 について

- ・ ISO/IEC 24790 の改定した CD 案について現行規格(ISO/IEC 13660)からの変更点を各国に説明し、意見を求めるとともに、今後の規格開発に対する各国の了解及び協力を得ることができた。また、コンフォーマンス・チャートの改定内容に対して各国の了解が得られた。
- ・ WG4 は、SC28 国際幹事に ISO/IEC 24790 の DIS 承認に対して 6 か月の延長を要請する。
- ・ 適合試験判定基準の設定と画質測定のロバスト性向上を目的に線画質属性測定ツールを作成し、各国に配布した。
- ・ スキヤナの適合性認定用目標値設定方法について説明したが、許容範囲が大きくなりすぎることにより各国から懸念が示された。
- ・ 平成 20 年度作成の適合性試験(Compliance)チャートを用いた評価試験データの解析中に、チャート設計上の不備が発見された為、チャートの改訂を行った。その際、チャートの呼称を、より一般的な、Conformance chart に変更した。

#### ISO/IEC 29112 について

- ・ 規格開発の日程 (DIS の承認が 12 月 8 日) について確認し、WG 全体で危機意識を共有した。
- ・ ISO/IEC 29112 CD に対する FOGRA、Lexmark から提出されたコメントに対して審議した。FOGRA からの PDF への対応要求に対しては、過去同様な議論が繰り返されているため、白書を作る。
- ・ 合成 ISO/IEC 29112 テストチャートを作成し、このチャートを用いて WG4 メンバーにより各

種プリンタでサンプルセットを印刷し、解像力属性の測定能力検証実験の計画を立案し、米国と韓国で実験を推進し、その分析結果および関係を報告する。

#### **NWI : Macro Uniformity** について

- ・ 米国より Quality Ruler を用いた Macro Uniformity の評価方法の規格での Ruler 画像と JBMIA 作成のバンディングサンプルを持ち込んで、実演した。

## 2) 国内活動状況

国内 WG 4 委員会は、経済産業省から委託された「社会環境整備・産業競争力強化型規格開発事業（個別産業技術分野に関する標準化）」の一環として「ハードコピー出力の画質属性測定方法に関する国際標準開発」委員会を兼ねて、11 回開催され、下記のテーマに関して検討した。

### ① ISO/IEC 24790 「モノクロハードコピーの画質属性測定法」の開発

昨年度、ISO/IEC 24790 画質属性検証実験で主観評価と十分な相関が得られなかった面画質属性の Mottle、Banding について各国から提出された新規画質属性測定方法も加えた画質属性検証実験結果を第 20 回 SC 28 総会に併せて開催された WG4 国際会議で報告し、すべての画質属性項目に対して測定アルゴリズムを確定した。新測定法による適合試験判定基準の設定と画質測定のロバスト性向上を目的に線画質属性測定ツールを作成し、国内委員および各国 WG4 メンバーに配布した。この測定ツールを使って各種スキャナでコンプライアンスチャートを測定し、その結果からスキャナの適合性認定用目標値設定方法をサンノゼで WG 4 国際会議で提案した。

また、WG04 国際会議前に、ISO/IEC 24790 の改定した CD 案を配布し、会議で CD 案について現行規格(ISO/IEC 13660)からの変更点を各国に説明し、意見を求めるとともに、今後の規格開発に対する各国の了解及び協力を得ることができた。

平成 20 年度作成の適合性試験(Compliance)チャートを用いた評価試験データの解析中に、チャート設計上の不備が発見されたため、チャートの改訂を行った。その際、チャートの呼称を、より一般的な、Conformance チャートに変更した。チャートの改訂版の作製を富士フイルム イメージテック（株）に依頼し、ガラス原版を作成し、ガラス原版から反射ペーパーに 40 枚プリントした。このチャートを用いて、適合性の目標値を決定する。

また、本活動をまとめた「ハードコピー出力の画質属性測定方法に関する国際標準開発」報告書を作成し、経産省に提出した。

### ② ISO/IEC 29112 「モノクロレーザープリンタの解像力決定方法」の検討

SC28 総会に併せて開催された WG4 国際会議において、ISO/IEC 29112 WD を審議し、適用範囲をエンジニアリング目的とし、より単純化できるまではユーザへの告知には使わない。また測定項目もエンジニアリング上の必要性に応じて選択できるようにすることとした。これを受け、CD 化の提案を受け入れることとした。

CD に対して電話会議および WG 4 国際会議で検討を続けた。WG 4 国際会議で測定方法を追試するためのテストチャート及び測定プログラムの提供を要請したら、合成 ISO/IEC 29112 テストチャートを作成し、このチャートを用いた解像力属性の測定能力検証実験を進めることになり、国内の参加社を確定した。

## (2) 今後の課題

平成 22 年度の課題は、ISO/IEC 24790（13660 改訂）の開発プロセスに従った継続課題と、WG 4 国際会議で発生したものが挙げられる。

- ① 画質検証実験結果をベースとした 6 種の画質属性アルゴリズムによる規格の測定方法の追加/修正。



- ② 面画質属性測定プログラムの開発推進とコンフォーマンス・テスト・チャートを用いたスキャナ適合性評価の試行。
- ③ 選定されたスキャナおよび適合性試験チャートを用いて、確定された測定方法で、文字・ライン画像の画質属性7項目とグラフィック画像の画質属性7項目に対する、測定機器認定用目標値の追加。
- ④ ISO/IEC 24790 CD のレベルアップとDIS登録。
- ⑤ ISO/IEC WD 29112 の DIS 化に向けて内容を検討し、測定能力検証実験に協力する。

### 1-4-3 SC28/WG 6 (カラーマネジメント)

主査 村井 和夫

#### (1) 活動概況

##### 1) 国際会議

カラー分野はここ1年新しく標準化に着手し、それに伴いWGを設立と大きく変化した。

TR Type-3 Test Method of Colour Gamut Mapping Algorithm for Office Colour Equipment. は2009年3月にNP投票が成立し、プロジェクト29186として承認された。

2009年6月に韓国で開催されたSC28の総会で、新たなWG5(オフィスカラー)が発足した。またWG5設立に向け、日本が積極的に提案活動をしていたこともあり、SC28のWGとしては初めて主査(幹事も)を日本で引き受けることになった。

本年度のWG5の活動としては

- ・メーリングリストによるバーチャル会議(2009年11,12月) : 9ヶ国、19名参加
- ・サンノゼ会議(2010年1月) : 6ヶ国、14名参加

が開催され

- ・TR29186 WD案の精査、問題点の洗い出しとその対応
- ・現状提案されている14項目の新規課題項目、ロードマップ(標準化スケジュール)作成、次期Stage0提案項目を討議している。

##### 2) 国内活動状況

本年度は国内対応委員会WG6を6回実施し、国際WG5国際会議の事前検討、結果報告と、他の標準化機関のカラーマネジメント関連標準の情報交換と対応を行っている。

#### (2) 今後の主要課題

TR29186の標準化と、次期Stage0提案の候補の絞り込みなどをロードマップに従い、着実に実施していく。

## (1) 活動状況

## 1) 国際会議

**(WG2 韓国釜山会議 : SC28 韓国総会)**

2009年6月5-6日に行われたが、新型インフルエンザの影響もあって、日本からは1名だけが出席した。最初に討議されたWD29102 (フォトイールド測定法) については、日本がコメントしたすべての項目が採用され、要望通りにドラフトが変更された。特に追記を要望していたコンポジットイールドについての表記方法も記載され、日本として、ほぼ問題のない内容にまとまった。この、カラー文書イールド標準にも採用されているコンポジットイールド表記方法は、フォトイールド標準の場合には、プライマリーカートリッジの考え方が異なるため、これを考慮した例示等に修正する必要があると、CD登録に向け、この点に関する記述をもう一度詳細に見直す。

次に WD29103 (フォトイールド・テストチャート) の討議が行われた。US が作成した 25 枚の最新サムネイルチャート案は、これを構成する実写真と比較評価した場合、イールドの差が大きく課題となっており、この原因の調査のため、追加テストなどを行ってきた結果、写真処理ソフトウェアによる写真の輝度調整処理が影響していると推測された。このため会議では、この輝度調整処理を行わず、適切な明るさの写真を用いてチャートを再構成することを提案した。これが受け入れられ、8月末までに US がテストチャートを再作成したのち、各国で評価を行うことに決定した。チャートの設計 LRGB 値は、国内で使用しているテストチャートとほぼ同じ値とすることも確認され、日本として想定通りに会議を進めることができた。

## 2) 国内活動状況

本年度 WG7 は 12 回開催し、下記の通り活動した。

**a) カラーフォトイールド測定方法 (CD29102)**

CD 案について詳細に検討を重ね、公表方法の例示部分を中心に修正案を作成し、条件付き反対として投票を行った。

**b) フォトイールド・テストチャート (WD29103)**

2 種類のチャート案について関係各社で各種の評価テストを行い、問題点などをまとめた資料を作成して、国際会議にフィードバックした。また、写真処理方法を実験的に検証するため、8 種類のチャートについて評価を行い、電子メールでの意見交換を行った。

## (2) 今後の主要課題及び予定

カラーフォトイールド測定方法については、CD 投票が行われ、技術的な課題は無くなったと考えられるが、テストチャートについては、サムネイル化したものと元の実写真との間で、現状では測定値の乖離があるため、十分な検証を行いながら進めていく。

2010年6月 : WG2 米国会議 (SC28 米国総会時) 2名出席予定

### (1) 活動概況

AWG の 2009 年度活動は、約 4 年かけて行ってきた SC28 の改革が一つの到達点に達した年であった。SC28 は一時期 NP 投票が 5 か国ルールを達成できないなど、新規提案ができず活動に対する見直しが求められた。それをうけて日本から SC28 改革の提案として、活動の枠組みを見直し、新規分野の開拓と共に新規提案がより合意を得つつ通りやすい手段を提案した。

今年度の重要な成果としては、組織面では AWG/PWG5 を WG5 として独立したこと、またこの WG のコンビナを SC28 として始めて日本が獲得したこと。また新規提案の枠組みとして日本から提案した、SC28 Roadmap が各 WG の協力を得て完成し、SC28 の活動の方向性がより明確になってきたことである。更に将来の SC28 の重要な方向の一つと考えられる Office applications に関する調査活動を行っている AWG/PWG6 の活動が注目されつつあることも挙げられる。

### 国際会議

国際会議は、2009 年 6 月に釜山の総会前と、2010 年 1 月にサンノゼの 2 回の会議が行われた。

### 釜山会議（2009/6）

この会議では、カラー関連の新規課題が承認されたことに基づきそれを審議する機関として AWG/PWG5 を WG5 として設立提案をし、これまで牽引してきた日本からコンビナを推薦した。その後の SC28 総会では WG5 Office colour の設立が承認され、コンビナに仲谷委員が登録された。これに伴い、WG5 は AWG の活動とは独立して活動することとなった。

AWG/PWG6 に関しては、Print ticket についての議論を進め、この件について各国にアンケートすることにした。

AWG は Roadmap の追加を行い、その内容について NB と WG にレビューを依頼した。

### サンノゼ会議（2010/1）

この会議から新規設立された WG5 が独立の会議となり、AWG と AWG/PWG6 の会議となった。会議の主な課題は、AWG で継続して活動している Roadmap と新たに加わった Terminology 及び PWG6 のテーマ検討である。Roadmap は新規課題の追加要求があり、それを加えた修正版を作成することとした。Terminology は、JTC1 からの情報技術分野の用語の整理をするという要請に対応するためのもので、SC28 内の担当を AWG とし、まとめ方に関してその概要を示し、推進役としてのコーディネータに宮下委員を決めた。

### 国内活動状況

WG5 の設立のための課題設定と、それに続く新規課題について検討した。

Roadmap については、修正を加えたものを日本提案とし、総会に提出して承認を得た。

Terminology については、斉藤議長より AWG で検討するよう要請があり、日本としての対応を検討した。

PWG6 の課題としては、各 NB に質問のあった Print ticket について、各社の意向をまとめた。また新たに、Record management を取り上げ、その現状と課題について検討した。

## (2) 今後の主要課題

### 新規分野への対応

AWG は SC28 の組織改革を進めてきたが、特に 2 つの新規分野に対して今後何をどのように進めるべきかについて検討をしてきた。そのうちの Office colour については Roadmap を作成し、この分野の課題設定を行ったうえで、WG5 として活動を進めることになった。

もう一つの新規分野である Office applications は AWG/PWG6 で検討をしている。この中では record management 関連などいくつかの重要な課題が検討されており、今後の SC28 の重要な方向性を示唆するものとなる。Office applications で現在検討課題としてあげられているのは、

- ・電子文書管理
- ・Print Ticket
- ・ネットワークセキュリティ

などであるが、いずれも ISO/TC171(文書管理)、Printer Working Group(PWG)、IEEE P2600 など、これまで SC28 と関係を持たなかった標準化機関との連携を考慮していく必要がある。オフィス機器がネットワーク環境下で重要な役割を担っていく以上、こうした活動も SC28 の重要な部分となっていく、今後更に他の標準化組織との調整・協力をしつつ、国際標準化を進めるという活動への対応が求められることになる。

この分野ではフォーラムなどで作成された外部標準を国際標準化するために持ち込まれる可能性も高くなり、そのための対応も考慮する必要もある。

### 新規課題への対応

SC28 Roadmap はユーザの観点と技術的な側面から、オフィス機器分野で必要とされる標準化ニーズについて調査分析を行い、それに対してどのように対応するのかについて SC28 全体の見取り図を描いたものであり、今後の活動の指針とするために作成した。ユーザーニーズの変化と技術の進化と変化に伴い、Roadmap を充実すると共に、課題解決のための方策も検討していく必要がある。従来標準化では新規課題提案や、その課題検討時にはコンセンサス(全会一致)ベースでの解決が求められていたが、それだけでは解決がつかない場合も見られるようになった。特に国内委員会ではコンセンサス(全会一致)以外の方法での解決を図っていかないと日本からの提案、発信が停滞してしまい、必要とされる標準化についても国際的に対応が遅れる恐れもある。そのための妥当な解決策を検討していく必要がある。

### 用語

JTC1 全体の実務に関する用語についての整理が進んでいる。その中で SC28 が担当する分野の実務に関する用語についても、情報技術分野全体から改めて整理し見直すことが求められている。標準化関連用語は、標準が作られた時期や背景、技術の進化などにより変化する。そこでまず、これまでに発行された標準文書と作業中の標準に使われる用語について整理する作業を行う。この活動のコーディネータとして宮下委員が任命されたことから、日本がイニシアティブをとって作業を進める。また、この活動をどのような形に収束されるのか (TR にするかなど)、他の SC、TC などとの調整をどうするのかについても今後の大きな検討課題である。

## (3) 国際会議予定

2010年6月 ロチェスター、米国  
AWG 3名 (うち1名はコンビナ)

PWG6 1名  
2011年1月 サンノゼ、米国  
AWG 3名 (うち1名はコンビナ)  
PWG6 1名

#### 1-4-6 SC28/29142WG (カートリッジ特性)

主査： 宮下 隆明

##### (1) 活動概況

2007年末にNPが採択され審議が開始された、米国提案のNP29142: Cartridge Characterization (カートリッジ特性)に対応するため、2009年1月に独立したWGとしての発足した(SC28国内委員会で承認された)。それ以前は、Cartridge Characterization (カートリッジ特性)対応グループとして活動を続けていたが、SC28国内委員会での位置づけが明らかになったことにより、活動方針、体制も明確になり効率的な活動が可能になった。

国内委員会(29142WG)として、29142国際プロジェクト(29142PJ)への対応を協議、決定する場としての「全体会議」、全体会議に提案する原案作成ほかをおこなう、各パートリーダーをメンバーとした「リーダー会議」で構成されている。本WG設立以前の、29142PJ対応グループの運営を担っていただいた3名のリーダーグループの方々には、アドバイザーとして継続して運営に協力いただいている。

2009年6月末現在で11社より、44名の委員がメンバー登録されている。非常に規模の大きな委員会であるため、全体会議での詳細議論は非常に難しい面があり、必要に応じて以下のPartごとにグループ会議をおこない内容の審議をすすめている。29142PJの構造に対応した、Part1: 一般: 用語、記号 (General :Terms, Symbols and Notations)、Part2: 標示 (Labeling)、Part3: 環境 (Environment)、Part4: インクカートリッジ特性 (Ink cartridge attributes)、Part5: トナーカートリッジ特性 (Toner cartridge attributes)の5つのグループで構成されている。

グループ会議の審議結果を全体会議に諮っていただき、WGとしての意見を集約、日本の意見として29142PJのMain editor (NP提案元の米国)に提出している。全体会議では「各Partから提出された意見が全体の審議の方向と一致しているか」についての議論を重点におこない、合意形成をはかっている。

2008年6月のSC28 Plenary 会議 (Böblingen (ドイツ))に併設して開催されたWG2会議では、プロジェクト体制の決定、Scope原案の作成のみが行われた。2008年10月のWG2会議 (29142 Editors meeting: Lexington (KY) USA)では、標準の骨格にあたるScopeの議論、主要用語の定義づけが行われた。Scopeへのコメント、とりあげるべき試験法、用語、参照環境関連標準の抽出は各NBに宿題として出された。2008年12月末に、Part4: インクカートリッジ、Part5: トナーカートリッジのそれぞれの試験法(案)を提出した。日本からは、Yield試験のみの採用を提案した。また、2009年1月末に取り上げるべき用語(日本案)を提出し、同3月末には各PartのScopeに関する意見も提出した。

2009年6月のWG2会議 (29142 Editors meeting: Busan (Korea))では、Scopeについては細部の未確認項目はあるが、大筋での合意がはかれた。また、試験法については、各国から提案された項目について議論を行ったが、採否の明確な判断基準がないものに対し、米国から「カートリッジの寄与率が>50%」というレベル規定をするという提案がなされた。合意のできない試験法については、各国が持ち帰り、国内で審議のうえ「寄与率が>50%」の合理性も含め意見提案することとした。

以下の日程で標準化をすすめる予定を合意した。

- ・2009年8月：エディター間で合意した1st WD 作成
- ・2009年10月：NB コメント提出
- ・2009年11月：29142 editors 会議：Vienna (Austria) 開催で2nd WD を完成
- ・2009年12月：2nd WD に対する各NB のコメント提出
- ・2010年4月：NB コメントをもとにWD を修正、1stCD を回覧

また、29142 Editors' meeting でCD登録の期限を2010年12月に1年延期することをSC28 Plenary で提案し承認された(当初計画よりも審議が難航し、2年間ではCD登録が困難であることが判明したため)。その後、SC28 Secretary から ITTF に申請し受理された。

さらに、2009年8月にPart3(環境)のAssistant editor として平井氏(リコー)がSC28より追加指名された。これで、全Partに日本からAssistant editor としての参加が可能になり、日本の意見反映を容易にする体制が整った。

2009年11月に、2009年10月にMain editor から提出されたWDに基づき29142 editors 会議(Vienna (Austria))を開催し、具体的な標準原案の審議をすすめた。各PartのScopeについてはほぼ合意に達し、記述内容(本文)の審議をすすめた。しかし、Part3(環境)については、どのような内容(レベル)の標準にするか、ということについての合意形成ができなかった。Main editor が持ち帰り、12月末を目標に修正案を提出するという計画が非公式に示された。その後、2月末に提出したい、というこれも非公式のアナウンスがあったが、3月初旬時点では提出されていない。Part1では、本標準の用語、あるいは適用範囲などを定めているが、最後まで議論になったカートリッジの定義については「・・・operating with・・・」という用語を使用することで、「プリンターの動作時に装着されているものをカートリッジとする」という明確な基準が設けられ、理解がすすんだ。Part2のラベルについても、「Declaration」として製品に添付する情報、「Customer report」としてWebサイトなどで公開する情報、「Technical report」としてユーザーからのリクエストに応じて公開する情報の3種に分けたことで整理がすすんだ。Part4(インク)、Part5(トナー)については、試験法の採否についての議論が続いている段階で、合意形成にはまだ若干の時間を要することになる。

次ステップは、2010年6月の29142会議(SC28Plenary会議(Rochester (NY:USA)と併設)でWD2(改定WD)の審議をおこなう予定である。それに先立ち、3月末には各PartのEditorからWD2案が提示されることを予定しており、4月に全体会議を開催してWD2への対応を協議、日本の意見を取りまとめて行く予定である。

## 1) 国際会議

- ・WG2会議(2009年6月：SC28 plenary 会議と同時開催：Busan (韓国))

Scopeについては、細部の未確認項目はあるが大筋での合意がはかられた。また、試験法については、各国から提案された項目について議論を行い、一部未合意の試験法については、各国が持ち帰り、国内で審議のうえ「寄与率が>50%」の合理性も含め意見提案することとした。次回会議(2009年11月)までにWDをEditorが作成し事前に回覧することも合意した。

29142PJのCD登録の期限を当初計画より1年延期し、2010年12月にすることをSC28 Plenary 会議で提案し承認された。その後、SC28 Secretary から ITTF に申請し受理された。

- ・WG2会議(2009年11月：Vienna (オーストリア))

2009年11月にVienna(オーストリア)で開かれたWG2会議(29142 Editors 会議)で、標準

の骨格にあたる Scope について大筋で合意した。Part1 でカートリッジの定義については明確な基準を設けた。Part2 のラベルについても「Declaration」「Customer report」「Technical report」の3種に分け整理した。Part4（インク）、Part5（トナー）については、試験法の採否についての議論を続けることで合意。Part3（環境）については、標準のレベル（めざすもの）についての意見の差が埋められないため、再度 Editor が改定案を検討することとした。おおむね以下のような日程を進めることを想定し原案作成をすすめている。

- ・ 2010年3月末：WD2（改定WD）の提出
- ・ 2010年6月：Rochester 会議（WD2 審議）
- ・ 2010年8月末：CD 原案提出
- ・ 2010年10月：CD 原案審議（投票原案作成）
- ・ 2010年12月：CD 投票開始

## 2) 国内活動状況

本年度の国内 29142WG は 5 回開催し（全体会議の準備のためのリーダー会議は 8 回開催）、2009年6月のWG2 会議（29142 Editors 会議：Busan（韓国））、2009年11月のWG2 会議（29142 Editors 会議：Vienna（オーストリア））での検討に対応するための審議を主に行った。

## (2) 今後の主要課題

2010年6月開催予定のRochester（NY:USA）Plenary 会議に併設開催される、WG2 会議で審議予定の本標準の骨格、CD 投票に向け作成される改定WD（WD2）への対応を事前に行なう。また、2010年秋開催予定のWG2 会議で議論される予定の、CD 投票原案作成に対し事前に日本の意見をまとめ、その意見をいかに原案に反映するかについても対応して行く。

## (3) 今後の国際会議参加予定

- ・ 2010年6月開催 WG2 会議（Rochester（NY：USA）SC28 Plenary 会議併設）  
29142 国際プロジェクト Assistant editor： 5名  
（国内委員会（29142WG）主査は、Assistant editor 兼務のため合計5名）
- ・ 2010年秋 WG2 会議（10月開催：場所は未定（ヨーロッパでの開催を予定））  
29142 国際プロジェクト Assistant editor： 5名  
（国内委員会（29142WG）主査は、Assistant editor 兼務のため合計5名）

## 1-5 SC 35 (ユーザインタフェースインタラクション : User Interface Interaction)

委員長 山本 喜一 (慶應義塾大学)

### (1) 活動概況

- ・ 国際 SC 35 では、7つの下記 WG において規格化活動が行われている。幹事国/議長国はフランスが務め、日本は2つの WG のコンビナ (WG 2 : 山本喜一, WG 4 : 中尾好秀) を務めている。
- ・ WG 1 : キーボード及び入力インタフェース
- ・ WG 2 : グラフィカルインタフェース及びインタラクション
- ・ WG 4 : モバイルデバイスのインタフェース
- ・ WG 5 : 文化的及び言語的適合性
- ・ WG 6 : ユーザインタフェースアクセシビリティ
- ・ WG 7 : ユーザインタフェースのオブジェクト, 動作及び属性
- ・ WG 8 : 遠隔インタラクションのためのユーザインタフェース
- ・ OWG-NUIM : 4 方向キー
- ・ OWG-VC : 音声コマンド

国内では、WG 5 及び WG 8 を除く WG の審議は JBMIA, SC 35 (WG 5 及び WG 8 含む) の案件審議は情報処理学会という形式で審議を行っているが、実質的な審議は JBMIA 内で WG との合同委員会において行っている。

また国内 WG については、WG 1, WG 2 (WG 7 の案件を含む), WG 4, WG 6, WG 8 の5つが組織されており、その WG でそれぞれの案件を審議している。尚、WG 5 については SC 35 専門委員会で対応している。

平成 21 年度は、国際 SC 35 の成果として ISO/IEC 24786 (Accessible user interface for accessibility settings) の IS 1 件が 12 月に出版された。

又、以下の国内委員会の審議、国際会議へ参加する事により SC 35 国際標準化の推進を図って来た。

### (1) 国内委員会

平成 21 年度は、SC 35 専門委員会及び WGs 合同会議を 12 回 (原則として月 1 回) 実施し、NP 8 件, CD 4 件, FCD 9 件, FDIS 8 件, PDAM 1 件の合計 30 件の投票を行った。

### (2) 国際会議

SC 35 国際会議総会は各 WG 会議と合同で行っており、平成 21 年度は 2 回開催された。

平成 21 年 8 月 22 日～26 日                      カナダ                      サスカトゥーン市

平成 22 年 2 月 22 日～26 日                      スペイン                      マドリッド市

日本からは、カナダ会議へは山本 (慶大), 池田 (千葉大), 中尾 (JBMIA), 関 (産総研), 中野 (JBMIA), 野村 (日立), 高本 (富士通), 大野 (JBMIA 事務局) の 8 名, スペイン会議へは、池田, 中尾, 関, 中野, 野村の 5 名が参加した。スペイン会議は公式には General orientation meeting (GOM) として開催されたが、実質的には総会と同じである。GOM 後のプロジェクトの進捗状況を (表 1)



に示す。

## (2) 各 WG の審議状況

SC 35 としては、上記のとおり平成 21 年度合計 30 件の投票を行った。各 WG については、対応国内 WG の活動報告に述べるが、国内で未組織の WG 5 及び情報処理学会組織の WG 8 の審議状況は下記となっている。

### (1) WG 5

**FCD 15897 Information technology — User interfaces — Procedures for registration of cultural elements** の投票が終了し賛成多数で承認され、Disposition of comments と共に FDIS 投票に進めることになったが、日本としては作業を妨げることはしないが特に参加することもしない。

### (2) WG 8

計画していた IS の出版がすべて終了した。本年度は実質的な活動は行われなかったが、新規案件が出てきたので、その対応が必要となる。

## (3) 今後の主要課題

アクセシビリティに関する関連規格として JIS X 8341-2 対応の規格案(ISO/IEC 29136)の作成を行ったが、本年度には 2nd CD 投票の開始まで進めた。来年度以降、出来るだけ早くの IS 出版に向けて引き続き努力する。

## (4) 特記事項

SC 35 においては日本が 2 つの WG のコンビナを務めるとともに、3 件のプロジェクトでプロジェクトエディタを務めている。今後さらに SC 35 における日本からの国際的な活動が期待されている。特に、アクセシビリティ関連の規格については日本からの更なる貢献が期待されている。

日本の池田名誉教授がプロジェクトエディタを務めている **Information technology — User interface icons — Part 40: Management of icon registration** の FCD 投票が終了し、反対票なく承認されたが、多言語機能に関する事項(参考)を追加して FDIS 投票に付すことになった。これまで、データベースのプロトタイプを作成して評価してきたが、今後は、IS の制定と共に VT 11581 を立ち上げることが予想されるので、本番の DB を運用する体制を考える必要がある。

今年度本格的に活動を開始した、ISO/IEC 13066, **Information Technology — User interfaces — Interoperability with assistive technology** については、WG 6 で扱うことになったが、マルチパートで対象範囲が極めて広く、作業文書が出てきた時点で国内での審議体制を強化する必要がある。

## (5) 平成 22 年度国際会議予定

平成 22 年 8 月 23 日～27 日

南米またはイタリア (仮)

平成 23 年 2 月 21 日～25 日

米国 シアトル市

## (1) 活動概況

9995 シリーズの第3次改正作業は、6件の FDIS 投票後 IS が発行された。これら改訂作業に加えて、6件の FDIS 投票、1件の FCD 投票を行った。キーボード配列の標準化の重要性の高まり(特に欧州)を受けて、活発な規格開発が行われている。また、WD 29135 (Frameworks for text entry based on 3x3 Matrix Layout) は、提案国の韓国の進捗が遅れ廃案となったが、我が国としては NP 投票時に特に必要がないと判断し、反対投票としていたので、特に問題はない。

## (2) 審議状況

9995-1 Keyboard layouts for text and office systems — Part 1: General principles governing keyboard layout の FDIS 投票において、賛成投票しているが、従来規格に比較して適用領域が拡大。リニア配列キーボード全てが対象。9241-410 を引用。4.1 に Editing Key 追加、4.15 level lock state: 追加、4.19 section 削除などが変更の要点であった。

9995-2 Keyboard layouts for text and office systems — Part 2: Alphanumeric section の FDIS 投票について、これまでの投票審議で問題はなく賛成投票とした。従来規格に比較して図1のゾーン数が5~3に減少したこと、キー数は最小数が48が45に減少したこと、機能キーとして Control(8.3.9)と Function(8.3.10)が追加されたこと、及び5.2 物理的な Section や Zone の区分けが簡略化された、図が3つに分類され理解しやすくなったことが主な変更点であった。

9995-3 Keyboard layouts for text and office systems — Part 3: Complementary layouts of the alphanumeric zone of the alphanumeric section の FCD 投票について、これまでの投票審議で問題はなく賛成投票とした。従来規格に比較して主な改正点が「適用領域が拡大。欧州の CEN WS で 2008 年 1 月に設立された MEEK (Functional Multilingual Extensions to European Keyboard Layouts) との合同作業により、次の目的に対応するようにした。すなわち、UNESCO、欧州憲章により固有の文化を大切に、少数民族の文化を継承する目的で、多言語に対応したキーボード及びキー入力方式を開発中であり、SC 35 としては 9995-3 を改訂することによりこれらの要求を満たそうとしている。そのために ISO/IEC 10646:2003 に規定されている MES-1 を最小限カバーし更に多用される可能性のある固有名詞や土俗の言語にも配慮し、入力可能なように検討している。このため表が大幅に増加している。」であった。

9995-4 Keyboard layouts for text and office systems — Part 4: Numeric section の FDIS 投票について、これまでの投票審議で問題はなく賛成投票とした。従来規格に比較して、主な改正点が「図1のゾーン数が7から2に減少した」ことであった。

9995-5 Keyboard layouts for text and office systems — Part 5: Editing and function section 9995-5 の FDIS 投票について、これまでの投票審議で問題はなく賛成投票とした。従来規格に比較して、主な改正点は 9995-6 を統合して新 9995-5 としたこと及び図1のゾーン数が3であったのが2に減少したことであった。

9995-7 Partie 7: Symboles employés pour la représentation de fonction の FDIS 投票について、これまでの投票審議で問題はなく賛成投票とした。

PDAM1 9995-7: 日本の投票案は受け入れられた。

9995-8 Keyboard layouts for text and office systems — Part 8: Allocation of letters to the keys of a numeric keypad の FDIS 投票について、これまでの投票審議で問題はなく賛成投票とした。

9995-9 の NP 提案（9995-1 の適用範囲の中で、それぞれの国板のキーボード配列の図形文字集合のキーボード上の配列で最小限の文字で入力を可能とする）がなされた。

9995-10 の NP 提案（キーボード上や文書中で用いられる同一のグリフもしくは類似のグリフを識別するシンボルと方法を規定する）がなされた。

### (3) 今後の主要課題

9995-7AMD1, 9995-9, 9995-10 及び TR15440 改訂の審議が予定されている。

### (4) 特記事項

・特になし。

### (5) 平成 22 年度国際会議予定

平成 22 年 8 月 23 日～27 日 南米またはイタリア（仮）

平成 23 年 2 月 21 日～25 日 米国 シアトル市

## 1-5-2 SC 35/WG 2（グラフィカルインタフェース及びインタラクション） 主査 中尾 好秀

### (1) 活動概況

(1) WG 2 国際会議は、以下のように 2 回開催された。

平成 21 年 8 月 22 日～26 日 カナダ サスカトゥーン市

平成 22 年 2 月 22 日～26 日 スペイン マドリッド市

(2) 国際会議の審議概要と主要成果

#### サスカトゥーン会議

- WG 2 会議は WG 7 との合同会議として 8 月 22 日午後～8 月 23 日午前に開催された。日本、韓国、カナダ、イタリア、英国の 5 か国から 14 名の委員が出席し、ISO/IEC 11581 アイコンデータベース関連の審議及び ISO/IEC 13251:2004 “事務機器用図記号集” のメンテナンスについて討議を行った。

- 日本提案の ISO/IEC 11581-40 “アイコンデータベース管理手順” については、ISO/IEC 11581-10 及び-41 との整合性を確保するため、一部の記述を削除してこれらを参照すること及びタイトルの整合をとることにして、次の決議を得た。

SC 35 は ISO/IEC 11581-40 のエディタ（池田宏明名誉教授）に先の CD 投票で寄せられた各国意見の確定対応文書とともに、FCD テキストを会議終了後直ちに幹事国に提出することを要請する。幹事国には、それを受けて、2010 年 2 月の WG 2 会議までに投票結果が得られるように FCD 投票を開始することを指示する。

- ISO/IEC 13251:2004 “事務機器用図記号集” の定期見直しについては、SC 35 は各国にこの規格を変更なしで継続するように要請するという決議を得た。

- NP として承認された ISO/IEC 11581-41 に関連して、11581 シリーズの全てのタイトルの整合性を再検討した。この結果、タイトルを“情報技術—ユーザインタフェースアイコン—第 41 部：ISO/IEC JTC 1/SC 35 アイコンデータベース用データ構造”（Information Technology - User Interface Icons - Part 41: Data structure to be used by the ISO/IEC JTC 1/SC 35 Icon Database）とすることに合意した。現状調査報告に基づき、

ISO/IEC 11581 アイコンデータベースのアイコングラフィックスに SVG (Scaleable Vector Graphics)を採用することとし、ISO/IEC 11581-41 のプロジェクトエディタに Dr Jim Carter を、コ・エディタに Mr Richard Hodgkinson を指名した。

### (3) 国内会議

- ・ FCD 11581-40 : User Interfaces Icons – Part 40: Management of Icon Registration の FCD 案を作成し SC 35 事務局へ FCD 投票のために提出した。
- ・ DTR 11581-1 : User Interfaces Icons – Part 1: Introduction to and overview of icon standards の DTR 投票を賛成として提出した。
- ・ FCD 11581-10 : User Interfaces Icons – Part 10: Framework and general guidance の FCD 投票を賛成として提出した。
- ・ FCD 11581-40 : User Interfaces Icons – Part 40: Management of Icon Registration の FCD 投票を賛成として提出した。

\*国内においては、WG 7 の審議案件は WG 2 で対応している。WG 7 では、アイコン規格の再構築を行うため 3 件の提案が承認された。すべてのアイコンを統一した形式で定義し直し、日本から提案したデータベースで管理する計画で、今後とも日本は積極的に協力していく。

### (2) 今後の主要課題

- ・ 日本提案のアイコン登録手順 ISO/IEC 11581-40 成立後の対応
- ・ WG 7 の 2 つの案件及び 11581 シリーズの見直しの審議

### (3) 特記事項

- ・ IEC SC 3C “機器装置用図記号” の国内審議委員会との間に、PC 特殊機能キーの機能と図記号を検討する国内 JWG を設置し、関連した国際審議動向に即応できるようにした。

### (4) 平成 22 年度国際会議予定

平成 22 年 8 月 23 日～27 日	南米またはイタリア (仮)
平成 23 年 2 月 21 日～25 日	米国 シアトル市

## 1-5-3 SC 35/WG 4 (モバイルデバイスのユーザインタフェース) 主査 池田 宏明

### (1) 活動概況

(1) WG 4 国際会議は、以下のように 2 回開催された。

平成 21 年 8 月 22 日～26 日	カナダ	サスカトゥーン市
平成 22 年 2 月 22 日～26 日	スペイン	マドリッド市

(2) 国際会議の審議概要と主要成果

#### サスカトゥーン会議

- ・ WG 4 会議は、モバイルデバイスのニューワークアイテムとして検討を行っている 4 方向キーの OWG-NUIM(モバイルデバイスのためのニューユーザインタフェース)及びボイスコマンドの OWG-VC(ボイスコマンド)及び WG 1 と合同で会議を開催した。日本、韓国、カナダ、イタリ

ア、フランス、英国の6ヶ国から16名の委員が出席し審議を行った。

- **OWG-NUIM の審議概要**

OWG-NUIM コンビナの中尾主査から日本の4方向キーインタラクション検討委員会が行った国内の携帯機器の調査結果及び実施予定のユーザビリティテストの概要を報告した。調査結果としては、主な6つの操作パターンについて説明し、この中から3つの操作パターンを抽出し、ユーザビリティテストの内容を報告した。ユーザビリティテストに関しては、既に試作しているWebページを表示し、テストの実施内容を説明した。また評価方法として、他のユーザビリティテストの評価方法を例示し説明を行った。これらのユーザビリティテストの結果を踏まえて、WDを2月までに作成し、次回会議で日本からニューワークアイテム提案を行うことを報告し承認された。

- **OWG-VC の審議概要**

関主査から日本でのボイスコマンド検討委員会の調査結果及び今後の進め方を報告し審議を行った。日本でボイスコマンドを搭載している製品は少ないが、関心を持っているメーカーが多いことを報告すると、製品化が進む前に早く標準化を行うことが必要との意見が出された。その他に、下記のような意見が寄せられた。

- ① 前回会議で各国委員会に調査をお願いしたが、回答が得られなかった結果から特定の個人に協力を依頼すべき。
- ② ETSIでボイスコマンド規格を策定しているが、これらのドキュメントをNナンバー化して公開すべき。
- ③ 計画では2011/2にNP提案をすることになっているが、もっと早く提案してほしい。
- ④ Translationの方法はTRのほうが良い。
- ⑤ 大国のローカライゼーションは重要で、よく知らなければならない。
- ⑥ VCはTC159でも審議されているが具体的なボイスコマンドの標準化は行っていないので、SC 35がリーダーシップを取れる。
- ⑦ RichardへETSIのHFグループへ協力依頼を頼む。

- **決議内容**

- ① WDを作成するために4方向キーの調査を継続することを認め、OWG-NUIMを1年間延長し、日本委員会の賛同が得られれば、酒井氏をコンビナに指名する。
- ② OWG-NUIMによる4方向キーに関する調査とプレゼンテーションを承認し、試験的にタイトル付けしたニューワークアイテムを準備すること。4方向キーをもつラダーメニューのナビゲーション方法はWG 4に割り当てる。日本委員会の賛同が得られれば、酒井氏をプロジェクトエディタにする。
- ③ WDを作成するためにボイスコマンドの調査を継続することを認める。OWG-VCを1年間延長し、日本委員会の賛同が得られれば、関氏をコンビナに指名する。
- ④ OWG-VCがニューワークアイテムを準備すること。このニューワークアイテムは、多言語スタンダード（本文は、英語とフランス語で、興味を持つ国の委員会の対応により付属文書を持つ）として、WG 5に割り当てる。日本委員会の賛同が得られれば、関氏がプロジェクトエディタになる。

## マドリッド会議

- WG 4会議は、OWG-NUIM, OWG-VC, WG1, WG5と合同で会議を開催し、日本、カナダ、フランス、英国、アメリカ、ドイツ、スペイン、スウェーデンの8か国から22名の委員が出席し、4方向キー

(OWG-NUIM), ボイスコマンド (OWG-VC) , 指ベースのジェスチャについて審議を行った。

- OWG-NUIM (4方向キー)

OWG-NUIMの代理コンビナの中尾主査が、4方向キーのユーザビリティテストの概要、その実験結果を報告した。実験した3つのパターンについてメニューの階層数及びラダーメニュー数との関係や初心者や高齢者や障害者に対する優位性などについての実験結果を報告した。参加者からは、「3つのパターンを切り替えられるようにした方が良いのでは？」や「メニューの規格 9241-14:1997 Ergonomic requirements for office work with visual display terminals (VDTs) — Part 14: Menu dialogues (TC159/SC4)にメニューの規格化もされているので、参照する必要がある。」や「Menuのoperationとdesignは別である」などの意見が寄せられた。審議の結果、今後の方針として、OWG-NUIM

は、解散してPWIとして登録し、日本がニューワークアイテムを準備してNP提案を行うよう要請があった。

- OWG-VC (ボイスコマンド)

OWG-VCコンビナの関主査が、日本メーカでのアンケート調査などの活動結果を報告した。審議の結果、OWG-VCを解散し、ボイスコマンドに関する以下の4つの部をPWI登録することになった。そして、Part 4については関がエディタとなり11581-40を手にNPを作成することになった。

Part 1 - Framework and general guidance

Part 2 - Procedures for constructing and testing

Part 3 - Translation issues and inter-language issues for voice command

Part 4 - Management of voice command registrationの

- Finger-based gestures の紹介

ISO/IEC 14754:1999 でペンベースジェスチャを規格化したが、最近携帯電話やカーナビ

などで、採用されている指ベースジェスチャについて紹介を行った。審議で、「標準化テーマとして取り上げるべき」「特許が問題になる可能性がある」「標準化する場合は、ジェスチャの数を増やすべき」などの意見が寄せられた。

### (3) 国内会議

- JBMIAを通じて国内の関連業界団体や企業に依頼し、「ボイスコマンド」の商品への搭載状況及び標準化に対するアンケート調査を行い、調査結果をマドリッド会議で報告を行った。
- 「4方向キー」標準化の予備調査として、平成20年10月にSC35国内専門委員会の委員が中心となって、「個人用移動通信装置の十字キーインタラクションに関する標準化調査研究」委員会(事務局は日本規格協会)を設立した。産総研でユーザビリティ調査を行い、平成22年2月に調査が終了した。

### (2) 今後の主要課題

- 「4方向キー」のニューワークアイテム提案を作成しSC35事務局へ提出する。また、平行してWDの準備を進める。
- マドリッド会議で紹介したFinger-based gestures コマンドの標準化に関して、特許関係や日本企業の商品化状況や実用化しているコマンドの種類などに関して調査を行う。

### (3) 特記事項

- ・ 特になし。

### (4) 平成 22 年度国際会議予定

平成 22 年 8 月 23 日～26 日	南米又はイタリア (仮)
平成 23 年 2 月 21 日～25 日	米国 シアトル市

## 1-5-4 SC35/WG6 (ユーザインタフェースアクセシビリティ) 主査 関 喜一

### (1) 活動概況

平成 21 年度は 3 課題を審議した。本年度は、日本からの 2 件の提案のうち 1 件は IS 発行、残り 1 件は CD 採択を獲得。

(1) WG6 国際会議は、以下のように 2 回開催された。

平成 21 年 8 月 22 日～26 日	カナダ	サスカトゥーン市
平成 22 年 2 月 22 日～26 日	スペイン	マドリッド市

(2) 国際会議の審議概要と主要成果

- ・ ISO/IEC 24786:2009 Accessible User Interface for Accessibility Settings. (日本提案規格: エディタ関喜一 WG6 主査) は、2009 年 8 月の FDIS 採択後、2009 年 12 月 7 日に IS として発行された。
- ・ CD 29136 Hardware Accessibility Features for Personal Computers (日本提案規格: エディタ野村氏) については、2009 年 7 月に CD 投票が終了し、賛成多数で可決した。ただし、8 月のサスカトゥーン会議で審議の結果、修正箇所が多いため 2nd CD 投票が必要と判断されたので、SC35 事務局は期間の延長を ITTF に申請することになった (2nd CD 登録 2010 年 4 月, FCD 登録 2011 年 3 月, FDIS 登録 2012 年 3 月)。ドキュメント修正の作業予定としては、2009 年 11 月末までに本文を修正して WG6 メンバに回覧し、WG6 メンバは 2010 年 1 月末までにコメントを野村委員に返送し、2010 年 2 月のマドリッド会議で審議を継続することになった。マドリッド会議での審議では、CD 投票の際 disposition として” Not accepted” とした箇所についてのみ審議を行った。その結果、Keyboard に関する箇条を再構成するなどの修正が行われた。またタイトルを Accessibility of Personal Computer Hardware に変更することとなった。審議の結果、2nd CD 投票へ進むことになった。
- ・ 13066 Interoperability with Assistive Technology (AT) シリーズについては 5 つのパートの審議を行った。CD 13066 Part 1 については、2009 年 7 月に CD 投票が終了し、賛成多数で可決した。8 月のサスカトゥーン会議で審議の結果、ad hoc グループを作って本プロジェクトの編集を行い、2010 年 2 月のマドリッド会議で審議できるように WG6 メンバに回覧することになった。また 13066 の AT API TRs の体裁指針 (Style Guide) を出すことが求められた。NP TR 13066 Part 2 と 3 については、NP 投票が終了し、2009 年 7 月に賛成多数で可決した。8 月のサスカトゥーン会議で審議の結果、AT API TRs の体裁指針に基づき修正版を作成し、N ナンバー文書として発行して 2010 年 2 月のマドリッド会議で審議することになった。NP TR 13066 Part 4 (Java) と 6 (Linux) については、カナダに対して 2009 年 10 月までに新規提案をするように要求し、その後 NP 投票に付されることになり、結果採択された。2010 年 2 月に開催されたマドリッド会議では、

CD 13066 Part 1 については、CD 投票時のコメントに対する disposition うちサスカチューン会議で” accepted” としなかったコメントの審議が行われた。審議の結果、FCD 投票に進むことになった。次に TR 13066-2-7 までの一貫した体裁を定める Style Guide についての審議を行い、合意に至った。TR 13066-2, 3, 4, 6 の本文については、エディタは 2010 年 5 月末までに案を送って N ナンバー化して回覧し、WG メンバは 6 月末までにコメント返し、各エディタは 7 月末までに新しい案を作成し、その後 PDTR 投票に付すことになった。Part 4 についてはタイトルを Linux accessibility API から Linux / Unix graphical environments accessibility API に変更し、エディタを Ms. Janina Sajka が担当することになった。また Part 6 については、Dr. Jim Carter が担当することになった。

## (2) 今後の主要課題

欧米でのアクセシビリティ関連の動向にも注意し、国内の関連団体と調整を取りながら検討を行うことが必要である。次年度は日本提案 1 件を FCD として採択させる。

## (3) 特記事項

アクセシビリティ関連の国際規格化活動として、平成 20 年度経済産業省委託事業に下記を協会から申請し SC35 において活動を行った。

- ・「基準認証研究開発事業」：日本提案規格 WD 29136 “Hardware accessibility features for personal computers” の国際審議活動（（財）日本規格協会 情報技術標準化研究センター (INSTAC)）

## (4) 平成 22 年度の会議予定

平成 22 年 8 月 23 日～27 日	南米またはイタリア（仮）
平成 23 年 2 月 21 日～25 日	米国 シアトル市

## 1-5-5 SC 35/OWG-NUIM（4 方向キー）

委員 酒井 英典

### (1) 活動概況

(1) OWG-NUIM 国際会議は、以下のように 2 回開催された。

平成 21 年 8 月 22 日～26 日	カナダ	サスカチューン市
平成 22 年 2 月 22 日～26 日	スペイン	マドリッド市

(2) 国際会議の審議概要と主要成果

- ・14th ISO/IEC SC 35 スカトゥーン国際会議 WG 4 会議(User interfaces for mobile devices)においてコンビナ中尾主査のもとで OWG-NUIM, OWG-VC 及び WG 1 と合同で審議を行った。4 方向キーに関して、中尾主査は日本で各製品分野別の携帯用情報機器の調査の結果を報告した。また、次回会議にユーザビリティ・テストの概要及び 2010 年 2 月までにワーキングドラフトを作成してニューワークアイテム提案を行う計画を報告し、承認された。日本提案である 4 方向キーの国際標準に関する審議案件は、酒井委員が OWG のコンビナとして承認され、次回の委員会にて NP 原案を審議する事を目標とした。
- ・15th ISO/IEC SC 35 マドリッド国際会議 WG 4 会議において WG 1, WG 4, WG 6 及び OWG-NUIM と合同で審議を行った。日本でのユーザビリティ・テストの調査結果の報告を行なった。審議の結果、OWG-NUIM は解散して PWI 登録を行うことを決定した。日本から NP 提案を行



うよう要請があり，採択後 WG4 で審議を行う。

## (2) 今後の主要課題

複合化が進展する携帯用情報機器のユーザインタフェース関連の動向にも注意し，国内の関連団体と調整を取りながら検討を行うことが必要である。（仮）次年度は日本提案として NP 原案を検討し，NP 提案を行い採択させる。

## (3) 特記事項

情報分野の競争力強化に関する標準化活動として，平成 20 年度経済産業省委託事業に財団法人日本規格協会 情報技術標準化研究センター（INSTAC）から申請し，「携帯用情報機器の 4 方向キーインタラクションに関する標準化」調査研究委員会と協業しながら活動を行った。

- ・平成 21 年経済産業省委託平成 21 年度基準認証研究開発委託（情報分野の競争力強化に関する標準化）「携帯用情報機器の 4 方向キーインタラクションに関する標準化」

## 1-5-6 SC35/OWG-VC（音声コマンド） 主査 関 喜一

### (1) 活動概況

- (1) OWG-VC 国際会議は，以下のように 2 回開催された。

平成 21 年 8 月 22 日～26 日	カナダ	サスカチューン市
平成 22 年 2 月 22 日～26 日	スペイン	マドリッド市

- (2) 国際会議の審議概要と主要成果

- ・14th ISO/IEC SC 35 スカトウーン国際会議 WG4 会議 (User interfaces for mobile devices) においてコンビナ中尾主査のもとで OWG-NUIM, OWG-VC 及び WG1 と合同で審議を行った。日本提案であるボイスコマンドの国際標準に関する審議案件は，関主査が OWG のコンビナとして承認され，次回の委員会にて NP 原案を審議する事を目標とした。
- ・15th ISO/IEC SC 35 マドリッド国際会議 WG4 会議において WG4, WG5 及び OWG-NUIM と合同で審議を行った。審議の結果，OWG-VC を解散し，Voice Command に関する以下の 4 つの部を PWI 登録することになった。そして，Part 4 については関がエディタとなり 11581-40 を手本に NP を作成することになった。
  - Part 1 - Framework and general guidance
  - Part 2 - Procedures for constructing and testing
  - Part 3 - Translation issues and inter-languages issue for voice command
  - Part 4 - Management of voice command registration

### (2) 今後の主要課題

複合化が進展する情報機器のユーザインタフェース関連の動向にも注意し，国内の関連団体と調整を取りながら検討を行うことが必要である。次年度は日本提案として NP 原案を検討し，NP 提案を行い採択させる。

### (3) 特記事項

特に無し

表 1 – JTC 1/SC 35 プロジェクトの 2010 年 GOM での進捗状況

プロジェクト 番号	Title	会議前	会議後 (予定)	WG
9995-7	Keyboard layouts for text and office systems – Part 7: Symbols used to represent functions	PDAM1	FPDAM	1
9995-9	Keyboard layouts for text and office systems – Part 9: Multi-lingual usage, multiscrypt keyboard group layouts	WD	New WD	1
9995-10	Keyboard layouts for text and office systems – Part 10: Conventional symbols and methods to represent graphic characters not uniquely recognizable by their glyph on a keyboard and in documentation	NP	FCD	1
11581-1/TR	User interface icons – Part 1: Introduction and overview of icon standards	DTR	2DTR	7
11581-10	User interface icons – Part 10: Framework and general guidance	FCD	FDIS	7
11581-40	User interface icons – Part 40: Management of icon registration	FCD	FDIS	2+7
11581-41	User interface icons – Part 41: Data structure to be used by the ISO/IEC JTC 1/SC 35 icon database	NP	CD	7
13066-1	Interoperability with Assistive Technology (AT) – Part 1: Requirements and recommendations for interoperability	CD	FCD	6
13066-2/TR	Interoperability with Assistive Technology (AT) – Part 2: Windows automation framework accessibility API	NP	WD	6
13066-3/TR	Interoperability with Assistive Technology (AT) – Part 3: IAccessible2 accessibility API	NP	WD	6
13066-4/TR	Interoperability with Assistive Technology (AT) – Part 4: Linux / Unix graphical environments accessibility API	NP	WD	6
13066-5/TR	Mac OS accessibility API			6
13066-6/TR	Interoperability with assistive technology (AT) – Part 6: Java accessibility API	NP	WD	6
13066-7/TR	ARIA accessibility API			6
TR 15440:2005	Future keyboards and other [associated] input devices and [related] entry methods	TR	Review	1
24752-X	Universal remote console – Web service integration	--	(NP)	8
24756	Framework for specifying a common access profile (CAP) of needs and capabilities of users, systems, and their environments	PPT	WD	6
29136	User interfaces – Accessibility of personal computer hardware	CD	2CD	6

プロジェクト 番号	Title	会議前	会議後 (予定)	WG
PWI-NUIM	User interfaces – Navigation methods for ladder menus with a 4-Direction key	PPT	(NP)	4+(1, 6)
PWI-VC-1	Voice command – Part 1: Framework and general guidance	PPT	--	5+(1,4,6)
PWI-VC-2	Voice command – Part 2: Procedures for constructing and testing	PPT	--	5+(1,4,6)
PWI-VC-3	Voice command – Part 3: Translation issues and inter-language issues for voice command	Ditto	--	5+(1,4,6)
PWI-VC-4	Voice command – Part 4: Management of voice command registration	Ditto	(NP)	5+(1,4,6)
XXXX	Symbols, icons characters, glyphs	NP	WD	5
(Type 2 TR)	Specification methods for cultural conventions	-	PDTR	5
(Type 3 TR)	Universally available personal computing environment (including on the internet)	-	NP	5+6

注記：プロジェクト番号の先頭に付くべき“ISO/IEC”及び Title の先頭に付くべき “Information technology –”は省略されている。

## 2. 平成 21 年度 第 108 委員会活動結果報告書

第 108 委員会事務局 JBMIA

### 2-1. 第 108 委員会（オーディオ・ビデオ及び情報技術機器の安全性）

2-1-1. 活動概要（全体）

2-1-2. MT1(旧 92)分科会活動概要

2-1-3. MT2(旧 74)分科会活動概要

2-1-4. HBS 分科会活動概要

2-1-5. WG 環境分科会活動概要

2-1-6. JIS C 6065 追補版及び改正原案作成活動概要

2-1-7. JIS C 6950-1 改正原案作成活動概要

2-1-8. JIS C 62075 原案作成活動概要

（参考 1）国際規格回答原案等リスト

（参考 2）国際会議出席者リスト

（参考 3）関連国際規格の現状と今後の計画（見通し）

## 2-1 第108委員会（オーディオ・ビデオ及び情報技術機器の安全性）

委員長 羽鳥 光俊

### 2-1-1 活動概要（全体）

平成21年度は、33件の国際規格回答原案等について審議を行った。主な内容は、（1）に示すとおりである。なお、国内規格については、IEC 60065:2001 に対して2005年に発行されたAmendment 1に対応したJIS C6065:2007の追補版（追補1）及びIEC60950-1:2001に対応したJIS C 6950-1:2009が発行された。IEC60950-1はすでに第2版が発行されていることから、原案作成検討グループを設置して、JIS改正原案の審議を行ってきた。MT1分科会、MT2分科会、HBS分科会及びWG環境分科会の詳細は、各分科会活動概要の項参照。

#### （1）国際規格対応について

平成21年度は、TC108から発行される審議文書について、下記件数の投票を行った。詳細は、添付資料“（参考1）H21年度国際規格回答原案等リスト”参照。

・ NP (New Work Item Proposal) :	0 件
・ CD (Committee draft for comment) :	0 件
・ DC (Document for Comments) :	28 件
・ CDV (Committee Draft for Vote) :	1 件
・ FDIS (Final Draft International Standard) :	2 件
・ Q (Questionnaire) :	2 件

#### （2）国内規格対応について

##### 1) IEC 整合 JIS 原案の審議

JIS 原案作成検討グループ及び JIS 原案作成委員会を開催して改正原案の審議を行った。

- ・ JIS C 6065 : オーディオ、ビデオ及び類似の電子機器—安全性要求事項  
平成20年度に審議を終了したJIS C 6065:2007版に対しての追補版（IEC 60065 Ed. 7 Am1 対応）が平成21年12月21日付けで発行された。
- ・ JIS C 6950-1 : 情報技術機器—安全性—第1部：一般要求事項  
JISC6950-1（IEC60950-1:2001 対応）が平成21年4月20日に発行された。  
JIS C 6950-1 改正版（IEC 60950-1:2005 対応）については、引き続き原案作成検討グループにおいて審議を継続し、2回のJIS原案作成委員会を開催した。
- ・ JIS C 62075 : 環境配慮設計規格  
平成20年度に発足させた原案作成見当グループにおいて、引き続きIEC 62075:2008に対応するJIS C 62075の原案の審議を継続した。また、2回のJIS原案作成委員会を開催した。

##### 2) 電気用品安全法技術基準省令第1項及び省令第2項

審議案件は無かった。

(3) 平成 21 年度国内委員会及び幹事会（第 108 委員会）開催状況

- ・ 第 108 委員会： 3 回開催（5/21、7/14、11/26）
- ・ 幹事会： 3 回開催（5/15、7/8、11/19）

(4) 平成 21 年度国際会議（TC108）参加状況

詳細は、添付資料“（参考 2）国際会議出席者リスト”参照。

- ・ HBSDT スウェーデン/キスタ会議（H21.06.1～06.05）： 5 名出席
- ・ HBSDT イスラエル/テルアビブ会議（H21.10.20～10.22）： 5 名出席

(5) 平成 22 年度国際会議（TC108）予定

- ・ 中国/北京会議（H22.04.19～04.23） MT1, MT2, HBSDT
- ・ 米国/シアトル会議（H22.10.12～10.16） Plenary, MT1, MT2, HBSDT

## 2-1-2 MT1(旧 92)分科会活動概要

主査 塩田 武彦

旧 TC92 が扱っていた規格、IEC 60065『オーディオ、ビデオ及び類似の電子機器－安全性要求』の改定提案プロジェクトを扱う IEC/TC108 のメンテナンスチーム 1（MT1）に対応する国内組織として、下記の審議を行った。

(1) 国際規格対応について

次の 1 件の文書を審議し、右欄に記した内容を日本意見として提出した。IEC 60065 のメンテナンスに関する技術的な検討は既にほぼ終わっており、MT1 会議は開催されなかった。

文書番号	表題及び概要	日本意見概要
108/323 /CDV	IEC 60065-A2. Ed7.0: Audio, video and similar electronic apparatus - Safety requirements  IEC 60065 第7版 修正No.2 2 <sup>nd</sup> CDV	機器の安定性の試験について、従来の日本の解釈と異なり、薄型TVに対して不利となる解釈が追加されているため、本来の当項目の要求に基づいたコメントと共に全体的には賛成で投票しております。

(2) 国内規格対応について

MT1 分科会では、取り扱わなかった。

(3) 今後の主要課題

2009年度は、IEC 60065 第7版 修正No. 2の2度目のCDVが可決され、2010年1月にFDISが発行される予定であるため、その対応及びISの段階へ進むことを見越して、国内規格についても修正No. 2への対応が必要となる。

(4) 平成22年度国際会議予定

- ・MT1 中国/北京会議 (H22. 04. 19)
- ・MT1 米国/シアトル会議 (H22. 10. 12～10. 16)

### 2-1-3 MT2(旧 74)分科会活動概要

主査 柴田 恵

旧 TC74 が扱っていた規格、IEC 60950 『IT 機器の安全』 パート1 (一般要求) 及びパート2 (個別要求) の改定提案プロジェクトを扱う IEC/TC108 のメンテナンスチーム2 (MT2) に対応する国内組織として、下記の審議を行った。

(1) 国際規格対応について

分科会を1回開催し、IEC 60950-1 第2版 修正No. 1の最終国際規格案 (FDIS) の審議を行った。この修正No. 1. では、ICの電流制限器評価法、ラックマウント機器への評価試験法、シュレッターによる指切り事故防止のための要求事項が追加されているほか、解釈の明確化のための変更が追加されている。全体の内容については、概ね問題はないため分科会としては賛成投票を行なう決定をした。ただし、一部解釈の明確化及び誤りの修正が必要なため、別途8件の編集上のコメントを提出した。

その後、この修正No. 1. は各国投票により承認され、2009年12月に正式に国際規格 (IS) として発行された。

(2) 国内規格対応について

MT2分科会では、取り扱わなかった。

(3) 今後の主要課題

IEC 60950-1 第2版 修正No. 1がISとして発行されれば、それ以上の修正は行われない予定であるが、HBSDTで検討されている項目の中で、IEC 60950-1にも取り入れるべき項目が出てくれば、MT2としても審議が行われるので、国内での審議と国際会議への参加を継続する。

(4) 平成22年度国際会議予定

- ・MT2 中国/北京会議 (H22. 04. 19)
- ・MT2 米国/シアトル会議 (H22. 10. 12～10. 16)

### 2-1-4 HBS 分科会活動概要

主査 石井 明

平成21年度は、TC108/HBSDT国際会議に参加及びそれに呼応した国内活動を通じてHBS規格 (IEC 62368-1) の研究と国際会議で日本の意見具申を行った。

## (1) 国際会議&審議状況

平成 21 年度は、スウェーデン/ストックホルム会議(6 月)、イスラエル/テルアビブ会議(10 月)の 2 回の TC108/HBSDT 国際会議が開催された。スウェーデン/ストックホルム会議では FDIS となる文書の最終審議会議であり、誤記・訂正を中心に審議を行なった。技術的な新提案は内容の確認レベルとし、審議は第二版での作業とする事が確認された。また『偶然に引き起こされるロウソクの火による発火』は上位委員会である SMB で今後の進め方が審議された。

FDIS 文書に対して日本から修正の意見を提出した。また、次回会議の為の技術検討の Adhoc が設けられ、その内『リチウム二次電池の用語、充電、発火防止に対する提案とリチウム二次電池を使用する機器の落下試験に対する提案』や『音圧規制に対する提案』に日本メンバーも作業グループに参加した。イスラエル/テルアビブ会議では 108/325/FDIS の投票結果が報告され FDIS の承認の報告があった。同時に IEC62368-1 第 2 版に向けての審議が行なわれ、次の新たな DC 文書に関し審議し、IEC 62368 第 2 版に向けての審議を行なった。

- 108/327/DC: 30kHz を越えるものへの沿面距離要求
- 108/328/DC: 主電源スイッチに関する要求
- 108/329/DC: PTC サーミスターに関する要求
- 108/330/DC: 主電源コードの取り付けに関する要求
- 108/331/DC: 巻線の三層絶縁に関する要求
- 108/332/DC: 接着剤で固定された部分の評価の要求
- 108/333/DC: 機器内部の危険性がある液体の漏洩に関する要求
- 108/334/DC: 機器内部に対する 30N の加圧試験の適用に関する要求
- 108/335/DC: 可搬型機器で可触金属部分に対する危険評価に関する要求
- 108/336/DC: Safe guard の区分に関する明確化の提案
- 108/337/DC: 絶縁耐圧試験の電圧値に関する規定の明確化の提案
- 108/338/DC: 用語の修正提案
- 108/339/DC: 絶縁耐圧試験の値に関し、交流電源と直流電源と同じにする提案
- 108/340/DC: 外部回路に対する過渡電圧要求の見直しに関する提案
- 108/341/DC: コンデンサーに対する絶縁耐圧試験の記述の修正に関する提案
- 108/342/DC: 保護導体の規定に関し強化セーフガードに対する緩和提案
- 108/343/DC: 絶縁距離の補完値に関する補完値の数値規定の見直しの提案
- 108/345/DC: skilled person の機械的危険に対する要求
- 108/346/DC: 100mm の口径の車輪を有する機器の転倒試験に関する要求
- 108/347/DC: スライドレールに取り付けられた機器に対する試験の明確化の提案
- 108/348/DC: リチウムイオン蓄電池に対する追加要求
- 108/349/DC: 保護導体とそれら端子の要求に対する記述の修正提案
- 108/351/DC: アース接地に関する記述の修正提案
- 108/352/DC: 通信線と電源線の混触に対する要求
- 108/353/DC: 人体保護器具に関し、取扱い説明書への記述の提案
- 108/361/DC: 戦略的事業プランの提案

また、上記の DC 文書とは別に日本から次の新規提案を行った。

- G10 に過渡電圧カテゴリー区分に対応した MOV に対する要求
- Annex G4 に PTC 素子に対する難燃性要求の明確化
- 携帯用音楽プレーヤーなどに対する音圧の制限値に関する要求



『偶然に引き起こされるロウソクの火による発火』に関して、上位委員会の SMB 審議結果の報告として対象製品がテレビジョン受信機に限定する報告があり、評価試験の TS62441 の IS 化は松江会議後の 3 年後（2011 年）制定目標の報告があり、1 年以内に IEC60065 に NP が出される予定の報告があった。

本年度は IEC62368-1 の FDIS の審議と投票が行なわれ、僅差ではあったが FDIS が採択された。今後は IEC62368-1 初版に対し、第 2 版に対する要求事項の補足等々が審議される重要な状況となる。日本からも積極的に意見具申を行ない使いやすい規格になるように勤めたい。

## （2）国内委員会&審議状況

各国際会議前に、審議文章に対する意見を募り、HBS 分科会を開催。審議文章の内容を審議し、共通理解を得ると共に活発な意見交換を行い日本コメントをまとめ、第 108 委員会の承認を頂いて IEC に提出した。

## （3）今後の主要課題

IEC 62368-1 第二版の審議が行なわれる、今後も積極的に国際会議に参加し意見具申を行なう必要がある。尚、『偶然に引き起こされるロウソクの火による発火』は IEC の上層委員会で環境配慮と製品安全の両方の観点で協議を行なうタスクフォースの立ち上げが承認された。今後、国内でも環境関連の国内委員会と第 108 委員会の連携が必要となる。また、リチウムイオン蓄電池や携帯型音響プレイヤーの音圧規制に対する審議も国内関連委員会と情報交換して意見を整合して対応する予定である。

## （4）平成 22 年度国際会議予定

- ・HBSDT 中国/北京会議（H22. 04. 20～04. 23）
- ・HBSDT 米国/シアトル会議（H22. 10. 12～10. 16）

## 2-1-5 WG 環境分科会活動概要

主査 小田 豊

平成 20 年度末に TC108 WG ENV（旧 WG10）が発足され、IEC 62075, IEC 62018 のメンテナンス、及び省エネの新ワークアイテム「IEC 62623 Ed 1.0: Measuring the Energy Consumption of Personal Computing Products」を担当する。国際電話会議が第 1 回～6 回開催され、エキスパートである小田主査と並河委員が参加した。その結果も踏まえ、WG 環境分科会を第 2 回～5 回開催し審議した。IEC 62075, IEC 62018 のメンテナンスに関する投票を平成 22 年 1 月末に行った。

### （1）国際規格対応について

以下の文書の審議・確認を行ない、下記の対応をとった。

文書番号	表題及び概要	対応・結果等
108/359/DC	Question from TC108/WG ENV for an amendment to IEC 62075	コメント付き賛成投票
108/360/Q	Question from TC108/WG ENV regarding extension of the maintenance result date of IEC 62018	賛成投票

### （2）審議状況

#### 1) 国際会議

TC108 WG ENV 国際電話会議が第1回～6回開催され、エキスパートである小田主査と並河委員が参加した。

## 2) 国内委員会

WG 環境分科会を第2回～5回開催し、IEC 62075, 及び IEC 62018 のメンテナンス、及び省エネの新作アイテム「IEC 62623 Ed 1.0: Measuring the Energy Consumption of Personal Computing Products」審議した。IEC 62075, IEC 62018 のメンテナンスに関する投票を平成22年1月末に行った。

### (3) 今後の主要課題

「IEC 62623 Ed 1.0: Measuring the Energy Consumption of Personal Computing Products」の継続審議しコメントを提出する。

### (4) 平成22年度 TC108 WG Env 国際会議予定

- ・平成22年6月頃、独国にて開催予定

## 2-1-6 JIS C 6065 追補版及び改正原案作成活動概要

主査 山本 久義

### (1) 概要

AV 機器安全性の JIS は、電気用品安全法（省令2項）としても用いられていることから、その改正作業は重要である。

昨年度、原案を作成した国際安全規格 IEC 60065 Ed7. Amd. 1 対応の「JIS C6065 追補版」は、H21年12月21日に JIS 制定され、現在、省令2項採用に向け、答申中である。

引き続き、現在 TC108 で IS の準備段階にある IEC 60065 Ed7. Amd. 2 対応の「JIS C 6065 改正原案」の作成検討会を H22 年3月に発足する。

### (2) 今後の主要課題

IEC 60065 Ed7. Amd. 2 は IEC 60065 としての最後の改正を予定しているため、JIS の改正は、追補ではなく全面改正とする。

現在、IEC 60065 Ed7. Amd. 2 は IS 発行前であるが、「JIS C 6065 改正原案作成検討会」では、Amd. 2 の翻訳作業のほか、制定済の JIS C6065 本文を JIS Z8301:2008 に従って再編集する作業も含まれるため、前倒しで作業を始めた。

本年度中の原案作成委員会の開催に向け、関係各位の支援を得て、計10回程度の検討会で原案を作成する。また、改正作業にあたっては、日本のデビエーションを極力少なくすることを念頭において活動する。

## 2-1-7 JIS C 6950-1 改正原案作成活動概要

主査 柴田 恵

### (1) 概要

平成19年11月に発足した JIS C 6950-1 改正原案作成検討Gを本年度も引き続き、第17回～

22 回まで、計 6 回の会議を開催し、JIS C 6950-1 改正原案（IEC 60950-1 Ed.2 対応）の素案を完成した。

10 月には、JIS C 6950-1 改原案作成委員会を立ち上げ、素案をもとに、使用者や中立者からも意見を聞くべく審議を開始した。また、同時に分科会も立ち上げ、計 3 回の会議を行い、素案に、新たに電気用品安全法の 2 項基準に追記となった事故未然防止に掛かる安全基準（J3000）の中の関連要求を取り入れるなどの技術的な内容と共に、要求事項をより分かりやすくするための表現の修正などの審議を実施した。

1 月に JIS C 6950-1 改原案作成委員で審議し承認を受け、原案は日本規格協会（JSA）へ提出する。

## （2）今後の主要課題

JSA の規格調整分科会及び審査課でのチェックを受け、修正が必要になった部分については随時フォローを行い、更に経済産業省へ提出され JISC の審議を経て、最終 JIS として制定されるまで引き続きフォローを行う。

一方、IEC では、IEC60950-1 の修正 No. 1 が正式に発行されたことから、この内容 JIS 化するための検討を開始する。

## 2-1-8 JIS C 62075 原案作成活動概要

主査 小田 豊

### （1）概要

平成 21 年度は、JIS C 62075 原案作成検討会、第 9 回及び第 10 回を開催し終了した。平成 21 年 6 月 24 日に JIS C 62075 原案作成委員会（第 1 回）を発足し 2 回目を開催・終了し、JIS 原案を自主提案として JISC に提出した。その後 JSA での規格調整分科会、総務省との調整を経て、JISC に提出した。

### （2）今後の主要課題

JISC 専門委員会での審議を経て、JIS C 62075 の平成 22 年度頭 JIS 制定（交付）を待つ。

(参考 1)

## 平成 21 年度 国際規格回答原案等リスト

## ISO/IEC JTC1/SC17

No.	投票期限	件名
1	2009-04-06	FPDAM 10373-6:2001/Amd 7 Identification cards – Test methods – Part 6 :Proximity cards Amd 7: Test methods for ePassport
		識別カードー試験方法ー第6部：外部端子なしカードー近接型ー 追補7：電子パスポートの試験方法
2	2009-04-13	FCD 24727-6 Identification cards – Integrated circuit card programming interfaces – Part 6: Registration authority procedures for the authentication protocols for interoperability
		識別カードーIC カードプログラミングインターフェース-第 6 部：相互運用の認証プロト コルのための認証機関登録手続き
3	2009-04-13	CD 24727-5 Identification cards – Integrated circuit card programming interfaces – Part 5: Testing
		識別カードーIC カードプログラミングインターフェース-第 5 部：試験
4	2009-06-03	FCD 10373-3 Identification cards — Test methods — Part 3: Integrated circuit cards with contacts and related interface devices (Rev)
		識別カードー試験方法ー 第 3 部：外部端子付き IC カード及び関連接続装置(改訂)
5	2009-06-11	CD 7816-1 Identification cards — Integrated circuit cards — Part 1: Cards with contacts - Physical characteristics
		識別カードーIC カードー第 1 部：外部端子付きカードの物理的特性
6	2009-07-11	FCD 10373-8 Identification cards – Test Methods – Part 8: USB-ICC
		識別カードー試験方法ー第 8 部：USB-ICC
7	2009-07-16	CD 11695-4 Identification cards - Optical memory cards - Holographic recording method - Part 4: Logical data structures
		識別カードー光メモリーカードーホログラム記録方式ー 第 4 部：論理データ構造
8	2009-07-26	FCD 20060 Information technology - Open Terminal Architecture (OTA) specification - Virtual machine Specification (Revision)
		情報技術 — オープン ターミナル アーキテクチャ (OTA) 仕様 — 仮想マシン仕様
9	2009-08-06	NP 10373-1 Amd 1 Identification cards - Test methods - Part 1: General characteristics Amd 1 No title
		識別カードー試験方法ー第 1 部：一般的特性 追補：表題なし
10	2009-08-06	PDAM 10373-1 Amd 1 Identification cards - Test methods - Part 1: General characteristics Amd 1 No title
		識別カードー試験方法ー第 1 部：一般的特性 追補：表題なし
11	2009-08-21	DCOR 10373-2:2009 Identification cards – Test methods – Part 2: Cards with magnetic stripes
		識別カードー試験方法ー第 2 部：磁気ストライプ付カード 正誤表案
12	2009-08-25	CD 24727-5 Identification cards – Integrated circuit card programming interfaces– Part 5: Testing
		識別カードーIC カードプログラミングインターフェース-第 5 部：試験
13	2009-08-28	PDAM 14443-2 Amd 4 Identification cards - Contactless integrated circuit(s) cards - Proximity cards - Part 2: Radio frequency power and signal interface – Amd 4 Additional PICC classes
		識別カードー外部端子なし IC カードー近接型ー第 2 部:電力伝送及び信号インターフェース 追補 4：追加 PICC クラス

No.	投票期限	件名
14	2009-08-28	PDAM 14443-1 Amd 1 Identification cards - Contactless integrated circuit cards - Proximity cards - Part 1: Physical characteristics - Amd 1 - Additional PICC classes
		識別カード-非接触(外部端子なし)ICカード-近接型-第1部:物理的特性 追補1: 追加PICCクラス
15	2009-09-06	DCOR 7816-13 Identification cards - Integrated circuit cards - Part 13: Commands for application management in a multi-application environment
		識別カード-ICカード-第13部: 正誤表案
16	2009-09-15	CD 18013-4 Information technology - Personal Identification - ISO Compliant Driving Licence - Part 4: Test method for Extended Access Protection
		情報技術-個人識別-ISO規格運転免許証- 第4部:拡張アクセス保護の試験方法
17	2009-09-15	Systematic Review 7816-6:2004 Identification cards -- Integrated circuit cards -- Part 6: Interindustry data elements for interchange
		識別カード-ICカード-第6部:交換のための産業間共通データ要素
18	2009-09-15	Systematic Review 7816-8:2004 Identification cards -- Integrated circuit cards -- Part 8: Commands for security operations
		識別カード-ICカード-第8部:セキュリティ処理コマンド
19	2009-09-15	Systematic Review 7816-9:2004 Identification cards -- Integrated circuit cards -- Part 9: Commands for card management
		識別カード-ICカード-第9部:カード管理共通コマンド
20	2009-09-22	FDIS 11693-2 Identification cards -- Optical memory cards -- Part 2: Co-existence of optical memory with other machine readable technologies
		識別カード-光メモリーカード-第2部:光メモリーカードとその他の機械判読カードの 共存(改訂)
21	2009-10-01	NP 24727-4 Amd 1 Identification cards - Integrated circuit card programming interfaces - Part 4: Application programming interface (API) administration: Amd -1 ASN.1 Representations
		情報技術-ICカードプログラミングインターフェース-第4部-API管理機構 追補1:ASN.1記述
22	2009-10-04	NP 14443-3 Amd 5 Identification cards - Contactless integrated circuit(s) cards - Proximity cards - Part 3: Initialization and anti-collision - Amd 5: Activation of higher layer protocols
		識別カード-外部端子なしICカード-近接型-第3部:初期化及び衝突防止 追補5:上位階層プロトコルの活性化
23	2009-10-04	PDAM 14443-3 Amd 5 Identification cards - Contactless integrated circuit(s) cards - Proximity cards - Part 3: Initialization and anti-collision - Amd 5: Activation of higher layer protocols
		識別カード-外部端子なしICカード-近接型-第3部:初期化及び衝突防止 追補5:上位階層プロトコルの活性化
24	2009-10-04	NP 14443-4 Amd 1 Identification cards - Contactless integrated circuit cards - Proximity cards - Part 4: Transmission protocol - Amd 1: Activation of higher layer protocols
		識別カード-非接触(外部端子なし)ICカード-近接型-第4部:伝送プロトコル 追補 1:上位階層プロトコルの活性化
25	2009-10-04	PDAM 14443-4 Amd 1 Identification cards - Contactless integrated circuit cards - Proximity cards - Part 4: Transmission protocol - Amd 1: Activation of higher layer protocols
		識別カード-非接触(外部端子なし)ICカード-近接型-第4部:伝送プロトコル 追補 1:上位階層プロトコルの活性化
26	2009-10-05	CD 24787 Information technology - Identification cards - On-card biometric comparison
		情報技術-識別カード-オンカードバイオメトリック比較

No.	投票期限	件名
27	2009-10-19	FDIS 24727-6 Identification cards -- Integrated circuit card programming interfaces -- Part 6: Registration authority procedures for the authentication protocols for interoperability
		識別カードーICカードプログラミングインターフェースー 第6部：相互運用の認証プロトコルのための認証機関登録手続き
28	2009-10-24	NP 7810 AMD2 Identification cards -- Physical characteristics Amd 2 Opacity
		識別カードー物理的特性 追補 2: 不透過度
29	2009-10-24	PDAM 7810 AMD2 Identification cards -- Physical characteristics Amd 2 Opacity
		識別カードー物理的特性 追補 2: 不透過度
30	2009-10-27	FCD 15693-1 Identification cards - Contactless integrated circuit cards - Vicinity cards - Part 1: Physical characteristics
		識別カードー非接触(外部端子なし)ICカードー近傍型ー 第1部：物理的特性
31	2009-11-18	FDAMD 7810:2003/Amd 1 Identification cards -- Physical characteristics Amd 1: Criteria for cards containing integrated circuits
		識別カードー物理的特性 追補 1 : IC付きカードの基準
32	2009-11-18	FDIS 14443-3 Identification cards - Contactless integrated circuit(s) cards - Proximity cards - Part 3: Initialization and anti-collision
		識別カードー外部端子なしICカードー近接型ー第3部：初期化及び衝突防止
33	2009-11-23	FCD 10373-6 Identification cards -- Test methods -- Part 6 :Proximity cards
		識別カードー試験方法ー第6部：外部端子なしカードー近接型
34	2009-11-26	NP 14443-2 Amd 3 Identification cards - Contactless integrated circuit(s) cards - Proximity cards - Part 2: Radio frequency power and signal interface – Amd 3: Limits of electromagnetic disturbance level
		識別カードー非接触(外部端子なし)ICカードー近接型ー 第2部：電力伝送及び信号インターフェースー 追補 3：電磁雑音レベルの限界値
35	2009-11-26	PDAM 14443-2 Amd 3 Identification cards - Contactless integrated circuit(s) cards - Proximity cards - Part 2: Radio frequency power and signal interface – Amd 3: Limits of electromagnetic disturbance level
		識別カードー非接触(外部端子なし)ICカードー近接型ー 第2部：電力伝送及び信号インターフェースー 追補 3：電磁雑音レベルの限界値
36	2009-11-26	NP 14443-3 Amd 4 Identification cards - Contactless integrated circuit(s) cards - Proximity cards - Part 3: Initialization and anticollision – Amd 4: Electromagnetic disturbance handling
		識別カードー非接触(外部端子なし)ICカードー近接型ー 第3部：初期化及び衝突防止ー 追補 4：電磁雑音の扱い方
37	2009-11-26	PDAM 14443-3 Amd 4 Identification cards - Contactless integrated circuit(s) cards - Proximity cards - Part 3: Initialization and anticollision – Amd 4: Electromagnetic disturbance handling
		識別カードー非接触(外部端子なし)ICカードー近接型ー 第3部：初期化及び衝突防止ー 追補 4：電磁雑音の扱い方
38	2009-11-26	PDAM 10373-6 Amd 8 Identification cards -- Test methods -- Part 6 :Proximity cards/ Amd 8: Additional PICC classes
		識別カードー試験方法ー第6部：外部端子なしカードー近接型 追補 8：追加 PICC クラス
39	2009-12-15	Systematic Review 7811-7:2004 Identification cards -- Recording technique – Part 7: Magnetic stripe -- High coercivity, high density
		識別カードー記録技術ー第7部：磁気ストライプー高保磁力高密度

No.	投票期限	件名
40	2009-12-19	DCOR 24727-3 COR-1 Identification cards -- Integrated circuit card programming interfaces -- Part 3 Application interface - Corrigendum 1
		情報技術－IC カードプログラミングインターフェース－ 第3部：アプリケーションインタフェース 正誤表1
41	2010-01-08	FCD 11695-4 Identification cards - Optical memory cards - Holographic recording method - Part 4: Logical data structures
		識別カード－光メモリーカード－ホログラム記録方式－ 第4部：論理データ構造
42	2010-01-25	NP 24727-2 Amd 1 Identification cards - Integrated circuit card programming interfaces - Part 2: Generic card interface, Amd 1: Enhanced discovery mechanism to identify DER or XER encoding of SAL
		情報技術－IC カードプログラミングインターフェース－ 第2部－汎用カードインタフェース 追補1：DER あるいは XER で符号化されたサービスアクセス層のための拡張ディスクバリ機能
43	2010-01-25	NP 24727-3 Amd 1 Identification cards - Integrated circuit card programming interfaces - Part 3: Application interface, Amd 1: Use of the 7816-15-based Registry and XML representation administration
		情報技術－IC カードプログラミングインターフェース－第3部：アプリケーションインタフェース 追補1：ISO/IEC 7816-15 を基にした登録と XML 表現
44	2010-01-25	NP 24727-4 Amd 1 Identification cards - Integrated circuit card programming interfaces - Part 4: Application programming interface (API), Amd 1: XML representation
		情報技術－IC カードプログラミングインターフェース－第4部－API 管理機構 追補1：XML 表現
45	2010-01-25	CD 12905 Integrated circuit cards - Enhanced Terminal Accessibility using cardholder preference interface
		IC カード－カード所持者に適合したインタフェースを用いた端末利用の向上
46	2010-02-02	FDAM 10373-6 Amd 7 Identification cards – Test methods – Part 6 :Proximity cards/Amendment 7: Test methods for ePassport
		識別カード－試験方法－第6部：外部端子なしカード－近接型－ 追補7：電子パスポートの試験方法
47	2010-02-15	CD 24789-1.2 Identification cards - Card service life – Part 1: Application profiles and requirements
		識別カード－カードサービスライフ－第1部：アプリケーションプロファイルおよび要求
48	2010-02-15	CD 24789-2.2 Identification cards - Card service life - Part 2: Methods of evaluation
		識別カード－カードサービスライフ－第2部：評価方法
49	2010-02-25	FCD 7816-1 Identification cards — Integrated circuit cards — Part 1: Cards with contacts - Physical characteristic
		識別カード－IC カード－第1部：外部端子付きカードの物理的特性
50	2010-03-09	DCOR 24727-4:2008/Cor 1 Identification cards - Integrated circuit card programming interfaces - Part 4: Application programming interface (API),
		情報技術－IC カードプログラミングインターフェース－第4部－API 管理機構
51	2010-03-09	CD 7816-4 Identification cards -- Integrated circuit cards -- Part 4: Organization, security and commands for interchange
		識別カード－IC カード－第4部：交換のための構成、セキュリティ及びコマンド
52	2010-03-10	NP 10373-9 Identification cards - Test methods - Part 9: Optical memory cards - Holographic recording method
		識別カード－試験方法－第9部：光メモリーカードホログラム記録方式

No.	投票期限	件名
53	2010-03-15	Systematic Review 7816-5: 2004 Identification cards -- Integrated circuit cards -- Part 5: Registration of application providers 識別カード-ICカード-第5部: アプリケーション提供者識別子の登録
54	2010-03-17	PDAM 14443-4 Identification cards - Contactless integrated circuit(s) cards - Proximity integrated circuit(s) cards - Part 4: Transmission protocol - Amendment 1: Activation of higher layer protocols. 識別カード-非接触(外部端子なし)ICカード-近接型-第4部: 伝送プロトコル 追補1: 上位階層プロトコルの活性化
55	2010-03-19	FCD 24787 Identification cards - Identification cards - On-card biometric comparison 情報技術-識別カード-オンカードバイオメトリック比較
56	2010-03-21	FCD 24727-5 Identification cards - Integrated circuit card programming interfaces - Part 5: Test Procedures 識別カード-ICカードプログラミングインターフェース-第5部: 試験

### ISO/IEC JTC1/SC28

No.	投票期限	件名
1	2009-09-15	Systematic Review ISO/IEC 19752:2004 Method for the determination of toner cartridge yield for monochromatic electrophotographic printers and multi-function devices that may contain printer component モノクロ電子写真式プリンタ及びプリンタ複合機のトナーカートリッジ印字可能枚数測定方法
2	2009-11-26	CD 29102 Ver.2: Method for the determination of ink cartridge yield for colour photo printing with inkjet printers and multi-function devices that contain inkjet printer components カラーインクジェットプリンタ及びその複合機のフォト画像用インクカートリッジ寿命測定方法



ISO/IEC JTC 1/SC35

No.	投票期限	件名
1	2009-4-15	ISO/IEC 11581-40(CD): User system interfaces and symbols -- Icon symbols and functions -- Part 40: Management of Icon registration
		情報技術 — ユーザインタフェースアイコン — アイコン登録管理
2	2009-7-27	ISO/IEC 29136(CD): Information Technology — User Interfaces — Hardware accessibility features for personal computers
		情報技術-ユーザインタフェース-パーソナルコンピュータのためのハードウェアアクセ シビリティ機能
3	2009-7-27	ISO/IEC 13066-1(CD): Information Technology — Interoperability with Assistive Technology (AT) — Part 1: Requirements and recommendations for interoperability
		情報技術-支援技術(AT)との相互運用性-第1部:相互運用性の要求推奨事項
4	2009-7-27	ISO/IEC 9995-9(NP): Information technology – Keyboard layouts for text and office systems – Part 9: Multilingual-usage, multiscript keyboard group layouts
		情報技術-文書処理とオフィス業務用キーボード配列-第9部:多国語での使用,多言語で の文字対応のキーボードのグループ配列
5	2009-7-30	ISO/IEC 13066-2(NP): Information Technology — Interoperability with Assistive Technology (AT) – Part 2: Windows Automation Framework accessibility API
		情報技術 — 支援技術との相互運用性—第2部:Windows Automation Framework accessibility API
6	2009-7-30	ISO/IEC 11581-41(NP): Information technology -- User Interface Icons -- Part 41: Data structure to be used by the ISO/IEC JTC1/SC35 Icon repository
		情報技術 — ユーザインタフェースアイコン — 第41部:ISO/IEC JTC1/SC35アイコンベ ーデータベース用データ構造
7	2009-7-30	ISO/IEC 13066-3(NP): Information Technology — Interoperability with Assistive Technology (AT) – Part 3: IAccessible2 accessibility API
		情報技術 — 支援技術との相互運用性—第3部:IAccessible2 accessibility API
8	2009-8-8	ISO/IEC 24786(FDIS): Information technology - User Interfaces - Accessible User Interface for Accessibility Settings
		情報技術-ユーザインタフェース-アクセシビリティ設定のためのアクセシブルなユーザ インタフェース
9	2009-8-19	ISO/IEC 9995-1(FDIS): Keyboard layouts for text and office systems -- Part 1: General principles governing
		情報技術-テキスト及びオフィスシステムのためのキーボードレイアウト 第1部:キーボードレイアウト用一般原則
10	2009-8-19	ISO/IEC 9995-2(FDIS): Keyboard layouts for text and office systems -- Part 2: Alphanumeric section
		情報技術-テキスト及びオフィスシステムのためのキーボードレイアウト 第2部:英数字領域
11	2009-8-21	ISO/IEC 9995-3(FCD): Keyboard layouts for text and office systems -- Part 3: Complementary layouts of the alphanumeric zone of the alphanumeric section
		情報技術-テキスト及びオフィスシステムのためのキーボードレイアウト 第3部:英数字部分における英数字区域の補完的配列
12	2009-8-19	ISO/IEC 9995-4(FDIS): Keyboard layouts for text and office systems -- Part 4: Numeric section
		情報技術-テキスト及びオフィスシステムのためのキーボードレイアウト 第4部:数字 領域

No.	投票期限	件名
13	2009-8-19	ISO/IEC 9995-5(FDIS): Keyboard layouts for text and office systems -- Part 5: Editing and function section
		情報技術－テキスト及びオフィスシステムのためのキーボードレイアウト 第5部：編集・機能領域
14	2009-8-19	ISO/IEC 9995-7(FDIS): Keyboard layouts for text and office systems -- Part 7: Symbols used to represent
		情報技術－テキスト及びオフィスシステムのためのキーボードレイアウト 第7部：機能を表す記号
15	2009-8-19	ISO/IEC 9995-8(FDIS): Keyboard layouts for text and office systems -- Part 8: Allocation of letters to the keys of a numeric keypad
		情報技術－テキスト及びオフィスシステムのためのキーボードレイアウト 第8部：数字キーパッドの10キーに割り当てる文字
16	2010-1-20	ISO/IEC 9995-7 Amd.1 (PDAM): Information Technology – Keyboard layouts for text and office systems—Part 7: Symbols used to represent functions AMENDMENT 1
		情報技術-文書処理とオフィス業務用キーボード配列-第7部：機能キーのシンボル アmendメント1
17	2010-1-20	ISO/IEC 9995-8(NP) : PDTR-3: Cultural and linguistic interoperability — Definitions and relationship between symbols, icons, animated icons, pictograms, characters and glyphs
		技術情報(3), 文化及び言語的相互運用性 —シンボル, アイコン, アニメーションアイコン, ピクトグラム, 文字, グリフの定義と相互関係
18	2010-1-20	ISO/IEC TR 13066-4(NP): Information Technology — Interoperability with Assistive Technology (AT) – Part 4: Linux accessibility API
		情報技術 — 支援技術との相互運用性—第4部：Linux accessibility API
19	2010-1-20	ISO/IEC TR 13066-6(NP): Information Technology — Interoperability with Assistive Technology (AT) – Part 6: Java accessibility API
		情報技術 — 支援技術との相互運用性—第6部：Java accessibility API
20	2010-2-19	ISO/IEC 11581-40(FCD): User system interfaces and symbols -- Icon symbols and functions -- Part 40: Management of Icon registration
		情報技術 — ユーザインタフェースアイコン — アイコン登録管理
21	2010-2-21	ISO/IEC 9995-10(NP): Information technology – Keyboard layouts for text and office systems – Part 10: Conventional symbols and methods to represent graphic characters not uniquely recognizable by their glyph on a keyboard and in documentation
		情報技術-文書処理とオフィス業務用キーボード配列-第10部：キーボードや文書の記号により一意に認識することができない図形文字を表す方法と従来のシンボル

## IEC/TC108

No.	投票期限	件名
1	2009-07-15	CDV(323): IEC 60065-A2-Ed 7.0 Audio, video and similar electronic apparatus - Safety requirements
		オーディオ・ビデオ及び類似の電子機器：安全性要求事項
2	2009-09-30	FDIS(325): IEC 62368 Ed 1.0: Audio/Video, Information and Communication Technology Equipment - Safety - Requirements
		オーディオ・ビデオ、情報通信技術 (ITC) 機器：安全要求
3	2009-09-30	Q(326): Questionnaire from TC 108 to National Committees regarding the publication of the rationale document for IEC 62368-1 as a Technical Report
		オーディオ・ビデオ、情報通信技術 (ITC) 機器：安全要求
4	2009-09-30	DC(327): Modification of 5.4.3.1 (on page 88-89) and Table 24 (on page 92) in the 108/325/FDIS for IEC 62368-1 First Edition
		オーディオ・ビデオ、情報通信技術 (ITC) 機器：安全要求
5	2009-09-30	DC (328): Modification of G.1.2 (2nd compliance paragraph and the dash following it on page 200) and G.17.5 (on page 230) in the 108/325/FDIS for IEC 62368-1 First Edition
		オーディオ・ビデオ、情報通信技術 (ITC) 機器：安全要求
6	2009-09-30	DC (329): Modification of the first paragraph of G.4 on page 203 and second dash of the first paragraph of Q.1 on page 277 in the 108/325/FDIS for IEC 62368-1 First Edition
		オーディオ・ビデオ、情報通信技術 (ITC) 機器：安全要求
7	2009-09-30	DC (330): Modification of G.9.3.2.1 (on page 213) and G.9.4 (on page 214) in 108/325/FDIS for IEC 62368-1 First Edition
		オーディオ・ビデオ、情報通信技術 (ITC) 機器：安全要求
8	2009-09-30	DC (331): Modification of J.1 (second paragraph) on page 244 in 108/325/FDIS for IEC 62368-1 First Edition
		オーディオ・ビデオ、情報通信技術 (ITC) 機器：安全要求
9	2009-09-30	DC (332): Addition a new subclause P.2.3 in the 108/325/FDIS for IEC 62368-1 First Edition
		オーディオ・ビデオ、情報通信技術 (ITC) 機器：安全要求
10	2009-09-30	DC (333): Modification of P.3.2 (last paragraph) on page 276 in 108/325/FDIS for IEC 62368-1 First Edition
		オーディオ・ビデオ、情報通信技術 (ITC) 機器：安全要求
11	2009-09-30	DC (334): Addition of a new subclause 4.6 on page 59 and modification of annex T.3 to T.7 and T.9 on pages 286-289 in 108/325/FDIS for IEC 62368-1 First Edition
		オーディオ・ビデオ、情報通信技術 (ITC) 機器：安全要求
12	2009-09-30	DC (335): Proposal to revise the technical requirements, to editorially re-organization Annexes P.1 and P.2, to add new P.3, and to move existing P.3 to P.4 of 108/325/FDIS
		オーディオ・ビデオ、情報通信技術 (ITC) 機器：安全要求
13	2009-09-30	DC (336): Proposal for revision of Clause 0.5.4, 108/325/FDIS
		オーディオ・ビデオ、情報通信技術 (ITC) 機器：安全要求
14	2009-09-30	DC (337): Modification of 5.3.6.2 on page 69 in the 108/325/FDIS for IEC 62368 First Edition
		オーディオ・ビデオ、情報通信技術 (ITC) 機器：安全要求
15	2009-09-30	DC (338): Modification of 5.4.1.3 in 108/325/FDIS for IEC 62368-1 First Edition
		オーディオ・ビデオ、情報通信技術 (ITC) 機器：安全要求
16	2009-09-30	DC (339): Modification of 5.4.2.5.1.c on page 82 in 108/325/FDIS for IEC 62368-1 First Edition
		オーディオ・ビデオ、情報通信技術 (ITC) 機器：安全要求
17	2009-09-30	DC (340): Modification of 5.4.12.2 on page 107 in 108/325/FDIS for IEC 62368-1 First Edition
		オーディオ・ビデオ、情報通信技術 (ITC) 機器：安全要求
18	2009-09-30	DC (341): Modification of 5.5 on pages 109-113 in 108/325/FDIS for the IEC 62368-1, First Edition
		オーディオ・ビデオ、情報通信技術 (ITC) 機器：安全要求
19	2009-09-30	DC (342): Modification of 5.7.6 on page 124 in 108/325/FDIS for the IEC 62368-1 First Edition

No.	投票期限	件名
		オーディオ・ビデオ、情報通信技術（ITC）機器：安全要求
20	2009-09-30	DC (343): Modification of the interpolation requirements of tables 17-20 (on pages 84-87) and table 23 (on page 91) in 108/325/FDIS for the IEC 62368-1, First Edition オーディオ・ビデオ、情報通信技術（ITC）機器：安全要求
21	2009-09-30	DC (344): Proposal for a replacement name for Instructional Safeguard, 108/325/FDIS for IEC 62368-1 First Edition オーディオ・ビデオ、情報通信技術（ITC）機器：安全要求
22	2009-09-30	DC (345): Modification of 8.5.2 (on page 149) in 108/325/FDIS for IEC 62368-1 First Edition オーディオ・ビデオ、情報通信技術（ITC）機器：安全要求
23	2009-09-30	DC(346): Modification of 8.6.2.3 (on page 156) in IEC 62368-1 First Edition オーディオ・ビデオ、情報通信技術（ITC）機器：安全要求
24	2009-09-30	DC(347): Modification of 8.11.2 (on page 162) in 108/325/FDIS for IEC 62368-1 First Edition オーディオ・ビデオ、情報通信技術（ITC）機器：安全要求
25	2009-09-30	DC (348): Proposal from TC108/HBSDT to modify IEC 62368, Annex M, by adding requirements for the use of lithium-ion batteries オーディオ・ビデオ、情報通信技術（ITC）機器：安全要求
26	2009-09-30	DC (349): Modification of subclause 5.6 (excluding 5.6.8) of 108/325/FDIS for the IEC 62368-1 First Edition オーディオ・ビデオ、情報通信技術（ITC）機器：安全要求
27	2009-09-30	DC (351): Modification of 5.6.8 on pages 121-122 in 108/325/FDIS for IEC 62368 First Edition オーディオ・ビデオ、情報通信技術（ITC）機器：安全要求
28	2009-09-30	DC (352): Proposal for introduction of power cross requirements, 108/325/FDIS for the IEC 62368-1 First Edition オーディオ・ビデオ、情報通信技術（ITC）機器：安全要求
29	2009-09-30	DC (353): Modification of 7.4, Use of PPE (on page 144) in 108/325/FDIS for IEC 62368-1 First Edition オーディオ・ビデオ、情報通信技術（ITC）機器：安全要求
30	2009-10-9	FDIS(350): IEC 60950-1-A1 Ed 2.0 Information technology equipment - Safety - Part 1: General requirements 情報技術機器：パート1安全要求
31	2010-1-29	DC (359): Proposal of TC108/WG ENV for an amendment to IEC 62075, Audio/Video, Information And Communication Technology Equipment - Environmentally Conscious Design オーディオ・ビデオ、情報通信技術（ITC）機器：環境配慮設計
32	2010-1-29	Q (360): Question from TC108/WG ENV regarding extension of the maintenance result date of IEC 62018, Energy efficiency limits for information technology and communication technology equipment オーディオ・ビデオ、情報通信技術（ITC）機器：環境配慮設計
33	2010-3-19	DC(361): TC108 Draft Strategic Business Plan Review オーディオ・ビデオ、情報通信技術（ITC）機器：戦略的ビジネスプラン

(参考2) 2009年4月～2010年3月 国際会議日本代表出席者

ISO/IEC JTC 1/SC17

会議名	開催期間	開催地	人数	日本からの出席者
Plenary	2009-09-23/25	Beiging, China	8	廣川勝久[SC17/ECSEC], 中澤明[日本電産サンキョー], 苅部浩[JBMIA], 寄本義一[凸版印刷], 谷内田益義[東工大], 井出野敦弘[全国銀行協会], 坂本静生[日本電気], 江村智之[JBMIA]
WG1	2009-06-02/04	Paderborn, Germany	3	中澤明[日本電産サンキョー], 寄本義一[凸版印刷], 齊藤宏一[凸版印刷]
WG1	2009-09-21/22	Beiging, China	4	中澤明[日本電産サンキョー], 寄本義一[凸版印刷], 齊藤宏一[凸版印刷], 江村智之[JBMIA]
WG1	2010-03-02/04	San Francisco, USA	3	中澤明[日本電産サンキョー], 齊藤宏一[凸版印刷], 寄本義一[凸版印刷]
WG3	2009-06-22/25	Abu Dhabi/UAE	2	榊純一[パナソニック], 酒井高彦[東芝]
WG3	2009-09-22/23	Beiging, China	1	寄本義一[凸版印刷]
WG3/TF4D	2009-10-20	Paris, France	1	寄本義一[凸版印刷]
WG3	2010-01-27/28	Haarlem, Netherlands	1	酒井高彦[東芝]
WG4	2009-05-25/29	Austin, USA	2	寄本義一[凸版印刷], 谷内田益義[東京工大]
WG4 AdHoc, ETA	2009-08-24/27	Munich, Germany	3	寄本義一[凸版印刷], 高木伸哉[パナソニック], 坂本静生[日本電気]
WG4	2009-10-05/09	Barcelona, Spain	3	寄本義一[凸版印刷], 谷内田益義[東京工大], 酒井高彦[東芝]
WG4 PBO command	2010-01-14/15	Munich, Germany	1	寄本義一[凸版印刷]
WG5	2009-09-22	Beiging, China	2	井出野敦弘[全国銀行協会], 江村智之[JBMIA]
WG8	2009-04-20/24	Singapore	6	苅部浩[JBMIA], 向井幹雄[ソニー], 山本英朗[NTT], 清水博夫[東芝], 滝口昌宏[デンソーウェーブ], 高山佳久[ソニー]
WG8	2009-06/29-7/03	London, UK	4	苅部浩[JBMIA], 向井幹雄[ソニー], 清水博夫[東芝], 門山隆英[ソニー]
SC6 Harmonization	2009-09-17/18	Singapore	1	苅部浩[JBMIA]
WG8	2009-11/3-12/04	Valence, France	5	苅部浩[JBMIA], 向井幹雄[ソニー], 山本英朗[NTT], 清水博夫[東芝], 門山隆英[ソニー]
SC6 Harmonization	2009-12-14/15	Berlin, Germany	1	苅部浩[JBMIA]
WG10	2009-06-02/04	Saint-Denis, France	2	榊純一[パナソニック], 酒井高彦[東芝]
WG10	2009-09-21/22	Beiging, China	3	寄本義一[凸版印刷], 酒井高彦[東芝], [警察庁]
WG10	2009-11-26/27	Saint-Denis, France	3	酒井高彦[東芝], 福田亜紀[東芝], 清水博夫[東芝]
WG11	2009-04-01/03	Austin, USA	1	新崎卓[富士通研究所]
WG11	2009-10-26/28	London, UK	2	坂本静生[日本電気], 新崎卓[富士通研究所]
ICAO-NTWG	2009-10-19/23	Sydney, Australia	3	榊純一[パナソニック], [外務省]2名
ICAO TAG	2009-12-07/09	Montriel, Canada	5	榊純一[パナソニック], [外務省]3名, [国立印刷局]
ICAO-NTWG	2010-03-15/18	Bangkok, Thai	3	榊純一[パナソニック], [外務省], [国立印刷局]
合計			73	

ISO/IEC JTC1/SC28

会議名称	開催期間	開催地	人数	日本からの出席者
20th Plenary	2009-06-09/12	Busan, Korea	13	斎藤輝[JBMIA], 熊倉和正[リコー] 小澁弘明[-], 宮下隆明[リコー], 伊藤丘[コニカミルビシネステクノロジーズ], 仲谷文雄, 杉山元邦[富士ゼロックス], 佐田和泉, 藤田徹[セイコーエプソン], 大久保彰徳, 稲垣敏彦, 村井和夫, 櫻井穆[JBMIA]
AWG	2009-06-08/09	Busan, Korea	6	大久保彰徳[JBMIA], 宮下隆明[リコー], 臼井信昭[PFU], 仲谷文雄[富士ゼロックス], 村井和夫[JBMIA], 小澁弘明[-]
AWG	2010-01-22/23	San Jose, USA	6	大久保彰徳, 村井和夫[JBMIA], 宮下隆明[リコー], 臼井信昭[PFU], 仲谷文雄, 杉山元邦[富士ゼロックス]
WG2	2009-06-05/06	Busan, Korea	4	佐田和泉[セイコーエプソン], 宮下隆明, 平井真紀子[リコー], 仲谷文雄[富士ゼロックス]
WG2 Editor's	2009-06-03/05	Busan, Korea	3	宮下隆明, 平井真紀子[リコー], 仲谷文雄[富士ゼロックス]
WG2 Editor's meeting	2009-11-09/13	Vienna, Austria	6	宮下隆明, 平井真紀子[リコー], 杉山元邦, 仲谷文雄[富士ゼロックス], 平田雅一, 松重直樹[キヤノン]
WG3	2009-06-09	Busan, Korea	3	伊藤丘[コニカミルビシネステクノロジーズ], 佐田和泉[セイコーエプソン], 櫻井穆[JBMIA]
WG4	2009-06-06/08	Busan, Korea	2	稲垣敏彦[JBMIA], 藤田徹[セイコーエプソン]
WG4	2010-01-20/21	San Jose, USA	4	稲垣敏彦[JBMIA], 藤田徹[セイコーエプソン], 今河進[リコー], 杉山元邦[富士ゼロックス]
WG5	2010-01-23/25	San Jose, USA	6	大久保彰徳, 村井和夫[JBMIA], 宮下隆明[リコー], 臼井信昭[PFU], 仲谷文雄, 杉山元邦[富士ゼロックス]
Asia Imaging Forum	2009-06-24/25	Singapore	1	櫻井穆[JBMIA]
JISC/IEC/APSG Seminar	2009-12-01/02	Hanoi, Vietnam	2	宮下隆明[リコー], 櫻井穆[JBMIA]
		合計	56	

ISO/IEC JTC 1/SC 35

会議名	開催期間	開催地	人数	日本からの出席者
Plenary	2009-8-22/26	Saskatoon, Canada	8	山本委員長[慶應義塾大学]、池田宏明[千葉大]、関喜一[産総研]、高本康明[富士通]、中野義彦[JBMIA]、野村茂豊[日立]、中尾好秀[JBMIA]、大野克行[JBMIA]
WG1	2009-8-22/26	Saskatoon, Canada	1	中野義彦[JBMIA]
WG1	2010-2-22/26	Madrid, Spain	1	中野義彦[JBMIA]
WG2	2009-8-22/26	Saskatoon, Canada	8	山本委員長[慶應義塾大学]、池田宏明[千葉大]、関喜一[産総研]、高本康明[富士通]、中野義彦[JBMIA]、野村茂豊[日立]、中尾好秀[JBMIA]、大野克行[JBMIA]
WG2	2010-2-22/26	Madrid, Spain	5	池田宏明[千葉大]、関喜一[産総研]、中野義彦[JBMIA]、野村茂豊[日立]、中尾好秀[JBMIA]
WG4	2009-8-22/26	Saskatoon, Canada	8	山本委員長[慶應義塾大学]、池田宏明[千葉大]、関喜一[産総研]、高本康明[富士通]、中野義彦[JBMIA]、野村茂豊[日立]、中尾好秀[JBMIA]、大野克行[JBMIA]
WG4	2010-2-22/26	Madrid, Spain	5	池田宏明[千葉大]、関喜一[産総研]、中野義彦[JBMIA]、野村茂豊[日立]、中尾好秀[JBMIA]
WG5	2009-8-22/26	Saskatoon, Canada	1	中野義彦[JBMIA]
WG5	2010-2-22/26	Madrid, Spain	1	中野義彦[JBMIA]
WG6	2009-8-22/26	Saskatoon, Canada	8	山本委員長[慶應義塾大学]、池田宏明[千葉大]、関喜一[産総研]、高本康明[富士通]、中野義彦[JBMIA]、野村茂豊[日立]、中尾好秀[JBMIA]、大野克行[JBMIA]
WG6	2010-2-22/26	Madrid, Spain	5	池田宏明[千葉大]、関喜一[産総研]、中野義彦[JBMIA]、野村茂豊[日立]、中尾好秀[JBMIA]
WG7	2009-8-22/26	Saskatoon, Canada	8	山本委員長[慶應義塾大学]、池田宏明[千葉大]、関喜一[産総研]、高本康明[富士通]、中野義彦[JBMIA]、野村茂豊[日立]、中尾好秀[JBMIA]、大野克行[JBMIA]
WG7	2010-2-22/26	Madrid, Spain	5	池田宏明[千葉大]、関喜一[産総研]、中野義彦[JBMIA]、野村茂豊[日立]、中尾好秀[JBMIA]
合計			64	

IEC/TC 108

会議名	開催期間	開催地	人数	日本からの出席者
WG HBSDT	2009-06-01/05	Kista, Sweden	5	佐藤幸一[日本アイ・ビー・エム]、石井明[リコー]、原田泰男[パナソニック]、正木伸宏[東芝]、近藤孝彦[JQA]
WG HBSDT	2009-10-20/22	Tel Aviv, Israel	5	佐藤幸一[日本アイ・ビー・エム]、石井明[リコー]、原田泰男[パナソニック]、正木伸宏[東芝]、近藤孝彦[JQA]
合計			10	

規格番号	規格の略名称	現状(実績)	Stage date					対応JIS
			WD	CD	FCD	FDIS	Pub.	
SC17 4909	金融カード-磁気ストライプ第3トラック用データ型	IS発行					06-06	
7501-1	機械可読旅券	IS発行5版					08-08	
7501-2	機械可読ビザ	IS発行2版					97-07	
7501-3	機械可読旅行文書の寸法	IS発行2版					05-12	
7810	IDカードの物理的特性	IS発行3版					05-12	X 6301
7810 Amd 1	IC付きカードのクライテリア	IS発行					<b>09-12</b>	
7810 改訂	IDカードの物理的特性	WD	07.03					
7811-1	IDカードのエンボス	IS発行3版					02-04	X 6302-1
7811-2	IDカードの低保磁力磁気ストライプ	IS発行3版					01-02	X 6302-2
7811-3	IDカードのエンボス文字の位置	廃止						
7811-4	リードオンリーIDカードの磁気ストライプ位置:ト	廃止						
7811-5	リードオンリーIDカードの磁気ストライプ位置:ト	廃止						
7811-6	高保磁力磁気ストライプカード	IS発行3版					08-05	X 6302-6
7811-7	IDカード用高密度・高保磁力記録	IS発行初版					04-07	
7811-8	650エルステッド磁気ストライプ	IS発行初版					08-02	
7811-9	記録技術 - 触覚識別記号	IS発行初版 日本提案					08-05	
7812-1	カード発行者番号の付与システム	IS発行3版					06-12	
7812-2	カード発行者番号の登録手続	IS発行3版					07-04	JIS化不要
7813	金融取引用IDカード	IS発行6版					06-06	
7816-1	外部端子付ICカードの物理的特性	IS発行初版					98-10	
7816-1 Amd 1	ICコンタクト面高さ	IS発行					03-11	X 6320-1
7816-1 改訂	外部端子付ICカードの物理的特性	FCD						
7816-2	外部端子付ICカードの外部端子の位置・寸法	IS発行2版					07-10	X 6320-2
7816-3	外部端子付ICカードの電気信号とプロトコル	IS発行3版					06-10	X 6320-3
7816-4	交換のための構成、セキュリティ及びコマンド	IS発行2版					05-01	X 6320-4
7816-4 Amd1	記録の活性化及び非活性化	IS発行					08-09	
7816-4 改訂		CD						
7816-5	アプリケーション提供者の登録	IS発行2版					04-12	X 6320-5
7816-6	交換のための産業間共通データ要素	IS発行2版					04-05	X 6320-6
7816-7	ICカードのSCQL用共通コマンド	IS発行初版					99-03	JIS化不要
7816-8	セキュリティ処理コマンド	IS発行2版					04-06	X 6320-8
7816-9	カード管理共通コマンド	IS発行2版					04-06	X 6320-9
7816-10	同期式カードの操作手順とATR	IS発行初版					99-11	JIS化不要
7816-11	生体認証手法を用いた個人照合	IS発行初版					04-03	X 6320-11
7816-12	USB電気インタフェース及びオペレーティング手	IS発行初版					05-10	
7816-12 Amd1	インタフェース及び操作手順	WD	08.04					
7816-13	アプリケーション管理コマンド	IS発行初版					07-03	X 6320-13
7816-15	ICカードにおける暗号トークン情報	IS発行初版					04-01	X 6320-15
7816-15 Amd1	暗号使用事例	IS発行					07-10	
7816-15 Amd2	マルチアプリ環境の誤記修正及び拡張	IS発行					08-11	
8484	磁気ストライプ付き通帳	IS発行初版					07-06	
10373-1	IDカードの試験方法通則	IS発行2版					06-04	X 6305-1
10373-1 Amd1		CD						
10373-2	磁気カードの試験方法	IS発行2版					06-04	X 6305-2
10373-3	ICカードの試験方法	IS発行初版					01-02	X 6305-3
10373-3改訂	ICカードの試験方法	FCD						
10373-4	コンタクトレスICカードの試験方法	中止						
10373-5	光メモリーカードの試験方法	IS発行2版					06-01	X 6305-5
10373-6	近接型ICカードの試験方法	IS発行初版					01-05	X 6305-6
10373-6 改訂	近接型ICカードの試験方法	FCD						
10373-6 Amd1	近接型ICカードのプロトコル試験方法	IS発行					07-03	X 6305-6
10373-6 Amd2	改良RF法	IS発行					03-10	
10373-6 Amd3	近接カップリングデバイスのプロトコル試験方	IS発行					06-10	X 6305-6
10373-6 Amd4	PCD RFインタフェース及びPICC	IS発行					06-06	
10373-6 Amd5	ビットレートfc/64, fc/32 及び fc/16	IS発行					07-10	
10373-6 Amd7	e-パスポートの試験法	IS発行					<b>10-03</b>	
10373-6 Amd8	追加PICCクラス	CD						
10373-6 Amd9	EMD	CD						
10373-7	近傍型ICカードの試験方法	IS発行2版					08-04	X 6305-7
10373-8	近傍型ICカードの試験方法-USB-ICC	FCD						
10373-9	光メモリーカードホログラム記録方式	CD						



規格番号	規格の略名称	現状(実績)	Stage date					対応JIS		
			WD	CD	FCD	FDIS	Pub.			
SC17	10536-1	外部端子なしICカード-密着型-物理的特性	IS発行2版					06-03	X 6321-1	
	10536-2	外部端子なしICカード-密着型-結合領域	IS発行初版					95-12		
	10536-3	外部端子なしICカード-密着型-電気信号	IS発行初版					95-12		
	11693	光メモリーカード通則	IS発行3版					05-11		
	11693-1	光メモリーカード通則	廃止							
	11693-2	光メモリーカード-光メモリーカードとその他の機械判読カードの共存	IS発行初版					09-10	X 6330	
	11694-1	直線記録方式光メモリーカードの物理特性	IS発行3版					05-09		
	11694-2	直線記録方式光メモリーカードの光領域位置	IS発行3版					05-09		
	11694-3	直線記録方式光メモリーカードの光特性	IS発行3版					08-06		
	11694-4	直線記録方式光メモリーカードの論理方式	IS発行3版					08-06	X 6331	
	11694-5	直線記録方式光メモリーカードのアプリケーション対応データフォーマット	IS発行初版					06-03	JIS化不要	
	11694-6	直線記録方式光メモリーカードへのバイオメトリックスの利用	IS発行初版					06-03	JIS化不要	
	11695-1	光メモリーカード-ホログラフ記録	IS発行初版					08-10	JIS化不要	
	11695-2	光メモリーカード-ホログラフ記録	IS発行初版					08-10	JIS化不要	
	11695-3	光メモリーカード-ホログラフ記録	IS発行初版					08-10	JIS化不要	
	11695-4	光メモリーカード-ホログラフ記録	FCD			10-01				
	12905	カード所持者に適合したインタフェースを用いた端末利用の向上(ETA)	CD 日本提案		10-01					
	14443-1	外部端子なしICカード-近接型-物理的特性	IS発行2版					08-06	X 6322-1	
	14443-1 Amd1	追補1:追加PICCクラス	CD		09-12					
	14443-2	外部端子なしICカード-近接型-電波出力と信号インタフェース	IS発行初版					01-07	X 6322-2	
	14443-2 Amd1	ビットレートfc/64, fc/32 及び fc/16	IS発行					05-06		
	14443-2 Amd3	外部端子なしICカード-近接型-電波出力と信号インタフェース	CD		10-01					
	14443-2 Amd4	外部端子なしICカード-近接型-電波出力と信号インタフェース-追加PICCクラス	FCD			09-12				
	14443-2 改訂	外部端子なしICカード-近接型-電波出力と信号インタフェース	FCD			09.03				
	14443-3	外部端子なしICカード-近接型-初期化と衝突防止	IS発行初版					01-02	X 6322-3	
	14443-3 Amd1	ビットレートfc/64, fc/32 及び fc/16	IS発行					05-06		
	14443-3 Amd3	リザーブフィールドと値の取り扱い	IS発行					06-03		
	14443-3 Amd4	外部端子なしICカード-近接型-初期化と衝突防止	CD		10-01					
	14443-3 Amd5	外部端子なしICカード-近接型-初期化と衝突防止-上位階層プロトコルの活性化	廃案	CD投票の結果を受け、廃案となった。						
	14443-3 改訂	外部端子なしICカード-近接型-初期化と衝突防止	FCD			09.03				
14443-4	外部端子なしICカード-近接型-伝送プロトコル	IS発行2版					08-07	X 6322-4		
14443-4 Amd1	外部端子なしICカード-近接型-伝送プロトコル	CD		10-03						
15457-1	薄型カードの物理的特性	IS発行2版					08-02			
15457-2	薄型カードの磁気記録方式	IS発行2版					07-06			
15457-3	薄型カードの試験方法	IS発行2版					08-02			
15693-1	外部端子なしICカード-近傍型-物理的特性	IS発行初版					00-07	X 6323-1		
15693-1 改訂	外部端子なしICカード-近傍型-物理的特性	FCD			09-10					
15693-2	外部端子なしICカード-近傍型-電波インタ	IS発行2版					06-12	X 6323-2		
15693-3	外部端子なしICカード-近傍型-衝突防止と通	IS発行2版					09-04	X 6323-3		
18013-1	物理的特性と基本データセット	IS発行初版					05-08			
18013-2	機械読取技術	IS発行初版					08-05			
18013-3	アクセス管理、認証と完全性確証	IS発行初版					09-01			
18013-4	試験方法-延長アクセス防止	CD		09-09						
20060	OTA仕様-仮想マシン仕様	IS発行初版					01-10	JIS化不要		
24727-1	プログラムI/F-構造	IS発行初版					07-01	JIS化不要		
24727-2	プログラムI/F-汎用カードエッジ	IS発行初版					08-09	JIS化不要		
24727-3	プログラムI/F-アプリケーションIF	IS発行初版					08-11	JIS化不要		
24727-4	プログラムI/F-APIアドミニストレーション	IS発行初版					08-10	JIS化不要		
24727-5	プログラムI/F-試験	FCD			10-03			JIS化不要		
24727-6	プログラムI/F-認証プロトコルの登録	FDIS				09-10				
24787	オンカードマッチング	FCD			10-03					
24789-1	カードサービスライフ-利用者ガイド	CD		10-02						
24789-2	カードサービスライフ-評価項目	CD		10-02						
TR29123	近傍型ICカード-相互運用性	TR発行初					07-12			

	規格番号	規格の名称	現状 (実績)	今後の計画(見通し)							
				WD	CD	FCD	FDIS	Pub.	JBMA/JIS		
SC28	10561	クラス1, 2プリンタのスループット測定方法	IS改訂版発行						<b>99.05</b>	JBMS/JIS化不要	
	11159	複写機仕様書様式	IS発行						<b>97.03</b>	デジタル複写機仕様を織込み、H13 JIS化	
	11160-1	クラス1, 2プリンタの仕様書様式	IS発行						<b>96.08</b>	JBMS/JIS化不要	
	11160-2	クラス3, 4プリンタの仕様書様式	IS発行						<b>96.08</b>	JIS B 9527改正作業中原案提出: H21.10予定	
	13660	モノクロ画質測定方法	IS発行				済(97)		<b>01.09</b>	H12 JIS化(JISX6930)	
	13660-1	13660改訂ーバンディング測定を含むモノクロ画質	2nd WD作成	01.05							
	14473	イメージスキャナ仕様書様式	IS発行						<b>99.04</b>	JEITA担当	
	14545	複写生産性測定方法	IS発行						<b>98.12</b>	H12 JIS化	
	15404	ファクシミリの仕様書様式	IS発行						<b>00.07</b>	CIAJ担当	
	15775	複写機用カーテストチャート	IS発行						<b>99.12</b>	H13 JIS化	
	15775 AMD	アナログテストチャートによるカラー複写機の画像再現性を特定する方法ー実現化と適用	IS発行	01.08				05.01	<b>05.03</b>		
	18050	機械可読デジタル郵便マークの印字品質属性	IS発行			04.07		05.11	<b>06.02</b>		
	19797	16ステップカラースケールによる出力直線化(TR Type3)	TR発行	03.06				04.04	04.09	予定無し	
	19798	カラー電子写真プリンタ及びプリント機能付き複合機器用トナーカートリッジの寿命決定方法	IS発行	01.08	04.12	05.10	06.11		<b>06.12</b>	H20JIS制定 JISX6932	
	19799	印刷ページの光沢度均一性の測定法	IS発行	01.08	04.12	05.10	<b>07.02</b>	<b>07.03</b>	<b>07.03</b>	予定無し	
	21117	複写機・複合機の仕様書様式及びその関連試験方法	IS発行			05.03			05.12	(H13 JIS化済み)	
	21118	データプロジェクタの仕様書様式	IS発行			04.07			05.08	J改訂作業中(JISX6911)	
	24700	リユース部品を含むオフィス機器の品質と性能	IS発行	01.05				05.01	05.07	H19JIS制定 JISX6912	
	24705	デジタル及びアナログテストチャートによるカラーデバイスの画像再現特性記述法(TR)	TR発行	03.08				04.12	05.10	予定無し	
	24711	カラーインクジェットプリンタ及びプリント機能付き複合機器用インクカートリッジの寿命決定方法	IS発行	04.05	04.12	05.08	06.11		<b>06.12</b>	H20JIS制定 JISX6937	
	24712	消耗材の寿命測定用カラーテストチャート	IS発行	04.05	05.02	05.12	06.11		<b>06.12</b>	H20JIS制定 JISX6938	
	24734	デジタル印刷生産性測定	IS発行	04.03	07.08	08.10	09.01		09.03	H21年度JIS化 応募済み	
	24735	デジタル複写生産性測定	IS発行	04.03	07.08	08.10	09.01		09.03	H21年度JIS化 応募済み	
	24790	ハードコピー出力の画質属性測定ー2値単色のテキスト及びグラフィック画像	CD	<b>07.06</b>	<b>08.06</b>						
	28360	電子機器からの化学物質放散速度の測定	IS発行					07.03 DIS	07.09	JIS化作業中原案提出: H21.4予定(JISX6936)	
	28360 COR1	電子機器からの化学物質放散速度の測定							08.01	同上	
	29102	カラーインクジェットプリンタ及びその複合機のフォト画像用インクカートリッジ寿命測定方法	CD	08.03	<b>09.08</b>						
	29103	カラーインクジェットプリンタ用カートリッジ寿命測定のためのフォト標準テストページセット	WD	09.02							
	29112	白黒レーザープリンタの解像力測定方法およびテスト・チャート	CD	<b>08.06</b>	<b>09.10</b>						
	29142-1	Cartridge Characterization Standard -- Part 1: General : terms, symbols and notations	NP成立	09.06	<b>10.12</b>						
	29142-2	Cartridge Characterization Standard -- Part 2: Labeling	NP成立	09.06	<b>10.12</b>						
	29142-3	Cartridge Characterization Standard -- Part 3: Environment	NP成立	09.06	<b>10.12</b>						
29142-4	Cartridge Characterization Standard -- Part 4: Ink cartridge attributes	NP成立	09.06	<b>10.12</b>							
29142-5	Cartridge Characterization Standard -- Part 5: Toner cartridge attributes	NP成立	09.06	<b>10.12</b>							
29183	片面単票原稿でのデジタル複写生産性	CD	<b>09.01</b>			<b>10.05</b>			FCD投票期間中		
29186	オフィスカラー機器におけるカラーガママトマッピングアルゴリズムのテスト方法	NP成立									

(注)WD,CD,FCD,FDISは投票開始予定日を示す。

規格番号	規格の名称	現状(実績)	今後の計画(見通し)						
			WD	CD	FCD	FDIS	Pub.	JBMS/JIS	
SC35	9995-1	Keyboard layouts for text and office systems – Part 1: General principles governing keyboard layout	IS発行				09.08	09.10	
	9995-2	Keyboard layouts for text and office systems – Part 2: Alphanumeric section	IS発行				09.08	09.10	
	9995-3	Amendment 1 Keyboard layouts	FCD			09.08			
	9995-4	Keyboard layouts for text and office systems – Part 4: Numeric section	IS発行				09.08	09.10	
	9995-5	Keyboard layouts for text and office systems – Part 5: Editing section	IS発行				09.08	09.10	
	9995-6	Keyboard layouts for text and office systems – Part 6: Function section	IS発行					06.09	
	9995-7	Keyboard layouts for text and office systems – Part 7: Symbols used to represent functions	IS発行				09.08	09.10	
	9995-8	Keyboard layouts for text and office systems – Part 8: Allocation of letters to the key of a numeric keypad	IS発行				09.08	09.10	
	9995-10	Keyboard layouts for text and office systems – Part 10: Conventional symbols and methods to represent graphic characters not uniquely recognizable by their glyph on a keyboard and in documentation	WD	10.02					
	TR11580 (WG7)	Model for describing user interface objects, actions, and attributes	TR発行			PDTR 05.09	DTR 06.04	07.03	
11581-1	Icon symbols & functions Part 1: Icons-General	IS発行					00.04	H18.11JIS制定	
DTR11581-1 (WG7)	User interface icons – Part 1: Introduction to and overview of icon standards	DTR	07.05		PDTR 08.07	DTR 09.08			
11581-2	Icon symbols & functions Part 2: Object Icons	IS発行					00.04	H18.11JIS制定	
11581-3	Icon symbols & functions Part 3: Pointer Icons	IS発行					00.04	H18.11JIS制定	
11581-4	Icon symbols & functions Part 4: Control Icons	2nd CD 作成	95.07	2nd 03.12	—	—	—	H17.07キャンセル	
11581-5	Icon symbols & functions Part 5: Tool Icons	IS発行	95.07		00.12	03.12	04.05		
11581-6	Icon symbols & functions Part 6: Action Icons	IS発行					99.02	H18.11JIS制定	
TR11581-10 (WG7)	User interface icons – Part 10: Framework and general guidance	FCD	07.05	08.08	10.02				
TR11581-40 (WG2)	User interface icons – Part 40:	FCD	08.08	09.04	10.02			日本提案	
13251	Collective standard – Graphical symbols for office equipment	IS発行		00.10		04.01	04.05		
14754	Pen-Based Interfaces; Common gestures for Text Editing with Pen-based Systems	IS発行					99.06	H17.11JIS制定	
15411	Segmented keyboard layouts	IS発行					99.10		
15412	Keyboard layouts for portable computers	IS発行	96.04		98.05	99.07	99.09 (修正版) 00.09		
TR15440 (WG1)	Technical Report on future keyboards & other associated input devices & related entry methods	TR発行	99.11		PDTR 03.12	DTR 04.06	05.07		
15897 (WG5)	Procedures for registration of cultural	FCD			08.02				
18021	User interface for Mobile tools	IS発行	99.06	00.10	01.04	01.12	02.02	日本提案 H17.11JIS制	
18035	Icon symbols and functions for controlling multimedia applications	IS発行	01.04		02.05	02.12	03.02		
18036	Icon symbols and functions for WWW browser	IS発行	01.04	01.11	02.05	02.12	03.10		
TR19764 (WG5)	Guidelines, methodology, and reference criteria for cultural and linguistic adaptability in information technology products	TR発行	03.05		PDTR 03.12	DTR 04.06	05.11		
TR19765 (WG6)	Survey of existing icons and symbols for elderly and disabled persons	TR発行	03.05		PDTR 05.02	DTR 06.03	07.06		
TR19766 (WG6)	Design requirements concerning icons and symbols in IT for elderly and disabled persons	TR発行	03.11		PDTR 05.02	DTR 05.09	07.06		

規格番号	規格の略名称	現状(実績)	Stage date					対応JIS
			WD	CD	FCD	FDIS	Pub.	
SC35 24738 (WG2)	Icon symbols and functions for multimedia link attributes	IS発行	04.06	05.02 05.06	05.08	06.06	06.11	
24752-1 (WG8)	Universal remote console – Part1: Framework	IS発行	05.03	05.10	06.04	07.11	08.02	
24752-2 (WG8)	Universal remote console – Part2: User interface socket description	IS発行	05.03	05.10	06.06	07.11	08.02	
24752-3 (WG8)	Universal remote console – Part3: Presentation template	IS発行	05.03	05.10	06.04	07.11	08.02	
24752-4 (WG8)	Universal remote console – Part4: Target description	IS発行	05.03	05.10	06.04	07.11	08.02	
24752-5 (WG8)	Universal remote console – Part5: Resource description	IS発行	05.03	05.10	06.04	07.11	08.02	
24755 (WG4)	Screen icons and symbols for personal mobile communication devices	IS発行	2ndWD 05.08	05.10	06.04	07.08	07.12	日本提案
24756 (WG6)	Framework for specifying a common access profile(CAP) of needs and capabilities of users, systems, and their environments	IS発行	04.10	05.09	06.10 2nd 07.10	08.09	09.03	
24757 (WG1)	Keyboard interaction model – Machine-readable keyboard description	IS発行	05.05	06.05	06.10 2nd 07.03	08.04	08.10	
TR24784 (WG1)	Keyboard layouts for alphanumeric inputs Description of ISO/IEC 9995 issues regarding users needs and necessary innovations	TR発行			PDTR 06.11	DTR 08.01	<b>09.04</b>	
TR24785 (WG5)	Taxonomy of cultural and linguistic adaptability user requirements	TR発行	05.07			DTR 07.10	09.02	
24786 (WG6)	Accessible user interface for accessibility settings	IS発行	06.03	07.04	07.10 2nd 08.07	09.03	<b>09.12</b>	日本提案
29136 (WG6)	Accessibility functions for personal computers	2ndCD	07.04	2ndCD <b>10.02</b>				日本提案

第108委員会

規格番号	規格の名称	現状(実績)	今後の計画(見通し)					
			NP	CD	CDV	FDIS	Pub.	JBMS/JIS
IEC60065	オーディオ・ビデオ及び同種の電子機器:安全要求(第7版)	IS発行					<b>01.11</b>	07.07JIS改正
	同、修正No.1(Am.1)	IS発行		02.07	04.03	05.04	<b>05.10</b>	H21年12月JIS追補版制定
	同、修正No.2(Am.2)	<b>CDV</b>		07.03	09.09	10.03		
IEC60491	写真用電子フラッシュ(第2版)	IS発行					<b>84.01</b>	
IEC60950	パート1:情報技術機器の安全性(第1版)	IS発行			00.05	01.09	<b>01.04</b>	H21年4月JIS制定
	同、Ed.2	IS発行		03.07	04.04	05.07	<b>05.12</b>	H22年12月JIS制定予定
IEC60950-1	同、修正No.1	IS発行	07.08	07.08	08.10	09.10	<b>10.03</b>	
IEC60950-21	パート21:遠隔電力供給	IS発行	00.01		01.03	02.09	<b>02.12</b>	JIS化予定無
	パート23:統合ロボティクスを有する大型IT機	IS発行	01.01	03.01	04.04	05.04	<b>05.09</b>	JIS化予定無
	パート22:屋外設置機器	IS発行	01.01	03.01	04.07	05.03	<b>05.10</b>	JIS化予定無
IEC60990	タッチカレント測定方法(第2版)	IS発行					<b>99.08</b>	JIS化予定無
IEC61903	情報技術及び通信技術機器のエネルギー効率限度値	廃止	03.08	06.01	06.01	06.10	07.03	2006.09廃止
IEC62018	ITEの消費電力測定法(第1版)	IS発行		00.04	01.07	03.03	<b>03.06</b>	H15年度JIS原案作成⇒TRに変更
IEC62075	オーディオ・ビデオ、情報通信技術(ICT)機器の環境規格	<b>IS発行</b>	04.07	06.01	07.02	07.10	<b>08.01</b>	H22年5月JIS制定予定
IEC62623	オーディオ・ビデオ、情報通信技術(ICT)機器の環境測定							
IEC/TR62102	インターフェースの分類	TR発行			00.04		<b>01.03</b>	
	同、Ed.2	TR発行		03.12	DTR 04.12		<b>05.05</b>	
IEC62151	電気通信網に接続される電気機器の安全性(第1版)	IS発行				00.03	<b>00.05</b>	
IEC/TS62367	通信回線網に接続される回路上のxDSL信号の安全の側面	TS発行	02.06		DTS 03.06		<b>TS 04.01</b>	
IEC62368-1	オーディオ・ビデオ、情報通信技術(ICT)機器:安全要求	IS発行	02.06	06.12 2nd CD	07.11	09.04	<b>10.01</b>	
IEC/TS62441	偶然に引き起こされるロウソクの火による発火	TS発行	05.04		DTS 06.03		<b>TS 06.12</b>	